

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|-----------------------------------|--|
| 青崎 智行 | あおさき ともゆき | 白鷗大学経営学部 | <p>◆国際交流基金アドバイザー業務委嘱(2016年度)</p> <p>◆小山市・那須塩原市広域連携プロモーション事業戦略策定会議座長(2016年度)</p> <p>◆栃木県とちぎブランド力向上会議専門部会 専門部会長(2016年度～)</p> <p>◆栃木県とちぎブランド力向上会議委員(2017年度～)</p> <p>◆栃木県「いちご王国」ワークショップ ファシリテーター(2017年度)</p> |
| 赤上 陽一 | あかがみ よういち | 秋田県産業技術センター | IoT技術の躍進を支える電子デバイス、通信技術のさらなる高度化が要望されている。そのためには必要とされる半導体技術やストレージ技術が著しい発展が待望されている。我々はこれらのユーザー技術の基盤となる研磨技術の更なる飛躍を実現するために、いわゆる電界砥粒制御技術を発明し提案している。このような日本固有の製造技術が極めて有用である。さらにこのような流体の配置制御技術から攪拌技術に展開し、医療技術、分析技術など多方面に展開中である。本技術群を通して、企業のイノベーションとはなんぞや、そしてこれらを基に地域活性化事業への展開を手掛けている。 |
| 安形 真 | あがた まこと | 合同会社アグリホリック / ネクストコモンズラボ西条 | <p>◆起業支援コーディネーター</p> <p>1地域10人程度の起業家に対し、経営戦略、マーケティング、ブランディング、財務会計など総合的な起業支援を継続的に行う。また起業家と地域・企業を繋げながらコミュニティ形成も行う。</p> <p>行政との連携の中で「起業＝チャレンジ」から生まれる新たな産業づくりや町の特色の創造にも貢献する。</p> <p>【実績】</p> <p>愛知県「三河の山里サポートデスク」</p> <p>愛媛県西条市「ネクストコモンズラボ西条」</p> |
| 秋元 祥治 | あきもと しょうじ | 岡崎ビジネスサポートセンター OKa-Biz/NPO法人G-net | <p>▼G-net</p> <p>NPO法人G-netは、岐阜を拠点に15年前より、中小企業の社長の右腕として熱意ある若者を半年間右腕として送り込む実践型インターンシップや、「みぎうで」就職支援を行っています。高校「政治経済」の教科書にも掲載されています。年間で1万人を超える若者に地域の中小企業の魅力を伝え、約100名が半年間等の実践型インターンシップに参画しています。「若者が選ぶ魅力的な中小企業100選」といった冊子刊行を含め、中小企業への「みぎうで」候補としての就職支援も展開しています。</p> <p>▼OKa-Biz</p> <p>OKa-Bizは岡崎市・岡崎商工会議所が設置した「売上アップに特化」した中小企業支援センターです。富士市産業支援センター・f-Bizをモデルに全国最年少センター長として、成果続出から相談は1ヶ月半待ちに。開設2年で当初目標の300%を超える来訪相談件数や、年間約50件の視察受け入れ、首相官邸での表彰や中企庁長官も来訪。f-Biz・OKa-Bizをモデルに、各地で新たな産業支援センターの立ち上げがH28年度以降続々と予定されています。</p> |
| 浅尾 均 | あさお ひとし | 有限会社 浅尾計画事務所 | <p>全国各地における地域振興・観光振興・交流人口の増加などの取り組みについての課題、問題点、疑問に対するの解決策や、それを導き出すためのアイデアの提示、あるいは解決策を導き出すためのアドバイス、ワークショップの支援、コンサルティング、プランニングなどを仕事としています。</p> <p>現在は、「インバウンド」、「新たな広域連携」、「人材育成」、「ニューツーリズム」などをテーマに、各地にて実践的な事業に関わっています。</p> |
| 阿部 真一 | あべ しんいち | 岩村田本町商店街振興組合 | 空き店舗対策として、様々な事業を実践している。アントレプレナーを育成する「本町手仕事村」コミュニティビジネスのモデルとされる、商店街直営の惣菜店「本町おかず市場」子育て支援事業から生まれた、商店街直営の学習塾「岩村田寺子屋塾」、短時間託児や子育てサロンの拠点「子育てお助け村」さらには商学連携の「高校生チャレンジショップ」地域ブランド創生の「三月九日青春食堂」など、直営12事業を1理事1事業制を敷いて人材育成を展開。大型集積のイオンとは顧客の視点から共存共栄を図ることに転換、電子マネー「佐久っ子ワオンカード」を基軸に連携。全国的にも注目され協力体制をとる。今後はさらに地域コミュニティの担い手としての商店街のあり方を目指して、中小企業庁「ちいさな企業成長本部」などで、今後の「住み良いまちづくりの商店街」のあり方を提言。全国に講演活動の場も広がっている。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|----------|---------------------------------|---|
| 安部 敏樹 | あべ としき | 一般社団法人リディラバ/株式会社Ridilover | <p>■社会課題・地域課題をテーマとしたスタディツアーを企画しあらたな市場を開拓。 ■被災地での教育旅行をした復興支援(例:釜石での被災後初の100人規模での教育旅行など)。 ■安倍首相が座長を務める観光立国推進会議での「アクションプログラム2015」として政策化。 (11)国民の旅行振興に向けた意識醸成・環境整備」の項目において「若者に旅の意義や素晴らしさを伝える「若旅★授業」を地方で拡大するとともに、若者の関心が高い、エネルギーや地域医療など様々な社会テーマを扱ったツアー商品の造成を推進し、より多くの若者が旅に出るきっかけを創出する。【新規】」という形で記載。 ■観光から移住定住・産業振興・事業承継・MICE誘致を一貫して実現(例えば林業のツアーを通して5人の事業承継・移住の実現など。これまで20人以上がツアーを通しての移住や2拠点居住を実現したと思われる)。 ■600人以上のボランティアマネジメントを通しての課題の洗い出し。 ■社会起業家の経営者向けカンファレンスR-SIGを300人規模で3年連続開催。京都・つくばなどの地域開発に寄与。 ■東大の講義にて200人の学生に対し、ソーシャルビジネスのためのチームビルディングなど講義から30以上のプロジェクトを創出。講義をまとめた著作『いつかリーダーになる君たちへ』(日経BP)がAmazonで部門別1位を達成。 ■被災地の医療現場における鍼灸師などを含めた新たな医療チーム体制の構築と実施・ ■R-SIGにおける「ソーシャルビジネスのプログラム”CrossPoint”」、観光庁研修、青森県研修、スタディツアーなどを通して100地域150社以上のインキュベーション支援。 ■述べ20校以上の教育旅行の実施。 ■スタディツアーなどの事業を通して扱うテーマは「農・林・水産業」「環境」「医療・介護・福祉」「貧困」「地域活性化」「公共事業」など200弱。 ■東証一部上場企業なども含め企業の幹部研修や人事研修としての地域課題・社会課題の現場での研修事例も10以上 ■アカデミックなアクティブラーニング、ファシリテーションの講義などを東京大学などの大学教員から各地の教育委員会や校長向けに実施 【リディラバの事業に関連するURL】 [Travel The Problem:スタディツアー専門の旅行サービス] https://traveltheproblem.com/ [TRAPRO:社会問題の百科事典] http://www.trapro.jp/ [TRAPRO移住口コミ:地域の気になる口コミが集まるサイト] https://iju.trapro.jp/ [「社会起業」の最先端を知る]招待制カンファレンス:R-SIG(アール・シック) http://ridilover.jp/R-SIG/ [リディラバ(HP)] http://ridilover.jp/</p> |
| 天野 礼子 | あまの れいこ | NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」 | <p>H23年より、島根県西部の高津川流域の三市町、益田市、津和野町、吉賀町に「総合特区」への立候補を推め、当選。「アドバイザー」を務めた。事務局長を務めるNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」では養老委員長と共に、高津川流域に「二地域居住から定住へ」を進めてきている。</p> |
| 飯倉 清太 | いいくら きよた | 特定非営利活動法人 サブライズ | <p>PDCAではなく「D」から始めるフィールドワーク「DPDCA」 「若者と行う地域活性」を軸に展開している</p> <p>現在の地方問題には「高齢化」「少子化」「人口流出」など様々な問題が複合的に絡んでいます。これを是正するには短期的な目標と中長期的な目標設定が必要となります。そこで私たちNPOサブライズでは静岡県東部伊豆を中心に高校生や大学生と取り組む地域活性を実施しています。大きな目標を掲げることも大事ですが実際はスモールスタートがとても重要となります。様々なディスカッションやセミナーを開催しつつ、最短の地域活性と行動力を育成するために「清掃活動」を中心とした活動にてリーダー育成を実施。また現場だからこそ得ることの出来る「連絡調整能力」「遂行能力」「討論能力」「コミュニケーション能力」などを学んでいます。これを基にして地域の素材を再確認し、編集そしてバリューを付けて再発信を行う事を実施しています</p> |
| 飯田 修 | いいた おさむ | 独立行政法人医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター筑波研究部 | <p>漢方薬など医薬品原料となる優良生薬の国内生産を目指し、長年薬用植物の栽培と育種研究に従事。その間、茨城県つくば市、北海道名寄市、静岡県南伊豆町、鹿児島県中種子町にて勤務し、センキュウ、トウキ、ミシマサイコ、ウコン、ガジュツなど北方系から南方系まで多種多様な薬用植物の育成・栽培を行ってきた。さらに薬用植物の栽培指針と品質評価の冊子作成に携わり、栽培地での栽培指導や助言を行ってきた。今後、薬用植物の国内栽培の普及と振興を目指し、国産生薬の安定供給体制の構築に向け、生産のための支援を行って行きたい。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|-------------------------------------|---|
| 飯田 一民 | いいた かずたみ | 有限会社 食創造さんだかん | <p><アドバイザー/伝承名人としての派遣履歴他> 北檜山町・松前町・和寒町・下川町・長沼町・日高町・占冠村・小清水町・北海道商工会連合会講師・網走市・道南3町(松前・上ノ国・江差)広域連合・留萌支庁・空知支庁事業評価委員・全道市長会基調講演など</p> <p><アドバイザー/伝承名人としての実施取組み> 下川エミュー肉燻製開発・松前町「あわびごはん」開発・瀬棚町海産加工品開発・その他商品名・デザイン等の創出・百貨店北海道物産展企画協力(三越・大丸・西武・丸井等) 「農家の友」「しゃりばり」等に執筆「生産現場からの新しいビジネスチャンス」など 道内各地域の道の駅再生活性化事業・地元ブランドの推進を手掛け「食」からの地域活性化を勧めている。 ※ 道の駅「ライスランドふかがわ」設置企画協力 ※ 道の駅「北前船松前」総合プロデュース 他 ※ 生産現場と都市部との協働事業として「北海道応援宣言プロジェクト!!!」 札幌の飲食店で毎月道内各地域の食事会を開催(総合企画監修) ※ 百貨店と協力して北海道地域・生産者の食材・加工品のトライアル販売を実施</p> <p><(有)食創造さんだかん概要> 1983年珈琲専門店サンダカンとして開店 1988年レストランサンダカンとして現地に新規移設開店 1993年全国北海道物産展へ参画、(株)三越・(株)大丸他 1999年食創造さんだかん工房として食肉加工工房を併設する 2003年深川市の委託を受け、「道の駅」内でレストラン運営</p> <p>2014年深川市ものづくり事業で「牛こら」「旨とん」の商標特許取得</p> |
| 池上 文雄 | いけがみ ふみお | 千葉大学 環境健康フィールド科学センター | <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献支援事業の一環として、各地の自治体の市民向け薬草講座などで、市民参加型で身の回りの身近な薬草探索などを実践。 ・科学技術振興機構主催のサマー・サイエンスキャンプを開催して全国の高校生を対象に漢方と薬草の実践講座、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の高校生を対象に教育研究指導などを実践。 ・東日本大震災の復興と漢方薬資源植物の国産化推進の一環として、福島県、宮城県を中心に産官学連携の会津人参や当帰等の薬草栽培を通じた地域産業活性化の推進を支援。 ・「漢方と薬草」をキーワードとした「夏休み薬草教室」「地域力向上支援事業」などの効果的な協働や共創を生み出し、また、内発的な活動を支援するための情報発信などを実践。 |
| 石崎 英治 | いしざき ひではる | 株式会社クイージ / 株式会社おおち山くじら / NPO法人伝統肉協会 | <p>北海道新冠町、新得町及び島根県美郷町において、エゾシカやイノシシ等の野生鳥獣における生産工程のマネジメントや商品企画、農村地域における体験ツアー等の観光・交流の取組に携わる。 また、イベントへの臨時出店、テレビ・ラジオ・新聞をはじめ各メディアへの出演、料理教室の実施等を通じて「野生鳥獣を食べる文化」の普及・啓発活動を精力的に展開。</p> |
| 石原 修 | いしはら おさむ | 生活協同組合 コープおきなわ | <p>1、6次産業化での地域へのアプローチ ①1次産業側に対し加工所の設置と販売所の設置でのお手伝い ②1次、2次、3次が連携した商品開発を行い、1次産業側で商品の権利を持ち、地域振興につなげる、両方からのアプローチでお手伝いをしています。 2、キャリア教育での地域へのアプローチ。 小中学生と一緒に商品開発を行うことで、地域への愛着(誇りづくり)をお手伝いしています。</p> |
| 石山 純恵 | いしやま すみえ | (株) クリフ | <p>地方銀行や総合病院での管理職研修などを行っています。講義をして「良かった」だけの研修ではなく見える研修、数値化する研修を企画実施しています。福島県を取り巻く状況で国際機関との会議の議事録作成や翻訳等を行っています。自らの起業で女性の雇用を創出し女性の生きがい作りに寄与してと思っています。今後も女性の活躍、女性の創業を支援していきたいと思っています。平成26年5月に、ノルウエー大使館、仙台市、仙台男女共同参画センター主催の東北の復興を担う女性リーダーノルウエー視察研修に福島県代表として参加する。</p> |
| 伊勢田 博志 | いせだ ひろし | NPO法人ツーリズム研究機構 / (有)サポート・エムツウ | <p>〇イベント業務管理士(1級)及び フードコーディネーター1級(商品開発イベントメディア) 取得者、また内閣府クールジャパン地域プロデューサーとして各地の活性化事業を支援しています。</p> <p>農林水産省支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅、日帰り温泉、国民宿舎等交流ターミナルの企画・開発プロデュース 多数 ・特産品開発及び販路支援事業など多数 ・奈良県国際芸術村にぎわいづくりプロジェクト企画担当 ・北広島町農泊事業プロデューサー <p>経済産業省支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアより水俣への環境教育旅行の誘致事業プロデューサー ・地域資源を活用した商品開発及びマーケティング戦略の策定(多地域) ・クールジャパン関連事業のプロデュース(橋街道プロジェクト) <p>内閣官房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方の元気再生事業:4地域(北広島町、養父市、嵐山、兵庫県福崎町)プロデューサー ・内閣官房地域活性化モデルケース「橋街道」コーディネーター <p>企業など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティホテル連盟インバウンド誘致海外セールスコーディネーター(欧州・アジア) ・大手ハムメーカーマーケティング研修(商品開発など) ・シティホテルなどのマーケティング研修(企画塾・プライダルフェアプロデュース等) ・鉄道系会社の新規事業創出・企画アドバイザー業務 など |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|-------------------|--|
| 磯田 進 | いそだ すすむ | - | 昭和大学薬用植物園では講義のほか、栽培研究や栽培管理に従事していたが、その知識や経験を通し、現在、昭和大学、昭和薬科大学、東京農業大学および放送大学で非常勤講師として教育指導を行っている。また山梨県や東京都など各地で市民講座や自然観察会を通し、自然の大切さや薬草の重要性を紹介している。これまでの経験を生かし、社団法人東京生薬協会の薬用植物栽培指導員として各地で薬用植物に関わる啓蒙や栽培指導を行っている。 |
| 伊津田 崇 | いづた たかし | 株式会社アイレック | <p><まちづくり、タウンマネジメント> 中心市街地活性化協議会や行政等、関係者へのヒアリングを通して抱えている課題を把握し、支援テーマに基づいて協議会設立支援や協議会・まちづくり会社の運営・管理体制強化、事業推進のための勉強会・シンポジウム等の企画・運営・コーディネートを行い、協議会構成員や地域住民等の合意形成や個別事業の具体化等を図る。【長浜市、奈良市、田辺市等を支援】</p> <p><商店街活性化ビジョン策定支援> 商店街の強み・特徴や地域資源を生かし、3~5年後の将来像を見据えて活性化ビジョンを掲げ、具体的取組事業を構築するにあたり支援・指導を行う。【大津市、大村市、中津川市、瑞浪市等】</p> <p><地域ブランド創出支援> 地域資源の発見・発掘を行い、地域活性化への起爆剤となるように育成していくとともに、これらの資源を活かしてまちづくりにつなげていく。【豊岡町、出石そば、湖東地域等を支援】</p> <p><一店逸品運動等個店活性化支援> 一店逸品運動の推進による個店の品揃えや陳列等の指導を通して、個店を活性化させることにより、SC・商店街全体の魅力アップを図る。【大和高田市、大和郡山市、尼崎市、神戸市・新長田地区、豊田市、大村市、松江市等】</p> |
| 井手 修身 | いで おさむ | アイデアパートナーズ(株) | <p>※地域の資源(人・モノなど)を編集及び加工し、マーケティング(=売れる仕組み作り)や組織の立上げ、活性化の具体的手法を現場に入って推進します。</p> <p>◆地域資源活用型のビジネス支援と地域活性化 具体的には、観光・集客・物販領域のバリューアップとして3つ展開。 ①まち中回遊、まち歩き等観光交流事業支援、 ②特産品開発、メニュー開発、農家レストラン立上げ支援、 ③観光・集客施設の診断・再生、売上向上支援 ④観光地域づくりプラットフォーム推進機構『常務理事』日本版DMOの組織づくりを支援。</p> |
| 伊藤 数子 | いとう かずこ | 特定非営利活動法人STAND | 1991年金沢市にて企画会社パステルラボ設立。代表取締役。車いす陸上競技の観戦が契機となり、2003年から電動車椅子サッカーなど競技大会のインターネットライブ中継を開始、誰もが明るく豊かに暮らす社会を実現する「ユニバーサルコミュニケーション活動」のため2005年NPO法人STANDを設立、パラスポーツ事業を本格始動させる。「総務省u-Japanベストプラクティス」ほか多数受賞。現在、ウェブサイト「挑戦者たち」の編集長として障がい者スポーツの魅力を配信。また、スポーツイベントや体験会も開催。2014年にはボランティアアカデミーを開講。スポーツ庁スポーツ審議会委員、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会顧問、総務省情報通信審議会専門委員、日本パラリンピアンズ協会アドバイザーなども務める。 |
| 伊藤 直弥 | いとう なおや | 一般社団法人栗のなりわい総合研究社 | 粟栽培、栽培研究、農産加工、販売、栗を活用した地域振興のための講習と講義の実践、栗以外の作物の栽培、加工、の研究と販売 |
| 伊東 将志 | いとう まさし | 夢古道おわせ | <p>官民一体となった観光交流事業「夢古道おわせ」の管理運営。 ①地元集落のお母ちゃんをグループ化し、各地にチームを形成。 集落の食文化の伝承をテーマにランチバイキングによる交流人口増加を図る。 ②間伐材活用によるイベント「全国一斉100のありがとう風呂」を主催。 全国47都道府県400カ所以上の温浴施設で導入実績あり。 地域資源であり、後継者不足等で課題にもなっている一次産業の問題に独自の手法でアプローチし、全国各地より同時多発的にメディア掲載することを得意としております。</p> <p>また、都市部の若者×地域の漁村・農村集落をテーマに人材のマッチングも行う。 全国の自治体や商工会・商工会議所において官民一体のまちづくりや地域資源活用による取組みへの支援も行っています。</p> |
| 井上 将太 | いとう えしょうた | 井上地域づくり事務所 | <p>○森林・木材を活用した新たな商品やサービスの開発及びマーケティング ○中山間地域などでの体験型観光のプログラム及び仕組みづくり(廃校活用など) ○住民参加のまちづくりに向けての場のプロデュース(ワークショップ運営) ○中心市街地でのソフト事業のプロデュース ○1次産業分野での環境教育のプログラム開発 ○各種セミナー・講演講師(講演実績:安芸市商工会議所女性部、香美市公民館、高知県婦人会、吉野町まちづくりセミナー)</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|---|---|
| 井上 拓磨 | いのうえ たくま | HanaLab./一般社団法人ルーブサンパチ | 2012年に長野県上田市に長野県初となるコワーキングスペースHanaLab. を開設。現在は上田市内に3店舗有し、総床面積1000坪の日本最大規模のコワーキングスペースを運営している。また、単純なコワーキングスペースにとどまらず、全国的にも珍しい、行政、商工会議所や経済団体と連携し様々な地域課題に取り組んでいる。 <主な取り組み事例> ・空き店舗活用したコワーキングスペースを3カ所開設 ・上田市・商工会議所・産学官コーディネート組織と連携した創業支援 ・インターンを活用した学生の社会との接点作り ・子育て中の女性の社会復帰支援 ・移住定住に関する取り組み |
| 井上 俊彦 | いのうえ としひこ | 株式会社 コムブレインズ/ 株式会社ジャパブランド マーケティング | ※海外向けブランディング(食・観光)※地域ブランド商品(食・伝統工芸品)の輸出促進※地域のインバウンド観光促進※地域における海外情報発信(SNS・メディア活用)※地域におけるDMO設立支援・地域プロデューサーの育成 |
| 井上 弘司 | いのうえ ひろし | CRC地域再生診療所 | ○全国各地にて、観光・ツーリズム・6次産業化・雇用創造・中山間地域振興等の講演、年間指導 1. 地域診断の実施(地域課題の整理分析)および課題に基づいた人材育成 2. 地域再生・地域振興に必要なアドバイスの実施 ・グリーン・ツーリズム、ニューツーリズムの推進支援 ・DMO、観光まちづくり事業体の設立指導 ・地域再生の手法や地域づくり・人づくり ・地域資源開発(6次産業化支援) 食、文化歴史、直売所、農村レストラン、農家民宿、体験プログラム、ツアー造成指導 有害鳥獣対策と活用 3. 地域人材育成プロデューサー |
| 伊原 和彦 | いはら かずひこ | E T C 教育旅行コンサルタント | ◆観光・交流(教育旅行や着地型観光誘致) 観光協会・商工会・受入協議会等の教育旅行誘致アドバイザー 体験プログラムの開発・インストラクター育成 第一次産業を活用した民泊受入組織の人材育成・マーケティング支援指導 観光振興・地域活性化をテーマとした講演・セミナーの講師 着地型観光(ニューツーリズム)の講師や商品造成・人材育成・支援指導 ◆地域産業・イノベーション・農商工連携 地域活性化支援アドバイザー 地域特産品の開発・食の開発やマーケティング支援指導 |
| 今村 展大 | いまむら のぶひろ | I・Sコーポレーション | 沖縄県において地域産品の企画開発(沖縄県最優秀県知事賞受賞)、Eコマース、WEBマーケティング会社設立を経て、2005年沖縄県産業振興公社専門アドバイザー、沖縄県商工会連合会エキスパートに就任。その後、地域特化型グルメサービス「ちゅらグルメ」を創設。県民限定のお得なサービス「ちゅらとく」創設など観光媒体業において数々のサービスの立ち上げを行う。2011年からは更なる地域発展を描くビジネスを追求すべく、行政との連携を深め、2013年には日本初の取り組みである映画をツールとした地域活性化を沖縄県名護市名護大通にて実施。映画「がじまる食堂の恋」を製作、全国公開並びに全国の薦屋にてレンタル・セル展開。その後は、マイナビとのジョイントベンチャーによる台湾香港向け観光媒体「珍遊沖縄」を創刊。2014年には株式会社全国商店街支援センター「商店街よろず相談アドバイザー」、経済産業省キーパーソンに就任する。2016年には、これまで培ってきたブランディングノウハウを体系化し、地域メディア及びブランド構築に主力をおいて活動している。 |
| 岩崎 徹 | いわさき とおる | 株式会社アイダ・アライアンス | ①地域ビジネスの事業化支援: 自ら地域での事業経験から、事業計画の策定、資金調達、マーケティング、PRなどを具体的にサポートし、資本参加して事業提携も行います。 ②地域コミュニティづくりの実践支援: 地域活性化のきっかけとなるコミュニティ形成を、場やきっかけを地域住民とともにつくります。 ③地域人材の発掘と育成: 地域を担う人材塾の総合プロデューサーとワークショップのコーディネートなどを行います。(例: こしがや都市創造未来塾、行田みらい塾など) ④地域情報の発信: 地域資源を発掘し、各種メディアで発信します。 ⑤マーケティング、PR支援: 地域ビジネスのマーケティングやPR業務をサポートします。 ⑥地域事業に関するイベント等の講演、ファシリテーション、司会進行。 |
| 岩崎 亘 | いわさき わたる | 株式会社イージェイ | 株式会社リクルート在籍時、クライアントである東証一部上場プライダル企業と、伝道師の地元であるみかん農家(実家含む)を繋ぎ、CSR×教育研修として、人手不足の農家の農作業の手伝いや、廃棄していた摘果みかんを使用した酢を開発し特産品として販売するというプロジェクトの推進を支援。 株式会社フォーバルでは、神奈川県伊勢原市にある「石田牧場」の6次化事業であるジェラート屋の立ち上げ～軌道に乗せるところまでのコンサルティングを行い、人気店に育て上げた。 農業法人である株式会社和郷では、都市と農村を繋ぐ「農園リゾート」という新しいコンセプトを打ち出した滞在型施設「THE FARM」や「THE FARM CAFE」等を立ち上げた。 現在は、廃棄するか二束三文で売られてしまう規格外農産物や未利用農産物を活用し、コールドプレスジュースという付加価値の高い商品を製造・販売している。熊本県合志市の農産物だけで作ったジュースを開発し、東京にある自社店舗でPRしながら販売することで、地域や地域の特産品の認知度向上に貢献するなど、トレンドに上手く乗せた地域活性化を行っている。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|----------|----------------------------|--|
| 臼井 純子 | うすい じゅんこ | オフィス・ウスイ/NPO法人日本風景街道コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化にかかわるさまざまな事業について、経営視点から事業の構築、プロモーション、継続的な運営手法についてアドバイスをおこなっています。 ・地域の資源「ひと、もの、金、情報」の有効な活用方法、人材発掘と育成など、その地域の特性を活かした地域活性化策（観光、産業振興、移住・交流など）を、地域の住民とともに、地域に根付くやり方で実施していくことを何より大切に、取り組んでいます。 ・地域の事業者の「家業」をどう「企業」まで底上げしていくか、経営のイロハについてわかりやすく指導・育成を実施しています。 ・地域リーダー、女性の起業化についての育成・指導・助言を行っています。 |
| 内田 勝規 | うちだ かつのり | (株) オフィス内田 | <p>《講演記録》 北海道経済同友会、中小企業家同友会、経営合理化協会、北海道庁、鹿児島県、各地商工会、帯広信金、北海道銀行、福岡銀行、楽天、目白大学など</p> <p>《講演テーマ》 地域ブランドについて、売れる物作りについて、食の可能性と課題、首都圏の顧客ニーズについて、北海道物産展に見る地域ブランド</p> <p>《マスコミ紹介記事》 <テレビ> 日本テレビ『リアルタイム』『秒ヨミ』『ズームインスーパー』『ズームサタ』『スッキリ』 テレビ東京『ルピコンの決断』『日曜ビッグバラエティ』『グルメ魂』『戦士の逸品』『ワールドビジネスサテライト』 NHK『クエスタ』 BSフジ『プライムニュース』、NHK、テレビ朝日、TBS各番組 北海道各局『HBC』『STB』『HTB』『UHB』『TVH』</p> <p><新聞> 日本経済新聞、朝日新聞、日経MJ、北海道新聞、十勝毎日新聞</p> <p><書籍> フォーブス、週刊ダイヤモンド、日経トレンディ、到知、戦略経営者、ストアーズレポート、クオリティ 新潮社『旅』（連載中）</p> |
| 内田 友紀 | うちだ ゆき | 株式会社リ・パブリック | <p>■“中規模都市・福井市（人口約27万人）にて、地域をこえた人の流れと仕事をつくる”をテーマに「未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト make.f」プロジェクトリーダー。産官学の連携プロジェクト(2016-)。</p> <p>・福井・関東・関西の人々をつなぎ、世代ごとの人の流れや新たな時代の働きかたをつくる取り組みを実施。また、ウェブ・タブロイド・映像、SNSなど複数メディアによる、参加型のプロジェクトアーカイブと発信を実施。</p> <p>□小さなデザインの教室・XSCHOOL プログラムディレクター プロジェクト・事業を立ち上げながら、学びと実践を繰り返すデザインの教室を企画・運営。次代のデザイナーを育て、地域の産業をアップデートすることを目指す。(make.fの一環)</p> <p>■福岡県福岡市（人口約150万人）にて、産官学の連携のもと、社会課題を源泉にビジネスを生むインキュベーションプログラムの立ち上げ、企画運営を担う(2013-2016)。参加者は、福岡市民と、東京・九州を中心にした大手企業の研究開発部門。デンマークデザインセンター、アムステルダムメディアラボなどとも連携。</p> <p>■成熟企業にて連続的イノベーションを起こす人材・シリアルイノベーター研究会を、国内の複数企業の研究開発部門とともに実施(2013-2015)。アメリカ・イリノイ大学工学部教授らによる研究と連携。株式会社リ・パブリックのメンバーによる監訳本「シリアル・イノベーター - 非シリコンバレー型 イノベーションの流儀」がベースとなる。本研究により見出されたイノベーターが育つ環境・関係性などの要素を、地域にも応用し、プロジェクト設計に取り組む。</p> <p>■“街の人”を主役にした新しいガイドブック、COMMUNITY TRAVEL GUIDE「福井人」の企画・出版にプロジェクト発起人の一人として関わる(2013)。掲載する人の選定・取材・執筆・資金集めまで、徹底して参加型を実現し、オンラインを含めて数千人が関わった。</p> <p>■ブラジル州政府の都市開発局にインターンシップ参加(2012)。国連サステナブル・シティ・アライアンスの州適用に向けた事例研究、導入メソッド開発、接続プログラムの検討等を行った。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|------------------------|--|
| 榎田 竜路 | えのきだ りゅうじ | 合同会社アースボイスプロジェクト | <p>■認知開発®力の高い人材の育成 「認知開発®講座」 日本の伝統文化の底にある「型」の概念に着目し、研究してきた。「型」を映画教育に応用し、認知開発®手法として体系化。その手法を各地で指導し、90~100秒の短編映像を制作させ、その過程でモノの見方が変わり、地域や企業、自分自身の新たな側面に気づくという講座。取材によりお互いを深く知ることで地域間の連携が深まるメリットもあり、これまでに日本全国のべ50箇所以上で1000名以上の受講生を輩出して来た。実施場所：秋田県、松山市、大阪市、島根県（高等技術校、中央会）、多摩地域（八王子市、羽村市、昭島市、狛江市他）、阿久根市（阿久根市、鶴翔高校）、那覇市、鳥羽市、徳島商業高校、鹿児島県薩摩川内市（薩摩川内市、川内商工高校）、岡山県津山市（津山市、津山東高校）、行方市（行方市、麻生高校）、兵庫県市川町、奈良県吉野町（吉野町、吉野高校）・川上村、九州経済産業局、中小機構、文部科学省他</p> <p>■地域や企業の中に埋もれている「埋没資産」の発掘及び可視化 認知開発®手法を応用したメディア手法「序破急モデル®」を開発。同手法を活用して制作や監修した映像は2000本に及ぶ。中小企業の連携促進やITを活用した情報配信システム構築、ブランディング等と組み合わせながら、全国に展開している。 特に企業や地域に「物語」を見出し、それを価値ある情報に編集・デザインし、グローバルに展開する能力は卓越しており、東日本大震災、熊本地震後の復興や中小企業の活性化に尽力している。</p> <p>■情報戦略立案と実行 （例）アクティブシニアの就労・社会参画を目的とした情報提供及びプロモーション 人生100年時代となり、どの地域でもアクティブシニアの活躍が期待される中、A市ではアクティブシニアの就労や社会参画を目的に各種事業を展開中。アクティブシニアの取材撮影を実施することで地元の高校生と、伝統食を広める活動を展開中のシニア手作り加工グループとの連携を推進、海外から料理専門家を招聘し、地元の食材や、グループが作った加工品を利用した料理教室を開催。高齢者と若者が料理教室で繋がることで、全く新しい商品の開発に成功。地域の若者とシニアの知恵を連携させる新しい試みとして注目されている。</p> <p>■芸術文化による国際交流・日本紹介・インバウンド復興事業 「横浜学生映画祭」「横浜開港150周年記念映画制作事業」「Tokyo Downtown Cool Media Festival」など、アジアを中心とした映像教育機関の連携事業を実施してきた実績から、日本映画大学、北京電影学院、韓国フィルムアカデミー、台湾藝術大学、iDAProjects（豪州本部）等アジア各国・地域を代表する映像教育機関及びアーティストとのパイプを有している。そのネットワーク</p> |
| 大下 茂 | おおしも しげる | 帝京大学経済学部観光経営学科/株KITABA | <p>『集客』を研究テーマとして、観光計画、地域活性化計画、中心市街地活性化計画など、地域づくり、まちづくりの分野において、『論と行動』をテーマに実践的な取組み展開を図っている。地域に軸足を置いて、地域の方々と一緒に「地域を元気にするための方法」を実践する地域密着型の活動形態のため、活動エリアは首都圏近郊に限られている。 主な実績は、東京都品川区観光アクションプラン、大田区観光振興プランに関わるとともに、両区の広域観光まちづくり事業スーパーバイザーを平成20~22年度より努める（現在はアドバイザー）。また、平成24年度より両国地区観光まちづくりグラウンドデザイン等の委員長を努める他、東京都観光部や特別区協議会の講座・シンポジウム等に関わっている。千葉県内では、佐原、木更津、いすみ、久留里、市川中山、御宿、浦安、四街道、習志野、勝浦、長生村、九十九里、多古町等、群馬県では、みどり市大間々、甘楽町、伊勢崎市境島村、下仁田町、みなかみ町、渋川市伊香保温泉の観光まちづくりに関わっている。</p> |
| 岡崎 英人 | おかざき ひでと | Okapi Service | <p>経済産業省実施の産業クラスター計画の推進機関として、広域多摩地域（埼玉県南西部・東京都多摩地区・神奈川県中央部＝TAMA地域）が世界有数の環境に配慮したものづくりの新産業創出拠点となることを目標に掲げ、TAMAのポテンシャル（多数の優秀な中小企業や理工系大学の集積など）を活かして、産学官に金融を加えた人的ネットワークの構築・活用（TAMA協会には約150名の登録コーディネータがおります。）と企業の新事業創出活動を支援する施策の立案・実行を進めました。特に、日本の他地域との「広域的な連携」や、市場に大きなインパクトをもたらす研究開発・技術開発につなげるための「大手企業との連携」、市場として魅力がある中国を初めとしたアジア、中小企業が拘りを持ってものづくりをしているイタリヤ、イノベーションのつぼとも言われるシリコンバレーの展開に力を注ぎました。 現在は、コンサルタントとして意欲ある中小企業の戦略的事業展開や自治体・支援機関とタイアップして地域産業活性化のご支援をしております。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|----------|---------------------|--|
| 尾形 恵子 | おがた けいこ | 有限会社ティップス | マーケティング、マーチャンダイジング、販売戦略や広告戦略を得意とし、現在は主に食品製造業、食品小売業、飲食業、旅館ホテル、農業法人等を中止に、①新商品開発や事業開発、店舗開発、②講演・研修業務(商品開発、マーチャンダイジング、マーケティング、事業計画作成、新規創業、販売促進等のテーマが中心)③経営改善や事業再生支援、④IT活用による販売や販促支援、広告戦略の立案や広告媒体の企画・監修等を手がけている。1998年に通産省(現経済産業省)の新規成長産業連携支援事業にて旧中小企業事業団の委託を受け、コーディネーターとして活動。2001年頃より、地方の中小・ベンチャー向け経営コンサルティング業務をメインにシフト。複数の公的支援機関等にて主にベンチャー企業や成長性の高い中小企業の新事業開発支援、アグリベンチャー支援、経営改善支援の他、公設試の研究評価や政府系の技術開発型事業の研究評価を手掛ける。2008年より3年間産学連携事業にて科学技術コーディネーター業務(H20年度文部科学省地域学術振興事業、H21年度文部科学省都市エリア産学連携促進事業、H22年度文部科学省地域イノベーションクラスタープログラム(ライフサイエンス分野))に携わった。 |
| 岡田 基幸 | おかだ もとゆき | 財団法人上田繊維科学振興会(AREC) | 地方における新事業創出、新産業創出は、日本の急務の課題ではありますが、未だ多くの課題を抱えているのが現状です。また、地方では、首都圏・大都市圏の成功モデルの単なる真似ごとだけでは解決できないことが多く、地方都市独自の事業創出、新産業創出への仕掛け・取組みが必要です。 上田市産学官連携支援施設(浅間リサーチエクステンションセンター(AREC))は、信州大学との産学官連携による新事業創出、新産業創出を目指し、上田市が文部科学省の研究交流促進法の認定と経済産業省の補助金を受け、2002年に信州大学内に設置した施設です。早や8年を経過し、地方都市発の数多くの新事業が生まれてきております。さらには、「設置以来満室」「地域中小企業180社超の有料制会員組織の構築」「事務局少人数体制」により、設置主体の公的支援にたよらない自立運営を可能にしております。「地方」という厳しい環境下ではありますが、人財をはじめとした地域の素材をじゅうぶんに活かし最高のパフォーマンスを出し続けています。 |
| 岡部 友彦 | おかべ ともひこ | コトラボ合同会社 | 12年間の地域活性化事業のノウハウを踏まえ、2012年度より愛媛県松山市三津浜地区にて地域活性化事業をとって空き家バンク、空き家活用事業、コミュニティアセット事業を行っている。 弊社では、地域に直接入り、地域の人々、企業とともにボランティアではなく、事業としてのまちづくり事業の構築を行っています。 【街や地域の新しいイメージを創り出す】 まちづくりや地域活性化プロジェクトなど、地域の活動には、様々な人の協力が必要となります。プロジェクト自体を多くの人々に知ってもらうためにも、発信手法の検討は欠かせません。 コトラボでは、イギリスの都市再生で行われているプロジェクトの 프로모ーションムービーにならって、街の現状や眠っている「資源」を可視化させたり、統計データを一目で分かるようなヴィジュアル化などを取り込みながら、プロジェクトやその地域に興味をもってもらえるような映像を創っています。 http://vimeo.com/52294907 【地域の空き家と借りたい人とをマッチング】 2013年より愛媛県松山市より地域活性化事業を受託。築150年の古民家なども多く残っている港町三津浜地区の空き家を一軒一軒調査し活用可能な物件を収集、三津浜町屋バンクと称して広く利用者を募る。 http://mitsuhamaru.com 【地域資源を活用した地場産業づくり】 日雇い労働者の街であった横浜寿町の空き部屋を建物所有者と連携して旅行者向け宿として改装し、事業として行いつつ新しい人の流れを創り出している。2004年から横浜寿町を拠点に街の資源を有効活用し、街に新たな産業を創る取り組みを行っている。横浜では地域にある簡易宿泊所の空き家を活用し旅行者向け宿に変貌させたYOKOHAMA HOSTEL VILLAGEを運営している。 |
| 岡本 英志 | おかもと ひでし | マルチプロデュースオフィスプラス | 経営革新や地域振興・農商工連携などは、言葉による事業化プランは立てられるが、具体的に実行して実績を上げるところまでたどり着ける事業者は多くない。机上のプランニングではなく、事業者と並走しながら、企業の潜在能力を引き出し、営業方法やプレゼンテーション方法などもプロデュース。地域資源と地域産業の連携を推進しながら、農商工連携・6次産業化などのアライアンスを通じて、地域産業の振興や街づくりに貢献しています。 |
| 小野田 弘士 | おのだ ひろし | 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科 | エネルギー・資源循環、モビリティ等を専門分野としており、全国各地でのスマートコミュニティプロジェクトや再生可能エネルギー、未利用エネルギー等に関するプロジェクトの創出を支援している。とりわけ、自らベンチャー企業を創業した経験を生かし、指導・助言のみならず事業化に向けた民間企業のコーディネーター、官民連携スキームの構築支援等を得意としている。具体的には、下記の役割を担うことが可能である。 ・地域特性に応じたスマートコミュニティプロジェクト等のコンセプトデザイン ・再生可能エネルギー等を活用した自立・分散型エネルギーシステムの構築 ・地域ニーズに適合したソリューション(エネルギー、モビリティ、ICT等)の構築 ・企業誘致およびPFI/PPP型事業モデルの設計 ・モニタリングおよび効果測定 等 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|--------------------------|---|
| 小野塚 喜明 | おのづか よしあき | しおざわ版ダッシュ村 | 四季を通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのろしプロジェクトでは自立型事業へ産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ各地へ講演活動 |
| 小幡 和輝 | おばた かずき | NagomiShareFund / 地方創生会議 | 地方創生会議は47都道府県すべてから起業家・公務員・政治家・クリエイター・学生などが参加する地方創生のプラットフォーム。全国のローカルプレイヤーがつながり、事例共有や共同プロジェクトなどが生まれ、その取り組みを支援することで地域の活性化に繋げる。また、「NagomiShareFund」は株式会社による出資ではなる売上のレベニューシェアで回収するモデルを採用。これにより、既存のファンドが投資しづらい、地域の名産品や伝統工芸品などへの支援を実現。さらに、クラウドファンディングを活用した起業支援を全国各地で行っている。 |
| 甲斐 寛人 | かい ひろと | ランドブレイン株式会社 | 中心市街地商業活性化アドバイザーとして、中心市街地活性化基本計画の作成、中心市街地活性化協議会の運営に関するアドバイス等を行ってきました。また、中心市街地タウンマネージャーとして現場における実践的な活動も行ってきます。また、商店街活性化アドバイザーとして、商店街の活性化に関するアドバイスも行っています。 地方創生の人口ビジョン・総合戦略の策定支援や、総合戦略に基づく地方創生のための事業の立ち上げ支援に携わっています。 |
| 柿崎 邦雄 | かきざき くにお | 元気な街づくりコンサルタント | ○改正街づくり三法による街づくり ・基本計画策定に関する取り組みへのアドバイス ・法定協議会及び街づくり会社設立に関する取り組みへのアドバイス ○改正街づくり三法に基づかない街づくり ・街づくりへの基本的な取り組み方法へのアドバイス ・ソフト・ハード事業の取り組み方法へのアドバイス ・人づくりから始める街づくりの取り組み方法へのアドバイス |
| 笠原 暁 | かさばら ぎょう | 有限会社Gyolighthouse | 平成20年、平成21年近畿経済産業局と「中小・ベンチャー企業における映像配信を活用した新たな販路開拓等支援策の検討に関する調査事業を行う。平成23年度中国経済産業局「地域真正町産業創出促進事業」を行う。島根県雲南市PR大使に就任。地域活性と販路開拓支援事業。京都市地域産業、伝統産業の米国販路開拓支援事業。 石川県産業振興財団講演事業 大阪東信用金庫共同販路開拓支援事業 岡山市「動画を用いた販路開拓支援」 近畿経済産業局米国販路開拓テストマーケティング事業 千葉県産業振興財団「千葉ラボ」にて講演事業 米国、プリンストン商工会議所、ミッドジャージー商工会議所、ニュージャージー州商工会議所と協業で日本の中小企業販路開拓イベントを開催 |
| 笠原 秀紀 | かさばら ひでのり | いなほコンサルティング | 問題解決・企画創造のグランドデザイナーとして、組織、地域の問題解決や人々や地域の夢の実現に取り組んでいます。 1) コーディネイト・プロデュース 地域住民、行政、企業、外部専門家など関係者の協働体制を構築。対立を超え、各種技術、仕組みを含む協働体制を創造し、問題解決、企画を実現に近づけます。本手法では、「仕組みの中核・デザインをどのように作るか」が最大要点になるので、テーマはあまり問いません。下記の例の他、震災など災害復興、ヘルスケア、食、農、社会貢献の資金調達など様々なテーマでの問題解決を行っております。 【環境分野事例】関係者協働体制の構築による環境汚染地域の問題解決。地域のダイオキシン問題解決（ダイオキシン排出量は、住民、行政、事業者の連携により、焼却炉技術だけでは出せない成果が出せる。「省エネをすると経営がよくなる（省エネ以上の収益効果）」という新メソッドの民間企業群への導入により、地域の企業群が環境に良い活動と経済的発展を両立させる。 2) 新規事業開発（地域版、全国版） 企業1社の事業開発ではなく、地域モデル化、全国展開により、地域や広域的な活性化、業界および経済活性化の実現支援。 【事例】フロン回収技術の開発・技術公開・フロン回収事業の立ち上げ。全国の行政システム（冷蔵後、空調回収）と連動し、行政と協働する地元の小規模事業者の新ビジネスモデル構築。業界は事業用設備等からのフロン回収の新規事業成立。派生事業含み、年間数百億円の市場に成長。 3) (地域の) 問題解決スキルアップ支援 地域の「問題解決ができる力」を向上させていく。前掲1) コーディネイトおよび、2) のスキル・ノウハウの一部を地域に渡していく。問題解決するのは地域であり、地域住民。前掲1) 2) よりもこちらの方が地域活性化力は格段に向上する。前掲1) は当方が引き上げた後に衰退するケースもある。 4) (地域の) 企画・創造力開発支援 地域の未来や願うビジョンを地域の人々に達成できるように、アイデアを出し、夢の実現、問題解決ができる力を向上させていく支援。主役は地域の人々である。当方のノウハウを地域に移していく支援。前掲3) と同様に、地域の力が向上する。 5) 災害復興&予防_BCP/M融合メソッド 阪神大震災以降、現場復興コーディネイト、BCP/M（事業計画マネジメント）支援、および、それらを融合した支援。個別企業や組織のBCP/Mを超えた、地域（連携）BCM構築の支援。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|----------------------------|--|
| 梶川 貴子 | かじかわ たかこ | 株式会社 ウェルネスアリーナ | 地域の特性を活かした、産業振興および活性化のサポート。マーケティング戦略の立案および実行など。 |
| 春日 隆司 | かすが たかし | 特定非営利法人しもかわ森林未来研究所(北海道下川町) | <ul style="list-style-type: none"> ○地方創生総合戦略 ○森林バイオマス活用による地域振興 ○二酸化炭素吸収・削減クレジット創造 ○環境未来都市 ○自然資本 ○持続可能な開発目標(SDGs)準拠のまちづくり ○その他地域振興全般 |
| 片岡 由美 | かたおか ゆみ | 一般社団法人 東京都中小企業診断士協会 城南支部 | <ul style="list-style-type: none"> ●「観光」に関すること→マップづくり、シンポジウムコーディネート ●「まちづくり」に関すること→ イベント企画・実施、まちづくりークショップ ●「商業活性化」に関すること→ 商店街・個店コンサルティング、商店街青年部勉強会の実施、創業セミナー・相談、空き店舗対策 ●「食」に関すること→ 地域産品などの開発、人材育成(特に女性) |
| 勝本 吉伸 | かつもと よしのぶ | 株式会社シンセニアン | 農産物直売所の出荷者や運営者、行政関係者を対象とした講演が年間100回以上に上る。また、販売額の低迷している直売所に対する経営改善や農産加工品の開発支援等を目的とした各地の直売所の訪問も、年間100か所以上を数える。講演や直売所の訪問では、直売所の責任者であった実経験と知識、農業改良普及員や農協営農指導員の経験を生かし、現場に密着したコンサルティング業務と身近で具体的な情報提供、さらには農産物の栽培対策と加工品の販促対策に重点を置いている。 |
| 加藤 孝一 | かとう こういち | カルネコ株式会社 | <p>【理念】 『日本の森と水と空気を守る』</p> <p>【しくみ】 環境貢献プラットフォームEVI ※90の森林クレジット(県別カバー率81.8%) 預託</p> <p>【目的】 森と企業と消費者を結び、クレジットの流通促進、環境保護の支援を行う</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■規格外のリんごをドライフルーツ化。1袋1円が森林支援に! ■規格外の椎茸を環境貢献型商品としてブランド化 ■地域住民による電気代節約活動と地域経済の活性化を支援 ■国産材・間伐材の利用促進のための販売サイト構築・稼働 ■全国の森林保護を支援するキャンペーンの企画・実施(4年目) ■被災地の森林保護活動を支援する防災キャンペーンの企画・実施(3年間) ■お買い物の決済1タッチ1円(SUICA・PASMO)で森林保護支援! ■観光と環境貢献の融合=GREEN&CLEANリゾートの推進 ■CO2排出ゼロの道の駅・日野川の里にちなん(鳥取県日南町)のオープン <p>準備～運営に参加。日本カーボンオフセット大賞農林水産大臣賞受賞を支援。</p> |
| 加藤 裕之 | かとう ひろゆき | 東北大学未来科学技術共同研究センター | 下水道が有する資源を農業に利用することは、下水道の有するイメージ等からなかなか難しいプロジェクトである。全国的なベストプラクティスを紹介することで、進めるための技術的手順、地域内のコミュニケーションの取り方、マスメディアの活用等を織り交ぜながら、次第に普及展開していく方法を理論化している。この普及理論は、下水道の農業利用にとどまらず、さまざまな地域活性化のためのムード作りにも役立つと考える。 |
| 加藤 文男 | かとう ふみお | 株式会社ちば南房総(枇杷倶楽部) | 地域産業と文化の振興、情報発信基地を目指した「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」の初代駅長として、計画の立案から、開設後の運営管理に12年間にわたって取り組みました。その間、事業効果を高めるため、特産の枇杷を活用した商品開発や、集客資源を束ねて誘客する「一括受発注システム」を稼働させ、地域経済を拡大させるとともに、自治体が全額出資した道の駅の運営法人の黒字経営を維持させました。さらに、人形劇などの地域文化の磨き出しや、インターネットを活用した広域情報の発信による地場産業振興など、多角的な手法で広域的な地域振興を進め、観光客の増加と平準化、約60名の雇用の創出をもたらしました。近年では、道の駅による地域活性化の開発途上国への応用のため、タイ、ベトナムでの活動を続けています。 |
| 金井 藤雄 | かない ふじお | 生薬コンサルティング | 1、ベトナムにおける桂皮の栽培について事業化に成功し村全体の活性化につながった。 2、ロシアのアルタイ州などにおいて甘草の野生収穫および栽培・集荷を行い地域の活性化へつなげた。 3、ロシアのイルクーツク州において麝香鹿の育成と集荷、狩猟許可に基づき麝香鹿確保、麝香牧場に放牧・育成し麝香を集荷するビジネスモデルの構築を実施した。 4、ブラジルにおける牛黄・吐根などの生薬の集荷、日本薬局方による品質管理の指導等を行っている。 5、三重県における薬用植物栽培事業について専門家として委嘱を受けて活動している。 6、各市町村からの問い合わせをいただき丁寧に薬用植物栽培の相談を受けております。7、GMPコンサルタントとして生薬管理責任者の教育訓練、製薬企業の手順書・基準書作成、生薬鑑定・生産実務(鏡見等)、定量など分析実務、各種バリデーション実務を指導している。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|----------------------------|---|
| 鹿野 美弘 | かの よしひろ | NPO法人 薬草木を育てて地域産業と観光資源を作る会 | 地域の生活の質の向上のため漢方医学の知識、経験を用い地域活性化のために下記の3点から取り組んでいる。 1. 荒廃しつつある田園、中山間地区を薬草木の植栽により再利用、活性化を進め、平成27年度は薬木サンシュユの植栽に関し、農水省・薬用産物等地域特産作物産地確立支援事業の助成を受け、中山間地区の篤農家10数名と継続中。 2. 医師。薬剤向けの漢方臨床基礎理論講座(薬証会・15回シリーズ)を全国80ヶ都市で開催したが、NPO法人開設後5年間で岡山、徳島、松山で開催している。 3. 漢方医学を大衆向けにし、平成26年以降、地域住民に無償の薬膳学校を開き薬膳学、薬膳素材学を講義、薬膳実習を行い健康的で楽しく豊かな生活の普及を進めている。一卒業生は薬膳食堂を開設した。 |
| 唐橋 宏 | からはし ひろし | (有) 会津きり屋 | 1991年に会津地方の幅広い関係者の参加による「会津そばトピア会議」を設立し、「日本一のそばの郷づくり」を合言葉に多彩な活動を展開することによって、会津そばの地域での広がりや全国的なブランド化に努める。また、そばの栽培面積も飛躍的に拡大するとともに、そばを核とした観光事業や地域間交流事業を積極的に展開。 1985年全国のそば振興ネットワーク「全国麺類文化地域間交流推進協議会(全麺協)」を発足、以後日本そば博覧会を各地で開催指導、同時に全国各地でそばによる地域づくりの指導を実施、また、素人そば打ち段位認定制度の全国認定審査員として各認定大会で審査員を務め、段位認定者は1万人を超えるまでに 全国各地の「そばによる地域活性化」の指導を実施中 |
| 河合 克仁 | かわい かつひと | 株式会社アクティビスタ / 国立大学法人筑波大学 | ・各地域の魅力の再定義×その地域だからこそできるソフト/ハードの整理とPR ・その地域の企業を巻き込んだU/Iターン採用と若者育成支援 実績(2015年7月～)： ■地方の中小企業の魅力の言語化・見える化を行ったUターン/Iターン採用支援(北海道、青森、福島、長野、愛知、千葉等) ■産学連携の人材育成と人材採用支援 筑波大学にて地元企業への就業体験を含んだキャリアデザイン教育の授業を実施 ■10年後の未来を描くビジョン策定支援 中小ベンチャー企業の理念・ビジョン策定 ■大企業×ベンチャー企業×異業種×異年齢のカンファレンスの開催 参加企業数200社以上、実施回数10回、参加企業の売上総額3兆円以上、従業員総数3万人以上(直近1年間)の経営者会議開催 |
| 川崎 克寛 | かわさき かつひろ | 徳島大学 | 2010年より内閣府地域社会雇用創造事業(ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスのインターンシップ事業)のメンバーとして関わり、四国の学生と地域企業とのマッチング・コーディネート活動に携わる。また、四国経済産業局主催の企業向けセミナーにおいて、コーディネーターとして参加。 2011年3月から、東北での支援活動「つなプロ」に参画し、エリアマネージャーとして、現地にて地域住民の生活サポート、ボランティアスタッフのコーディネート活動のほか、同年6月より、ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスの復興支援インターンシップ事業である、岩手県陸前高田市で行われたT-ACT事業にも参画し、現地ディレクターとして、50名を超える学生を受入れ、地域再生プロジェクトのコーディネート活動を行っている。 2014年、ネパールの地震復興支援活動を行う。2016年2月より徳島大学特別准教授・COC+推進コーディネーターとして、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC+事業)」に携わる。 |
| 河崎 妙子 | かわさき たえこ | (有) 河崎妙子事務所 | 有限会社 河崎妙子事務所はコンセプト作り、店舗レイアウト、メニュー開発、スタッフ教育、広報活動など、1店舗を立ち上げるためのノウハウを提供。特に女性の立場から見た店舗のプロデュースやメニュー開発を得意としています。主な活動範囲は、 ①「食」に関すること→食材研究、商品開発、人材教育、料理講習会の実施等 ②「観光・交流」に関すること→コンセプトに合わせた商品開発、店舗の立ち上げ等 ③「学び」に関すること→食材研究、ワイン、チーズ、スパイス等の使い方や知識についての勉強会を実施、薬膳料理の勉強会等、各地の食材を生かした幅広い講習会を実施 |
| 菅家 洋一 | かんげ よういち | 会津住建株式会社 | ◎平成22年：地元、会津のシンボル鶴ヶ城周辺の活性化の一環として、「アドリア北出丸カフェ」をオープンした。国内初のCLT工法を駆使し、自然との調和、省エネ、環境に最大限配慮し、癒しのカフェとして市民・観光客の憩いの場となっている。(平成24年 会津若松市景観賞、平成25年福島県建築文化賞特別賞受賞) ◎平成25年：福島県森林土木建設業協会の発起人となり、協会設立、会長就任。県内168社の会員とともに、県内森林土木事業の活性化、木材の新たな活用(CLT)の普及に取り組んでいる。また、地域資源を活用した「循環型社会の形成」に力を入れている。 ◎平成26年：林野庁「森林整備加速化・林業再生基金事業」に採用され、東日本初のCLTを活用した共同住宅を建設中(福島県CLT推進協議会管理事業者)。構造見学会、シンポジウム等を開催し、CLT普及に努める。 ◎復興庁「『新しい東北』先導モデル事業」において、CLTを活用したエネマネハウスを建設し、芝浦工大と共同で、省エネ(温熱)環境の計測を行い、将来スマートタウン構想実現を目指している。 ◎平成28年～現在：会津地域13市町村の産学官が一体となった、会津「The13」事業協議会を設立し、副理事長として森林資源を活用した地域創生に取り組んでいる。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|--|--|
| 菊池 新一 | きくち しんいち | 特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク | 遠野のグリーン・ツーリズム研究会の立ち上げから、今日までグリーンツーリズムの振興に関わる。ふるさと公社では、道の駅「遠野風の丘」の立ち上げ、コミュニティビジネスの振興に関わる。商工観光課では、コミュニティビジネスを取り入れた、ショッピングセンターの再生に関わる。現在、震災の被災地や東北各地においてソーシャルビジネスの立ち上げをキーワードに、農家民宿、農家レストラン、産地直売所、農産物の加工など、六次産業化や農商工連携の起業支援を行っている。 また、グリーンツーリズムの実践、着地型旅行業への参入などを行っている。 |
| 岸川 政之 | きしかわ まさゆき | 百五銀行／皇學館大学／(一社)未来の大人応援プロジェクト | 三重県多気町にある相可高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する惣菜とお弁当の店、(株)相可フードネット「せんばいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。これらの取り組みは、国土交通省ふるさと手づくり賞大賞、総務大臣優秀賞など多くの賞を受賞し、2011年5月からは「高校生レストラン」と題しテレビドラマ化もされ話題を呼んでいる。 また、高校生などの若者(未来の大人)たちと地域ビジネス創出事業(Social Business Project、略称:SBP)にも取り組んでいる。SBPは、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうというもの。具体的には、自分たちのまちの魅力・地域資源(ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等)を知って地元愛が育ち、地域資源を生かしたビジネスを立ちあげ、自ら働く場を確保することで地域に残れる仕組みをつくっていくもの。高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPを立ち上げ、その後このような地域に根ざした取組が全国に広がっている。そして、SBP活動に取り組む高校生が集い研鑽する「全国高校生交流フェア」は、2017年から文部科学省の共催事業となっている。現在は地方の活性化をテーマに、全国各地で「まちづくり」、「商品開発」、「生き方・考え方のヒント」などをテーマにした講演やワークショップも多数開催するとともに、市町村、NPOなどのアドバイザーとしても活躍している。 |
| 北尾 洋二 | きたお ようじ | 株式会社ザメディアジョン・リージョナル／大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科 | 「地域のために、地域を越えて」及び「新卒採用で地方創生」をミッションとした、新しいタイプの「創職」サポート・「ジョブメーカー」として日々活動しています。メディアのアレンジメントから出版・広告代理・編集プロダクション、まちづくりコーディネーター・社会調査、ワークライフバランス、男女共同参画推進、障害者雇用支援、新卒採用支援に至るまで、地域活性化から企業活性化までをカバーします。「ご縁と感謝の経営」を軸にしながら、「ひとつづくり まちづくり くにつくり」をモットーに活動しています。 ● 地域活性化と発展は「雇用・就職」から／学生、企業、地域社会の立場をしっかりと理解し、お互いの納得度を高める就職支援と企業の採用支援(採用ノウハウの提供、経営指導など)、そして地域コミュニティとしての場づくりを行なっています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、島根県庁、山口県庁、大阪府大阪市、岡山県岡山市、山口県山口市・下関市・岩国市、島根県益田市など) ● 地域資源の掘り起こしを「若者目線」で／アクティブラーニング(サービスラーニング)の手法を用いたフィールドワークで、地域の課題を若者目線で改善提案。「連携」という言葉の枠を越えた、地域づくりを展開しています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、日本環境協会「いきものみつけファーム」及び「こどもエコクラブ」、各自治体「まちづくり講演会」、ソーシャルネットワークサービス(SNS/facebook、twitter、Instagramなど)を活用した情報発信事業及びイベント企画、SNSに関する利用実態調査、地域の魅力度調査、大分県竹田市・豊後高田市・姫島村、山口県山口市・下関市・宇部市、島根県江津市、高知県宿毛市、宮崎県串間市、山口銀行・山口フィナンシャルグループなど) ● 地域の歴史をテーマとした研究活動、魅力発見及び研修事業展開／歴史街道・萩往還散策マップ実行委員会、夢街道ルネサンス、知覧研修、萩・松下村塾をテーマとした現地調査活動、月刊松下村塾・月刊高杉晋作・龍馬と長州等の歴史ムック発刊とプロモーション、日本風景街道などの調査研究及び産学連携のフィールドワークを実施しています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、鹿児島県南九州市、山口県周南市・萩市・山口市・防府市・下関市、宮崎県串間市など) |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|------------|--------------------------|---|
| 北野 尚人 | きたの ひさと | 広島経済 大学経済学部 メディアビジネス学科 | <p>・「地域絆と東京鮮度」をモットーに、マーケティングやコミュニケーションの知識・ノウハウを活かし、地方都市ならではの情報や時間面での真の豊かさの実現支援に向けて活動中。</p> <p>・今街中で起こっていることが分かれば、すぐに駆けつけられるサイズのコンパクトシティだからこそできること、ワークライフバランスの良さをどう生かすかを模索中。</p> <p>・博報堂のブランディング・ノウハウを活用した「地ブランド構築」支援活動も展開中。特に、最近は、農産物や水産物のブランド化、地方都市のブランド化、地方ならではの「食」のブランド化、等にもチャレンジ中。</p> <p>・「瀬戸内海」と「中国山地」「山陰地域」の魅力の棚卸しを、辛口の他所者視点に立って推進中。</p> <p>・大学へ移ってからは、マーケティング、コミュニケーション、メディア、広告、広報、ブランディング等を研究。</p> <p>・学生に対しては、従来の常識に捉われない柔軟な発想で、物事を見つめ考えることを指導。</p> |
| 北村 省一 | きたむら しょういち | 株式会社サイテック | <p>【地域産業支援】 情報社会における企業のファインダビリティ(見つけてもらうこと)をテーマに、企業活動の存在を知ってもらう基盤づくり(Smart-PR等)、集客事業戦略を中心に取組んでいます。具体的には、チラシづくり、メディア活用を提案し、売上げ直結の支援を目指しています。</p> <p>【地域づくり(人材育成・産業振興)】 ・80年代後半、経済成長が鈍化する中、地域振興(人材育成、産業振興)等の観点から 公立等の大学づくりが熱心に行われてきました。福岡県、広島市、神戸市、滋賀県、兵庫県、和歌山県などで大学整備に向けた企画提案、構想づくりのお手伝いして参りました。中でも、広島市立大学や滋賀県立大学が設立され、地域に根差す先進的な大学となっています。</p> <p>【自然資源調査】 各地の河川整備に伴う自然環境調査、福岡の那珂川、和歌山の日置川(河川水辺の国 勢調査)などでは魚介類調査を行い、地域資源とその活用環境について明らかにし保全と創造の方向を提案しました。平成24年には高浜町の産業振興のため、青葉山の植物調査を行い、有用植物の選出を行い、植物資源を活用した事業提案をしました。</p> |
| 衣笠 愛之 | きぬがさ よしゆき | (有)夢前夢工房 (株)兵庫大地の会 | <p>平成6年 ・農業規模拡大を決意する(専業農家へ)</p> <p>7年 ・経営改善計画認定取得する(認定農業者) ・無農薬栽培本格的にはじめる</p> <p>9年 ・生きがい農園を主催する</p> <p>11年・農業生産法人設立 ・夢そば作付け開始 ・小学校農業体験に関わる</p> <p>12年・青空市場「夢」設立 ・夢そば推進協議会を結成する</p> <p>15年・特定農業生産法人認定される ・夢そば乾麺完成 ・ひょうご安心ブランド取得(無農薬認定)</p> <p>17年・新規就業研修施設「夢工房」を設立する</p> <p>18年・環境創造型農業兵庫モデル地区に認定される(10ha)</p> <p>20年・食育アドバイザー指導を始める ・第1回田んぼアートを開催 ・地元スーパーとの連携開始</p> <p>21年・姫路市夢さき夢のさとの指定管理者になる(夢やかた) ・農家レストラン「夢工房」オープン</p> <p>22年・産官学連携商品開発への取り組み、米粉食品指導員免許取得(財)日本穀物検定協会</p> <p>23年・6次化法認定(農林水産省)、食と地域の交流推進事業認定(平成23~24年)</p> <p>24年~25年・イチゴハウス(37a)、直売所「夢街道farm67」開設</p> |
| 木下 斉 | きのした ひとし | 一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス | <p>〃地域の中心的なチームを組織して新たな事業を創り、その事業経営を通じて地域の抱える経済的・社会的課題を解決するのが、私のスタンスです。</p> <p>・1998年、早稲田商店会における環境を切り口とした商店街活性化に参画。「エコステーション」の運営を通じて、1999年より全国リサイクル商店街サミットを開催(現在までに全国で13回開催)。さらにネットを活用した情報共有を行い、2000年度新語流行語大賞「IT革命」受賞。</p> <p>・2008年には熊本市内における不動産価値の向上を目指し、熊本城東マネジメント株式会社を設立。不動産・店舗経営にかかる契約を一本化することでコスト削減と業務品質改善、まちづくり基金の創出する、エリア・ファシリテイ・マネジメント事業を立ち上げる。現在、北海道から九州まで全国各地で同様の事業を立ち上げている。</p> <p>・2009年には全国各地の事業型まち会社とそれを共同で推進する民間企業や専門家によるアライアンス団体、一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンスを設立。現在11都市のまち会社が加盟し、共同で事業開発を推進している。</p> <p>・2011年からは、エリア・イノベーション・アライアンスにおいて、新たな事業開発プログラムである「エリア・イノベーターズ・ブートキャンプ」を定期開催。全国から参加者が集まり、事業開発に取り組み、成果を挙げている。さらに、インターネットを活用した事業プログラム販売などのプラットフォーム開発にも着手、まち会社が物理的な制約を越えられるよう、オンラインでの事業開発・経営推進を図っている。・2013年には公民連携事業を推進した実績から、地域活性化伝道師を務めるアフターヌーンソサエティの清水氏、CRA合同会社の岡崎氏と共に一般社団法人公民連携事業機構を設立し理事を務める。同社では2015年より東北芸工大と提携し、公民連携プロフェッショナルスクールを開校し、自治体、民間横断での全国的な公民連携事業家の育成に当たり、既に全国で30以上の公民連携によるまちづくり事業の立ち上げにつなげている。さらに今年からは都市経営プロフェッショナル・スクールへと進化させ、幅広い都市経営課題解決に対応する。インターネットと実地研修を組み合わせ、現場をもつ人々が互いに他の地域をもサポートできる体制をつくりあげること、自立した地域づくりをサポートする。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|----------|---------------|---|
| 木本 圭一 | きもと けいいち | 関西学院大学国際学部 | <p><地域における活性化プロジェクト> 2004年(平成16年)9月 文部科学省現代的教育ニーズ支援プログラム(地域活性化への貢献) 関西学院大学申請プログラム(学生による「劇場空間・宝塚」の都市再生)推進責任者(2007年3月まで)。地域の活性化を産官学連携で行う取組。授業責任者として平成26年3月まで担当。</p> <p>2014年(平成26年)6月 兵庫県南県民センター 大学生による都市型ツーリズム推進事業によって、「関西学院大学・日本酒振興プロジェクト」を西宮郷の酒造メーカーと連携して推進。</p> <p><産官学連携による人材育成プロジェクト> 2007年(平成19年)8月 文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム、関関同立共同申請プログラム「団塊世代が活躍するための地域貢献型社会起業家養成プログラム」の申請代表者・事業担当者(2010年3月まで)。 2008年(平成20年)10月 経済産業省「産学連携人材育成事業(産学人材育成パートナーシップ「経営・管理人材分科会」プログラム開発・実証)」、関西社会人大学院連合申請プログラム「国際競争を勝ち抜く次世代経営リーダー養成プログラムーアジア現地経営トップ養成ー」プログラムコーディネータ(2011年3月まで)。 2011年(平成23年)11月 大阪市からアジアビジネス研究センターへの委託事業「大学・大学院ネットワークを活用した人材育成力強化事業」プログラムコーディネータ(2014年3月まで)。</p> |
| 久野 美和子 | くの みわこ | 電気通信大学 | <p>グローバル経済・産業・社会の中で、日本や地域、個別の企業が生き残り、勝ち残っていくためには、大学や研究機関の優れた研究・技術成果を社会的価値に繋げていくことが極めて重要である。また、その方法としては、単独ではなく、多様な知識をもった人材や組織との連携・融合が不可欠の時代となっている。このため、プロデューサーの経験・ノウハウを活かし、1. 埼玉・千葉・茨城・群馬地域～東京(広域)の各大学や研究機関、支援機関と連携して、産学による共同研究開発～新事業創出のしくみづくり、個別支援を行っている。</p> <p>2. 特に超高齢化社会に突入している現在、ライフイノベーション(健康・医療・福祉・介護、食・農等)分野の共同研究～新商品開発・新事業創出が急務であり、重点的な取り組みを行っている。3. 日本の科学・技術の中心である「つくば地域」で、「科学・技術産業イニシアティブ」(グローバル・オープンイノベーション・プラットフォームづくりを目指す、科学・技術、産業分野の有志の会)を立ち上げ、様々な分野の専門家によるセミナーやプロジェクトメイキング活動等を実施中。4. NPO法人「イノベーション・ネットワーク」を有志で立ち上げ、若い・科学人材育成、「健康・食」の拠点作り等に注力。5. 地域活性化伝道師としても、1.～3.に関わり、地域や個別企業からの相談に応じてプロデュース活動を行っている。</p> |
| 久保 智 | くぼ さとし | プロジェクト熊野 | <p>熊野市役所在職中は、地域資源を活用した特産品開発として「さんま醤油(魚醤)」や「どぶろく」など新たな特産品の開発に関わる外、直販や異業種連携、ローカルネットを活用した地域産品の新たな販路を開拓してきた。</p> <p>また、漁業の再活性化を図るため、安全安心の水産物生産や販路開拓についてハード・ソフト両面から取り組みを行った。</p> <p>個人の取り組みとしては、女性・中高齢者を社会資源と捉えたコミュニティビジネスの振興に関わる外、園芸による社会弱者の社会参加を支援する「くまの園芸福祉倶楽部」に参加してきてきた。</p> <p>1998年からは都市と大学と村とをネットワーク(村都連携・村学連携)する「プロジェクトくまの」の現地世話人として活動している。</p> |
| 栗原 秀人 | くりはら ひでと | 下水道広報プラットフォーム | <p>「水の価値」は用水供給の他、街並み形成と品格、癒しと遊び、生態系保全、産業・観光などの地域産業等々多面的に及びます。一方で、災害、渇水、水質汚濁等々の水の脅威も私たちを取り巻いています。先人たちの「水の脅威」と闘いながら、「水の恵み」を得続けるための累々とした努力の積み重ねの上に、今日の私たちの暮らしや地域社会が育まれています。「水」は地域の宝ですが、ややもすれば豊かさや便利さの中で、そのことを忘れてしまい、水辺からも遠ざかってしまいがちです。何もしなくても「水の恵み」が得続けられると思っているかもしれません。改めて、地域の皆さんと一緒に、現地踏査、ワークショップ、パネルディスカッション等の参加型・協働型取り組みを行い、①地域ごとの『「水の脅威」と「水の恵み」の再確認』 ②先人達が残した有形無形の『水遺産探し＝地域の宝探し』 ③『水を上手に付き合うこれからの街づくりの姿、目標像の共有(水辺づくり、水に強い街づくり、水を活かしたまちづくり、循環型社会づくり等々)』 ④目標の実現を目指した公共・市民等のそれぞれの行動計画(加害者と被害者等の立場を踏まえた協働・参画、責任と役割分担等)』等を明らかにし、地域総ぐるみ活動を展開していきます。中でも、「下水道の価値と機能」を活かした新しい水環境づくりや下水道と一体となった農林水産業の展開による地域づくりを取りまとめていけたらと思っています。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|----------|----------------------------|--|
| 小出 宗昭 | こいで むねあき | 富士市産業支援センターf-biz | <p>2001年2月から今日までの17年間に、規模、産業構造共に全く異なる3都市で計4箇所の公的創業・産業支援施設の立ち上げと運営に関わり、これらの施設を核とした地域活性に取り組んできました。拠点が変わってもパフォーマンスが落ちることはありませんでした。施設が立地する場所や、その性格(インキュベーター・中小企業支援センター)に関係なく、公的産業支援プロジェクトを成功させるノウハウを確立させた結果だと自負しています。</p> <p>活動の中核になっているのは、地域の既存事業者やこれから起業しようとしている人達が抱える経営課題を一緒になって解決する、ビジネスコンサルティング業務です。必要とされる技術をもっているのに、そのことが顧客にうまく伝わっていなかったことで業績が伸び悩んでいた企業に対し、「強みの見える化」につながる新サービスを企画提案したところたちまち売上をV字回復させた事例や、機械が古いせいで小ロット生産しかできず廃業を覚悟していた企業に対し、弱みと捉えていた「小ロット生産」を「強み」として打ち出す新戦略を企画提案し売上倍増を実現させた事例など、これまでに1,300件を超える新規事業立ち上げを支援してきました。</p> <p>2008年7月に独立し立ち上げた自社で運営を受託した富士市産業支援センターf-Bizでは、開設にあたり、それまでの経験と富士市の人口26万人というデータをふまえ、計画では月間25件程度の来場相談件数を見込んでいました。ところが開設から1年間の平均来場相談件数は130件を超え、現在は月間360組以上の事業者が訪れる施設になり、これまで寄せられた相談からは1,000以上の新商品や新サービスが生まれるという、全国的にみても最も活性化させた産業支援施設となりました。</p> <p>2013年8月には、これから開業をめざす若い起業家の卵たちの利用を促す施設「f-Biz egg(エフビズエッグ)」を併設。現在双方合わせ、年間で4,000組以上の来場相談を受けています。テレビや新聞等マスコミから「日本で最も活性化させた創業支援施設」などとして注目され、中央官庁や他の支援機関、自治体からの視察が絶えず、2014年に政府が全国47都道府県に開設した「よろず支援拠点」のモデルになったほか、f-Bizをモデルにした取り組みに着手する市町村も出始めました。2013年には愛知県岡崎市が「岡崎ビジネスサポートセンター0Ka-Biz(オカビズ)」を、2015年には熊本県天草市が「天草市起業創業・中小企業支援センターAma-biz(アマビズ)」をそれぞれ開設し、f-Bizを超える勢いで地域事業者の支持を集めています。2016年度には岐阜県関市、広島県福山市、宮城県日向市などが、2017年度には長崎県壱岐市、島根県邑南町などが自らの自治体で”〇〇-Biz”を開設し、2018年1月現在でf-Biz以外に15の”エフビズモデル”が全国で稼働しています。</p> |
| 古賀 方子 | こが まさこ | 特定非営利活動法人 全国街道交流会議 | <p>「全国街道交流会議」には、街道や歴史文化を活用して地域づくり、交流・連携に取り組む全国の自治体、民間団体、個人が参画している。全国大会の開催やまちづくり情報の共同発進などを通じてネットワーク化を進めるとともに、国、県、市区町村、住民間の連携をコーディネート。「往来再生」と「地域の自立」をテーマに、各地で官民協働によるみちおこし、まちおこし事業に取り組んでいる。</p> |
| 古川 充 | こがわ みつる | 古川行政書士事務所/地域経営コンサル 合同会社なるさ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県庁から人口2000人の小さな君田村役場に転職する。 ・ 1996年から宿泊、温泉などを備えた道の駅整備による村づくりを担当し、15年間事業の責任者を担う。住民240人の第3セクター経営により、年間利用者25万人の地域振興の拠点施設として持続経営の展開の基盤づくりを行なう。経営に従事する中で、収益の一部を村役場に5億3千5百万円の寄付を行なう。これを、村は、将来の施設修繕に充てる基金化する。 ・ 事務局や責任者として仕掛け続けた、組織、集落が下記を選奨 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2000年 地域住民が連携した農村振興が認められ「豊かな村づくり賞 農林水産大臣賞」 ・ 2004年 道の駅を核とした地域振興が認められ「立ち上がる農山漁村」に選定 ・ 2016年 中山間直接支払活動が評価され「中四国農政局長表彰最優秀賞」 ・ 地域振興組織が持続可能な取り組み方策の選択として、組織の法人化、組織運営の指導 ・ 第3セクター経営の改善支援 ・ 2004年 「地域産業担い手たち・地域ビジネスリーダー」(経済産業省 中国経済産業局) |
| 小島 大 | こじま だい | ささつな自治体協議会 | <p>全国各地の40数人の首長陣が集う、ささつな(ささえる・つながる)自治体協議会の議長・事務局としまして、会員自治体を中心とした住民の皆様のご生活に貢献・寄与する事を目的とし、都内の大学の教授陣や自治体職員と連携して、首長陣を中心としました交流促進のための意見交換会、勉強会、懇親会等の開催などにより、地域を超えた複数の自治体間で締結しました防災協定を主な活動として自治体支援活動に取り組んでおります。</p> <p>同時に、会員自治体の道の駅等の商業施設を連携させること等により、スケールメリットを活用させることで、地域産業の振興、特産品の販売等による地域経済の活性化活動に寄与して参りたいと思います。また地元大学の教授陣と研究会を開催しての農業・教育分野を中心としましたまちづくり推進支援活動と共に、ささつな自治体協議会と連携しております大手企業陣の集い、ささつなCSR協議会の企業メンバーと協働することで、ささつな自治体協議会の会員自治体様を中心に多岐な分野において自治体支援事業を行って参りたいと思います。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|-----------------------------|--|
| 小島 光治 | こじま みつはる | ユーエンタープライズ株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・20年以上、雑誌社の発行人として従事したため、広島都市部のまちづくりを提案し、官民一体のムーブメントを組織し、そのいくつかを実現。ーライトアップキャンペーン、水上バス運行推進、地元商店街振興ー ・中国地方整備局、中経連が推進する「夢街道ルネサンス」の推進会議の委員として認定箇所（現在42箇所）の「地域活性化まちづくり」を指導。 ・国土交通省道路局の「社会実験推進に関する懇談会」委員として全国各地の採択箇所を視察、指導。 |
| 小島 由光 | こじま よしみつ | 株式会社スーパーソニック / 五島列島水産流通株式会社 | <p>第3次産業（流通・外食マーケティング）の目線で第1次産業、第2次産業を結びつける6次産業化を実践。地域の特産品を見出し、川下の流通戦略をもって生産物が流通し、地域活性化に繋がる仕組み構築を行います。第1次産業・・・地域活性化支援事業 農産物・水産物のブランディング及び流通提案 第2次産業・・・地域特産品の消費マーケットニーズ、ターゲットを踏まえた商品開発提案 第3次産業・・・流通、外食事業コンサルティング、経営分析。 ●水産物（鮮魚）の産地直送の仕組み構築による目詰まり解消を行う。飲食店への直接流通によって生産者の収入高と購入者の仕入れコスト減を実現、また産地直送により最短時間で届くため鮮度保持が向上し、多くの水産物流通につながる。（五島列島水産流通） ●地域活性化に伴う地元主体組織構築と特産品開発、ブランディングにより地産地消型消費構造から地産他消に拡大。地域の知名度向上と特産品販売増を実施。（久賀島ファーム）</p> |
| 古関 和典 | こせき かずのり | 株式会社JTBコミュニケーションデザイン | <p>映画・映像を活用した地域活性化事業の推進。</p> <p>(主な事業実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールジャパン推進事業（自治体連携により、アニメの「聖地」の中国へのプロモーションならびに誘客事業）経済産業省 ・映画「Railways」を活用した富山県のプロモーション事業（富山県観光連盟） ・映画「天心」を活用した映画連携復興支援事業（茨城県） ・映画「銀の匙」を活用した帯広市プロモーション事業（北海道帯広市） ・日台合作映画「南風」による愛媛県インバウンドプロモーション事業（愛媛県） ・連続テレビ小説「まれ」を活用した石川県・能登地方のプロモーション事業（石川県） ・ロケ地紹介アプリケーション製作事業（東京都） |
| 後藤 健市 | ごとう けんいち | スノーピーク地方創生コンサルティング株式会社 | <p>「場所文化」をキーワードに具体的な場の設定に関わり、地元の十勝・帯広では、北の屋台（2001）、スノーフィールドカフェ（2002）、東京では、場所文化フォーラム（2002）、とかちの…（2007）、にっぽんの…（2010）の立ち上げと運営に携わってきた。さらに、まちづくりのさまざまなアイデア実現のために会社・団体を複数設立し、場所の価値を生かした実践活動を行い、全国各地での講演や、地域の元気人材を巻き込んだ活性化事業に携わりながら、コミュニティビジネスやソーシャルビジネス創出の強化に取り組んでいる。また、2010年から海外での活動を開始し、シンガポール、ハワイ、そして極東ロシアなど、アジア&パシフィックエリアの地域との連携を視野に入れた事業に取り組んでいる。地域活性化事業以外として、障害理解とコンプレックスの自覚のためのプログラムを行っており、また、ポケットサイズのカラー点字器を開発し、「名刺に点字を入れる」ボランティア運動も展開している。（カラー点字プレートは98年度のグッドデザイン賞中小企業庁長官特別賞を受賞。）</p> |
| 小林 秀司 | こばやし ひでし | 株式会社シェアードバリュー・コーポレーション | <p>全国都道府県に出かけて人を大切にする「いい会社」の視察や調査、発掘をしています。これまで企業訪問した数は632回（2018年1月25日現在）。年間70社近くの訪問活動を続けています。企業調査・発掘、研究成果啓蒙講演、企業での研修・コンサルティングが主業務。また、経済産業局や自治体、中小企業家同友会など行政や経営者団体からご依頼を受けて講演セミナーを開催しています。</p> <p>【講演・シンポジウム・セミナー活動実践例】 「人を大切にする経営」 日本青年会議所愛知ブロック協議会シンポジウム・「真の企業経営とは？地域に根ざし、愛される経営」 四国経済産業局・「元気な社員がいる会社のつくり方 労使で築く活き活きとした職場」 栃木県小山労政事務所・「障がい者雇用が切り開く新たなフロンティア」 高知県中小企業家同友会・「栃木でいちばん大切にしたい会社を目指そう！」 栃木県中小企業家同友会・「島根県幹部候補向けマネジメントセミナー」 島根県商工労働部 など</p> |
| 駒田 健太郎 | こまだ けんたろう | コマケンラボ | <p>2013年～ 会津の新しい地域ブランド「ハンサムウーマン」プロデュース（経済産業省補助事業）</p> <p>2013年～ 会津地域の観光地域づくり事業プロデュース</p> <p>2015年～ 栃木県鹿沼市「加藤芸術村」プロデュース、アートディレクション</p> <p>2015年～ 鹿沼市産梨「にっこりなし」の海外展開プロデュース</p> <p>2013年～ 鹿沼さつき盆栽&組子細工の海外展開プロデュース（経済産業省クールジャパン事業）</p> <p>2008年～ 鹿沼市観光ネットワーク計画策定、観光サインデザイン</p> <p>2013年～ 岐阜県白川町エコツーリズム推進業務</p> <p>2008年 岐阜県笠松町 リバーサイドタウン笠松計画（まちづくりマスタープラン）策定</p> |
| 小松 裕介 | こまつ ゆうすけ | 株式会社スーツ | <p>観光施設の再生を通じた地域活性化にノウハウと実績を有していることから、マーケティング戦略など経営戦略の立案、広報体制の構築、オペレーションの改善、経費の削減、人材の育成やリスクマネジメント体制の構築など、幅広いスキルと経験を地域活性化の現場に活かします。</p> <p>また、公共施設老朽化対策における公民連携分野でのアドバイス経験を有していることから、より多くの人々を「巻き込んだ」仕事の進め方に慣れており、様々なステークホルダーをまとめるリーダーシップとコミュニケーションのノウハウを地域活性化の現場に活かします。</p> <p>具体的には、全国各地の地域振興や観光振興などの課題・問題点に対するアドバイス、コンサルティング、実際の計画立案支援や実行支援などを行います。</p> <p>また、「観光施設の再生」、「企業再生と地方創生」や「経営改革とリーダーシップ」などに関する講演も行います。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|--------------------|---|
| 斉藤 俊幸 | さいとう としゆき | イング総合計画株式会社 | 2003年関東学院大学まちなか研究室追浜こみゆに亭開設に参加(2003年)、有明高専現代GP事業推進(文部科学省2005年)、全国水産高校生徒研究発表大会四国大会で高知海洋高校うめプロジェクト優勝支援(2009年)、国際教養大学生による高校生向け英語合宿開催(秋田県由利本荘市、総務省地域力創造アドバイザー事業2010年)、千葉県立松尾高校スーパーグローバルハイスクール「地域から考えるグローバル・エイジング研究」(文部科学省2015年)、大阪府立能勢高校スーパーグローバルハイスクール「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」(文部科学省2015年)、地域活性化センター土日集中セミナー「魅力化による高校の生き残り」と地域活性化」主任講師 |
| 坂本 世津夫 | さかもと せつお | 愛媛大学 社会連携推進機構 | H14年4月からH17年3月まで、愛媛大学にて「地域情報学」(伊予銀行寄附部門)を担当する。H17年4月からH23年3月まで、高知大学国際・地域連携センター教授(生涯学習部門長)。平成26年10月より、愛媛大学社会連携推進機構教授として、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」、「地域の未来をステークホルダーと共に創る実践的人材の育成」に取り組んでいる(愛媛県南予地域担当の、地域連携コーディネーター)。その他、日本の情報化を、地域という視点で見直し、地域における「知的能力」と「コミュニケーション能力」を高めることにより、新たな産業集積や地域の活性化(地域の自立)が実現できないか、研究・実践している。 APPLIC(一般財団法人 全国地域情報化推進協会)の「ICT地域イノベーション委員会」でアドバイザーを務めている他、四国のICT利活用促進、ICT地域イノベーション、ICT人材育成に取り組んでいる。 平成15年9月、「地域産業おこしに燃える人」(内閣官房・経済産業省)に選定される(小泉総理より、首相官邸にて)。平成19年3月、内閣官房より「地域活性化伝道師」にも選定される。地域情報化アドバイザー(総務省委嘱)、四国情報通信懇談会、日本テレワーク協会(アドバイザー)、ICT地域マネージャー(総務省委嘱)、現代龍馬学会 他 |
| 櫻井 亨 | さくらい とおる | 公益財団法人川崎市産業振興財団 | 顔の見えるネットワークづくりを基本に企業、大学などの訪問活動を行ってまいりました。延べ2000社以上の企業を訪問し、経営者と面談するとともに、900人を超える大学研究者、リエゾン担当職員等との面談を通じて、相談や新事業の発掘を行っています。また、メディアの協力をいただき、記事掲載支援をしています。産学連携の取り組みとして、中小企業の技術、ノウハウを活用して大学の研究機器試作、研究成果の具現化を目指し、「産学連携・試作開発促進プロジェクト」を通じて、中小企業の新製品開発や、大手企業の知的財産を中小企業が活用するなど「川崎モデル」の取組を推進しています。最近では、ナノ医療を中心とした医工連携、地域中小企業との連携を推進しています。 |
| 佐々倉 玲於 | ささくら れお | 一般社団法人いなかパイプ | 高知県・四万十川流域に暮らしながら、「いなか」と「とかい」をつなげる事業開発&人材育成に取り組んでいます。海・山・川の一次産業の再生に向けて、農家さんや漁師さんたちとインターンシップ事業や起業家育成の事業に取り組んだり、商品開発や観光開発に関わるワークショップの企画運営を行っています。 |
| 定藤 繁樹 | さだとう しげき | 関西学院大学 | 2003年度 都市再生モデル調査を実施。2004年度 宝塚市と大学によるまちづくり包括協定締結、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(「現代GP」)に採択。2005年度 地域フィールドワークとしての取組、各種の社会実験(オープンカフェ、フリーマーケット、光の散歩道など)を実施。2006年度 地元大学との学学連携による各種取組。2007年度 地域フィールドワークとして商業イノベーション、映像プロジェクト、コミュニティ醸成などの取組。2008年度 逆瀬川地区の商店街活性化、巡回バス運行によるイベント活性化、フェアトレードなどの取組、「社会人基礎力グランプリ」準大賞を受賞。 |
| 佐藤 皓詞 | さとう ひろし | 有限会社日智(ニッチ) | ・地域環境と住まい手ニーズをしっかりと検証したまちづくり計画の推進支援 ・地域ポテンシャル分析とともに、「住まい手ニーズ」と「主体者シーズ」の掘り起こし ・地域資源(人、もの、歴史、観光、文化、環境など)の開拓 ・まち機能(医療福祉、教育、環境整備、生活利便施設など)の配置とゾーニング計画 ・まちづくりの担い手人材育成・継続できるまちづくりの仕組み造り指導 ・地域コミュニティ創出に向けたサービスや収益事業、施設計画事業などの指導 ・中心市街地活性化基本計画の推進におけるプロセスマネジメントの指導 |
| 佐野 綾子 | さの あやこ | International COYA | International COYAは、地方の学校や企業とグローバルコミュニティをつなげます。COYAはグローバル人材の育成を目指す学校、企業、地方公共団体のための、国際教育プログラムの開発と提供を行っています。インターネットを活用したプログラムでは、海外の様々な分野で活躍する多様な国籍の人々が講師となり、それぞれの仕事の内容、人生経験、自国の文化等について、英語でお話します。日本にいながら、参加者一人一人が、世界の多様な価値観に触れ、自分の新しい可能性に気づききっかけとなる講座の提供を目指します。詳しくはHP (http://internationalcoya.com) をご参照ください。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|-------------------------------|---|
| 猿舘 祐子 | さるだて ゆうこ | 株式会社土澤まちづくり会社 | 中心市街地活性化を目的とする住民参加協働型第3セクター株式会社土澤まちづくり会社設立当初より、事業の立案企画を担当。中小企業庁新・がんばる商店街77選に選ばれた土沢商店街を中心とする土沢地区での「街かど美術館アート@つちざわ(土澤)」、周辺農村地区で商店街を開催する「押しかけ商店街」などを実施している。また、商店街の活性化には、土沢地区の地域再生は不可欠と、(株)土澤まちづくり会社役員を中心に合同会社土澤長屋暮らしを立ち上げ、街なか居住と商店街の活性化を目的とした共同建替事業店舗付き共同住宅「こっぼら土澤」を10年越しに住民主体で完成させた。現在は、商店街(商店)と周辺農村(農家)の連携を図り、イベントによる地域発信、地域ブランドの開発を進めている。 |
| 澤崎 聡 | さわさき さとし | 澤崎聡事務所 | 行政・公共団体、地域企業を地域特性を生かした連携やゼロミッションなど発想の転換で取り組んでいます。農商工・観光・新産業を、歴史、まつり、食、文化を掘り起こし、地域のマインドを大切にアート・デザイン・ナレッジ・文化発想で事業化。オンリーワンの地域づくり、人づくり、ものづくりを展開。未来の主役、子どものための企画推進を実施。魚ブランド化や熊野古道宿泊、和紙復活、希少茶継続など地域文化経済への取り組みや、文楽世界遺産やロボカップ世界大会はじめグローバル戦略の現場経験から日本発プレミアムジャパン視点で事業戦略を実施。 |
| 篠原 靖 | しのはら やすし | 跡見学園女子大学 | 小職は約30年間に渡り、大手旅行会社で商品開発やマーケティング業務を行う一方、地域素材を活かした数々の着地型旅行商品をヒットさせてきました。現在は大学で「観光地域活性化」に関する教鞭をとる一方、その土地にしか無い観光資源の発掘とリメイクを行いながら新たな観光誘客に必要な受け入れ態勢の整備(日本版DMOの構築)のお手伝いをしております。地方創生戦略で新たに注目を集めているのは交流人口を拡大し地域の小さな経済を回す新しい概念の観光による地域活性化の手法です。観光は今や農業、漁業や商業、工業など地域力を総結集して地域の魅力を120%創出する事が求められています。一方インバウンド観光客は2000万時代を迎え訪日外国人旅行者の消費額は3兆円を突破しました。しかし課題は外国人観光客の地方分散です。こうした新たな流れの中で全国の市町村においても出来る対策を今から準備する必要に迫られています。しかし多くの地域は一生懸命に取り組んではいるものの、残念な事に空回りしている地域が大変多いのが現状です。全国各地で実践してきた現場の成功事例、失敗事例をベースしながら、『自分の地域を本当に何とかしたい!』という熱い皆さんの地域を応援していきます。 |
| 四宮 博 | しのみや ひろし | 洞爺湖温泉利用協同組合 | 平成17年静岡県伊豆の国市伊豆長岡温泉の温泉供給施設の老朽化に伴い、温泉集中管理施設整備事業の設計管理に関わり温泉資源の見える化による資源保護と省エネ型供給施設の構築を実施した。また平成22年鳥取県米子市皆生温泉の温泉供給施設の一步進んだ集中管理施設整備のプランニング設計を構築。平成23年長野県安曇野市穂高温泉 西穂高地区の温泉供給施設のエネルギー効率向上の技術指導を行った。平成25年岩手県盛岡市繋温泉が集中豪雨により温泉供給施設に被害を受け、復旧計画書を作成及び復旧事業支援を行う。 |
| 島谷 留美子 | しまたに るみこ | (株)東北地域環境研究室 | 各地の観光調査、道の駅など地域の交流拠点施設等の企画、計画づくりにかかわっております。これまで岩手県平泉町の世界遺産登録に向けた観光まちづくり調査、宮城県大崎市、石巻市、秋田県横手市、山形県米沢市の道の駅建設事業、青森県東通村などの観光調査、農水産物直売所等建設計画などのお手伝いをさせていただきました。平成23年度には、東北7県(新潟県を含む)の農山村の女性起業家の動向を調査し、起業をめざしたきっかけ、困難にぶつかったときにどう乗り越えたのか、事業を継続する上でのポイント、これからの目標等についてインタビューを行ってまとめました。地域の皆様とともに考え、課題を解決していくことを心がけております。 |
| 志村 尚一 | しむら しょういち | 有限会社ウィルビー/株式会社源喜舎/劇団ぜんとうようくらぶ | 「一人一人のキラめきが輝く未来をつくりだす」をモットーに、資源の発掘と活用の仕方、住民一人一人が人材(役に立つ人)となれるような人材育成を、地域に密着して指導・アドバイスを行っている。これまで指導した地域の方々からは、「自分達が気づいてなかった地域の可能性に気づかされ、実践方法も具体的にアドバイスしてくれるので、確実に成果が上がる」との声をいただいている。 現在、岩手県西和賀町の産業公社・湯田牛乳公社のゼネラルマネージャーに就任し7年目だが、人材育成と、所得と雇用の確保を目的に、6次産業と相乗効果を生み出す協働という手段を用いながら、地元の資源を生かした産業振興を推し進めている。 平成23年から、三陸の震災被災地で地域コミュニティ再生・復興のための支援活動(延600回)を行っている。そのほかにも、全国各地で「6次産業化」「農林水産業」「教育」「福祉」「人材育成」など幅広いテーマで、年間100回以上の講演・研修を行っている。 また、自身が主宰する劇団『ぜんとうようくらぶ』は、「介護保険」「食農教育」「協働によるまちづくり」などを題材にした演劇を全国各地で多数上演。他にも、「市民憲章運動推進全国大会」「全国農業青年交換大会」「農山漁村女性の日記念の集い」などで、記念講演や演劇公演を行う。 平成25年から、岩手の銘柄豚「白金豚」の生産農場と連携する居酒屋『源喜屋』の経営を行い、県内の生産者と消費者をつなぐ6次産業化のモデルとして各方面から注目されている。 平成29年からは、行政や地域の依頼を受けて、「共生型地域コミュニティ」や「地域包括ケアシステム」の構築につながる住民の意識改革・行動改革を目的とした講演・研修も行う。 <<※平成29年の取組概要は別紙参照>> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|-------------------------------|--|
| 須川 一幸 | すがわ かずゆき | 東京富士大学/榊地域振興研究所/JEPCイベント総合研究所 | 昭和58年から地域に入り、地域資源の調査の現場で「地域の宝物」を再発見する活動を実践してきた。イベントによる地域活性化から入り、商店街振興、観光振興、農業振興、福祉や教育・文化の振興など地域のあらゆる分野の活性化に企画・計画～実施～検証～時代に合った計画に修正～実施～検証と継続的に地域と関わってきた。特に、宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町については、グリーン・ツーリズムによる活性化にはじまり、商店街振興、観光振興、介護福祉計画、長期総合計画と町のすべての分野に関わり、町のシンクタンク的存在としての役割を担ってきた。その後、熊本県の農産物直売施設(道の駅物産館を含む)の立ち上げ、再建、運営指導などを行い、長崎・佐世保・雲仙アンテナショップ「キトラス」の販路拡大コーディネーターや福岡市商店街活カアップ支援事業の手伝い、J A熊本直売所の運営アドバイス、限界集落での高齢者による地域づくり活動支援等を行い、全国的には地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」の講師やNPO法人全国街道交流会議の理事として歴史街道市町村の街道を活かしたまちづくりにも参加している。また、J I C Aで中央アジアや中南米の行政研修の講師も務める。太宰府市では「米づくり隊」「カンボジアに井戸を掘る会」「東北の酒を飲む会」等地域づくりを地域住民と共に実践している。九州・沖縄地域づくり会議相談役にも就任した。 |
| 鈴木 輝隆 | すずき てるたか | 立正大学経済学部 | 山梨県甲州市勝沼町「榊中央葡萄酒」の戦略とブランディング 八王子市「TAKAO 599 MUSEUM」の建設プロデュースと運営協議会のコーディネーター 北海道清里町「清里焼酎ブランド」形成や町の総合的ブランディングのプロデュース 北海道東川町「移住・定住促進」のポスターやパンフレット作成のプロデュース 愛媛県内子町石畳地区「小さな拠点を核としたふるさと集落生活圏形成推進事業」プロデュース 熊本県人吉球磨日本遺産活用協議会「日本遺産人吉球磨ブランドづくり推進事業」総合プロデュース(建築家・隈研吾氏、デザイナー・原研哉氏) 北海道北竜町地域ブランド作成プロデュース(デザイナー・梅原真氏) |
| 鈴木 邦治 | すずき くにはる | 一般社団法人 頑張る地域支援し隊 | ・地域イノベーション創出による地域活性化及び人材育成、まちづくり ・自治体の広域連携による情報通信を用いた教育、介護、農業等の推進 ・新エネ省エネによる新産業の創出 ・地域資源を活用した6次産業の開拓 ・防災、減災を踏まえたまちづくり(スマートコミュニティ) ・道の駅やインキュベーション施設などの活性化 ・企業誘致・公募事業による実証実験や研究ほか |
| 関 幸子 | せき さちこ | 株式会社ローカルファースト研究所 | 1997年よりSOHO CITY みたか構想、中心市街地活性化事業に取り組み、株式会社まちづくり三鷹を設立、三鷹産業プラザの建設、三鷹電子商店街、三鷹子育てねっと、三鷹光ワークスなどのプロジェクト、2002年～2005年経済産業省の地域新生コンソーシアム事業にて高解像度医療用顕微鏡開発事業 2007年12月秋葉原タウンマージメント株式会社設立: 広告事業などエリアマネジメント事業、2009年4月 財団法人まちみらい千代田 専門調査員就任: 「市町村サテライトオフィス東京」 2010年10月株式会社ローカルファースト研究所設立。全国の人口減少し過疎化する地域の活性化と地域産業の振興に取り組む 2011年9月 震災復興ワークス設立 東日本大震災で大きな被害を受けた自治体支援 2014年より、地域活性化に関する関係閣僚会合 地域プラットフォームワーキングチームメンバー就任し、地域再生計画モデル地区の評価を実施 2015年3月より東洋大学にて地方創生推進に向けた人材育成塾を開催 |
| 善養寺 幸子 | ぜんようじ さちこ | 株式会社 日本農水産食品輸出貿易センター | 《環境教育》 環境省「学校エコ改修と環境教育事業」のサポート本部。全国のモデル校を支援 《環境都市デザイン》 新潟県新潟市「西野・中野山サステナブルエコタウン構想(区画整理事業)」企画構想策定 《環境政策コンサルティング》 ・「クールシティ・エコシティ普及促進勉強会」、「ローカーボン地域づくり・まちづくり研究会」等、産官学連携勉強会企画 ・「内閣府社会起業インキュベーション事業」運営、アドバイス支援 ・産官民協働事業「エコビジネスの芽を見つけ、育てるコンテスト「eco japan cup」」企画・統括プロデューサー 《復興支援》 ・福島県双葉町平成24年度復興まちづくり計画策定に向けた「町民参加の7000人の復興会議」企画提案・実施 ・復興庁「復興ビジネスコンテスト「REVIVE JAPAN CUP2013」」企画運営 |
| 早田 吉伸 | そうだ よしのぶ | 特定非営利活動法人 カット・ジェーピー (Cut-jp) | ・「システムデザイン」「情報アーキテクティング」の考え方をベースに、様々な社会課題を解決するためのコンセプトワーク及びその実現のための事業プロデュースを多様なフィールドを通じて実践しています。 ・中長期的なランドデザインを描くことから、現場における「何をやらなければいいかわからない」という状況の打破まで、マクロ・ミクロの課題を各ステークホルダーの方々と一緒に考え、試行し、解決に導くことをモットーにしています。 ・特にIT(情報技術)の領域においては、「利活用」「公共サービス」の視点からコンサルティングを実施し、地域活性化に向けた課題解決につなげていきます。 |
| 曾根原 久司 | そねはら ひさし | NPO法人えがおつなげて | 限界集落になってしまった農村地域の耕作放棄地や森林資源といった農村資源の活用を、企業ファームという手法で、三菱地所グループなど多数の企業との連携で行うことによって、農村の活性化に取り組んでいます。また現在は、今までの活動実績を踏まえ、山梨のみならず、北海道、三重、滋賀、広島など、全国の農村地域の活性化の支援や人材育成の活動を行っています。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|-------------------------------------|---|
| 高木 治夫 | たかぎ はるお | 京都フラワーツーリズム合同会社 | <p>●世界のカメラ愛好家が「京都の魅力」を発信！ 背景：京都の花街は右肩下がり。 目的：花街文化の魅力を世界に発信し花街のファンを増やす。 具体的内容：『世界のカメラ愛好家』が自ら費用負担をおこないファンになり京都の魅力発信に貢献。 成果：シェアリングエコノミー時代の「三方よし」のビジネスモデルを構築した。この結果、持続発展や他地域への展開が可能となった。</p> <p>1) カメラ愛好家にとって： ①撮影機会の提供、 ②作品発表の舞台を提供 舞妓さん自身が写真をチェックし肖像権をクリアオープンデータとして作品を世界へ公開</p> <p>2) 花街にとって：花街文化を世界へ発信 舞妓さん応援ファンの拡大</p> <p>3) 撮影会場にとって：会場の魅力を世界へ発信</p> <p>一眼レフを持つハイアマチュアの知恵やエネルギーを、心地よく楽しく、花街発展のために貢献してもらった仕組みを実現できた！</p> <p>●オープンデータを活用できるシェアリングエコノミー時代のCMS「OpenMatome」(CMSの大革命)</p> <p>1) CMSの大革命 情報発信力を高めるために「記事作成」の生産性を革命的に高める。 スマホ時代になりながらCMSは依然として古いまま。 そのままの概念をスマホやシェアリングエコノミーから組み立てた新しいCMS。</p> <p>2) 記事のシェアリング お互いに記事をシェアして、それぞれのHPから発信。 記事作成の効率化と情報の拡散を実現。</p> <p>3) コンテンツ(個人の体験情報など)の発信力を高める 記事が多くHPで活用され、記事作成のモチベーションを高める。</p> |
| 高島 利尚 | たかしま としなお | TMI | <p>「中小機構関東本部 経営支援部」にて、地域資源活用プログラム、農商工連携の案件掘り起しから、認定申請書作成、認定後のフォローアップに至る一連の活動の支援およびそのマネジメントを行ってきた。 同時に、商工会議所、商工会、中央会、都県の支援センター、金融機関等の支援機関に対して、地域資源活用プログラム、農商工連携の制度普及に向けての諸活動をしている。 中小企業大学校等にて、地域活性化に関するセミナー、講演等も行っている。 現在、神奈川県寒川町にて、地域の産業振興支援を行っている。 その他 ITを活用しての地域活性化に向けての活動支援も行っている。</p> |
| 高津 定弘 | たかつ さだひろ | 高千穂大学 | 国土計画、経済計画、地域開発、地域政策、経済政策など |
| 高橋 和勲 | たかはし かずゆき | NPO法人 ワップフィルム | <p>映画という手法により「映画による地域力創生事業」、「地域コミュニティの連携」を提案。 対話型映画による研修プログラムの提案。</p> <p>I. 映画製作によるオープンイノベーション ・地域と人と組織を繋げて活性化。 ・地域資源を活かし新たな視点で組合せることでイノベーションを生み出す。 ・映像作品活用の普及/指導(地域のPR映像など)</p> <p>II. 地域映画×上映フューチャーセッションのパッケージ化 ・まちを自分たちの手で変えていく、多様な参加者による対話と人々の幸せ。 ・日本各地の自分たちのまちの未来へ置き換えて考え、対話、共創の中から協調アクションへの場づくり。</p> <p>III. キネマフューチャーセンタープロジェクトの推進 ・商店街空き家、空き店舗、社会問題の解決。 ・コミュニティスペース/フューチャーセンター/コミュニティ映画館として運営。 ・未来創造のための人事育成、産官学金、地域(農工商)連携及び新産業創出の場づくり。 ・対話型映画「未来シャッター」記録的な上映ロングランを更新中。(連続2年半以上)</p> |
| 高橋 聡 | たかはし さとる | カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社 行政サービス企画カンパニー | <p>主に図書館を主軸とした、地方創生の核となる公共施設の企画開発を行っています。佐賀県武雄市の依頼を受け、図書館のリニューアルを企画し、2013年4月より指定管理者として武雄市図書館の運営をスタート。年中無休・夜9時まで開館、書店やカフェの併設などを実現し、人口5万人の武雄市で、同図書館は1年間で92万人の来館者を迎えました。これは、リニューアル以前と比較すると360%の来館者数です。知の拠点であると同時に、賑わいを創出する公共施設としてコミュニティの中心的役割も担い、その町の方々によるイベントやワークショップも開催しています。2015年10月からは神奈川県海老名市の海老名市立図書館の運営も行っています。また、2016年宮城県多賀城市、岡山県高梁市との取り組みも行っています。</p> |
| 高橋 肇 | たかはし ただし | 山口大学農学部 | <p>「小麦栽培から始めるパンづくり」～山口県産小麦粉を使った地産地消パン普及のとりくみ～ 山口県周南市で「自分たちで栽培した小麦を収穫してパンをつくりたい」という田舎好き、パンづくり好きの仲間たちとともに、石窯を使ってつくるオリジナルのパンづくりを研究してきた。10年間の研究を通じて、山口県のすすめる県産小麦を使った地産地消パン普及のとりくみにも協力してきた。小麦栽培、小麦粉の製粉、石窯の扱い、パンづくりなどの科学として演出し、大学の公開講座として市民に提供してきた。講座の受講生を介して仲間をひろげ、とりくみをすすめている。このとりくみは、過疎高齢化で崩壊しようとしている地域でのコミュニティ回復策の一例として農林水産関係者から注目されてきたとともに、食育や食農教育の素材として環境教育関係者からも注目されてきた。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|---|--|
| 高村 義晴 | たかむら よしはる | 日本大学理工学部まちづくり工学科 | ①大都市等の企業・社員と地域のプロジェクトをマッチングさせる「二地域就労」による、新たな地方再生の仕組みづくりの取組み(二地域就労プロジェクトの提唱) ②「地域の起業」興しによる地域主体の復興の推進(起業復興の提唱) ③「人口減少社会における持続可能な都市・地域づくり」の新たな方法論として、その土地々々の美意識や作法、技、資源を生かした暮らしのスタイル(ライフスタイル)を築き、そのブランド化をとおり、手仕事・生業、信頼と絆、誇りを生み出す都市・地域づくりを展開。 ④疲弊の進む郊外型住宅団地の再生法について、「住民の住民による街づくり会社方式」の提唱、土地の利用と所有の分離、また手仕事や楽しみ、暮らしの創造などを提唱。 ⑤その土地々々の多彩な暮らしのスタイル、暮らしの楽しみ方を築き、それに彩られる地域の営みや手工芸品を語る生活文化創造産業の普及運動(クールジャパン)と展開(経産省) |
| 高本 壮 | たかもと そう | (株)白鳳堂 | ○筆の生産販売 ○筆は道具なりというスローガンの下、妥協しないモノ作り、良質の材料を安定して入手し、鍛えられた従業員が生産にあたり、その商品が消費者に受け入れられ満足する、仕組み作りと、人材教育。また、国内のみならず、海外にも進出。 ○ものづくりの文化雑誌『ふでばこ』の発行 |
| 滝澤 恵一 | たきざわ けいいち | 中小企業診断士滝澤恵一事務所(一社)長野県中小企業診断協会/NPO法人地域づくりクラブ | 「自分を生きる、ともに生きる」をメインテーマに、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、農商工連携、商店街や観光業者と農林漁業者の連携の支援。「暮らす、働く、生きる」「ゆらぎをつくる」「地域コミュニティ、ライフスタイルコミュニティ、ビジネススタイルコミュニティによりコミュニティを創る」「コミュニティとはともに生きていると実感できる場であり、場とは時間と空間である」「地域の絶対的個性は歴史と文化であり、これを見つけ、活かし、育てつなげるのは人であり、人的文化である」などの視点から、現場でワークをし、「感じ、考え、動くこと」を伝えている。また、「地域づくりは経営である」「経営とは、心と頭脳、身体を持った人の行為である」という視点で支援を続けている。 |
| 武井 史織 | たけい しおり | アドビ システムズ 株式会社 | 世界100都市以上で開催中の延べ30,000人以上のクリエイターが参加し続けるコミュニティーイベント『Adobe Creative Jam』のアジア開催に従事。また、「デザインの力」と「地域活性」や「教育」を掛け合わせた課題解決型プログラム『Design Jimoto』を立ち上げ、各地域のクリエイティブコミュニティーや地元団体と連携し、産業を横断したさまざまな場づくりを手がける。 |
| 竹田 純一 | たけだ じゅんいち | 東京農業大学/農山村支援センター | 社会的協働による山村再生対策構築事業「山村再生支援センター」(林野庁)里地里山保全方策の検討とモデル地域づくり(環境省) トキの野生復帰をめざした共生と循環の地域社会づくり(環境省、新潟県)人と自然が織りなす里地環境づくり(農水省、環境省) アベサンショウウオの保全と地域社会づくり(福井県庁)神奈川県里地里山条例検討委員、里地里山づくり事業、他(神奈川県庁)日本の里地里山30保全活用コンテスト事務局(読売新聞、環境省) イオン里地里山保全活動(イオン環境財団) この他、エコスクール、再生建築の調査、水保セミナー、市民政策提言フォーラム、かおり風景百選、星空の街あおぞらの街全国大会(環境省) |
| 武田 昌大 | たけだ まさひろ | 株式会社kedama | ◎秋田県北秋田市に会社を設立。少子高齢化日本一・人口減少率日本一の秋田の活性化をミッションとし奮闘。《農業活性事業》2011年、秋田県の若手米農家集団トラ男のブランディングとネット販売・飲食店への卸売・体験イベントなど独自販路の拡大。出荷量を初年度の60倍に伸ばし、全国に約3000人のファンを獲得。百貨店「高島屋」での販売や、無印良品のサイト販売などの企業コラボも多数実現。都内飲食店への卸売販売など販路開拓された。《古民家活性事業》2015年、秋田県五城目町にある築133年の茅葺古民家をリノベーションして会員制のゲストハウス「シェアビレッジ」をオープン。2015年、グッドデザイン賞ベスト100・特別賞地域づくりデザイン賞受賞。全国に残る古民家を村に変えることで都市と田舎を新たなつながりを拡大中。 |
| 田城 孝雄 | たしろ たかお | 放送大学 | 平成9年に国立大学医学部付属病院として初めての総合医療連携部門(医療社会福祉部)を立ち上げました。さらに地域包括ケアの先進モデルである広島県尾道市の取組みの解析を行い、多くの知見を得ました。東京都保健医療計画策定協議会改定部会委員や、世田谷区地域保健福祉審議会での議論を通じ、地域における保健・医療・福祉計画の立案に関与しました。また、板橋区乳がんの地域連携パス検討委員会委員、足立区糖尿病対策協議会アドバイザー、横須賀市医師会医療連携協議会アドバイザー、さらに豊島区在宅医療推進協議会会長、文京区在宅医療推進協議会部会長など、行政と三師会などとの協議会の運営に関わり、いろいろな立場の方々の意見を尊重しながら、地域の保健・医療・介護・福祉のネットワーク作りに取り組んでいます。また、全国で招請され講演を行っております。 内閣官房地域活性化統合本部 地域再生推進委員会 委員長として、地域再生を推進する方策の検討に取組んでいます。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|--------------------|--|
| 館 逸志 | たち いつし | 地域活性化学会 | 平成18年～25年の8年間、北陸先端大にて地域再生システム論を開講。カリキュラムの作成、企画・運営に関わる。以来、大学を拠点とする産官学連携の地域活性化に関わってきた。具体的には、北陸先端大では、温泉地の活性化、伝統工芸と地域活性化、鳥取大では、地元出身の経済人の地域貢献活動の支援としての大山活性化講座の開講、熱海・湯河原では民間主導で県境を跨る広域的な地域活性化を進める取り組みを支援してきた。内閣府の経済社会総合研究所においては、こうした大学の地域活性化システム論の展開を横断的に支援するためにカリキュラム研究会を開催、平成24年度には「地域活性化システム論カリキュラム研究会報告書」 http://www.esri.go.jp/jp/prj/hou/hou061/hou61.pdf を纏めた。平成20年からは、木村俊昭氏らとともに地域活性化学会の発足に関わり、現在副会長、研究推進委員長として産官学の連携による地域活性化を各分野で推進するプラットフォームづくりをお手伝い。公益資本主義推進協議会が進めるマイコミユニティフォーラムでは大学と地元若手実業家の連携による地域活性化を促進。企業経営者の推進する産官学協力の地域活性化事業の推進をお手伝い。母校埼玉大学では平成30年度から地元創業経営者などから学生が生業、起業、事業継承などを学ぶ「実践ベンチャー論」を開講予定。 |
| 田中 淳一 | たなか じゅんいち | 一般社団法人ローカルソリューションズ | これまでの企業経営・新規事業企画・PR企画などの経験を活かし、少子化対策・移住定住・女性活躍等の分野に於いて、農業ICTやシェアリングエコノミー等の新しいテクノロジーの導入によって地域の女性を取り巻く社会環境を向上させ、旧来型の社会規範が根強い地域の「文化のスマート化」を推進するなど、地域の人口流出といった課題に対して様々なテクノロジーを複合的に活用する取り組みを支援しています。 |
| 田邊 寛子 | たなべひろこ | まちひとこと総合計画室 | <p><アドバイザーとしての取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光：地形や境界など地理的な要素も地域資源ととらえ、歴史や産業と合いまったその地域らしい観光づくりを持続可能な仕組みづくりを視点にアドバイスをしている。 例) 長野県辰野町：横川溪谷地域資源活用観光モデルコースの住民の主体的な開発事業に講師として参画。 ・社会福祉：離島の福祉について、地域資源の活用し、障がい者や高齢者の「生きがい」「自立」「持続可能」を視点に場づくりの支援を行っている。 例) 鹿児島県徳之島：社会福祉法人の複数の施設の再編と改善を地域と連携した施設づくりのアドバイザーとして参画。 <p><コンサルタント・景観デザイナーとしての取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観デザイン：その地域の地域資源である風景は人々の暮らしと生業が根本にあり、ハードのデザインだけでなく、ヒト・コトづくりにつながる関係のデザインも同時にアドバイスしている。 例) 葛飾柴又帝釈天参道周辺：住民主体の景観づくりを2004年からまちなみガイドラインの作成やまちなみ協議会の運営を支援し、2018年文化的景観に選定。 |
| 谷本 訓男 | たにもと のりお | 八幡浜港みなとまちづくり協議会 | 八幡浜港みなとまちづくりの会長として、市民フォーラムの開催、みなとまちづくりプランの策定、みなとまちづくりコンペの実施、市長へのみなとまちづくり提言書の提出など、産・民・官・学の連携による地域のみなとまちづくりを先導的に推進しています。 平成18年より地元高校生徒に授業として「まちづくりとものづくり」の講演行っております。 平成25年4月より非営利活動法人港まちづくり八幡浜でみなと交流館の指定管理業務。 平成19年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。 平成24年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。 平成25年 公益社団法人日本港湾協会港湾功労賞受賞 平成25年 ポート オブ ザ イヤー 受賞 |
| 田淵 正人 | たぶち まさと | 滋賀県愛荘町 | <ul style="list-style-type: none"> ■観光振興・地域振興等に対する支援や指導、アドバイス <ul style="list-style-type: none"> ○観光地域づくり ○ニューツーリズム・着地型観光・体験交流型観光 ○観光振興計画・観光ビジョン等の策定 ○観光振興・地域振興・人材育成等の講演会や研修会、セミナー等の講師 ○プラットフォームや広域連携等の仕組み作り、強化等 ○人材育成(担い手・コーディネーター)や農家民宿開発等 ○着地型旅行商品や体験交流プログラム等の商品造成 ○第6次産業化、農商工連携 ■まちづくり・地域活性化・地域再生 <ul style="list-style-type: none"> ○地域活性化支援アドバイザー ○地域資源活用アドバイザー |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|------------|------------------------------|--|
| 玉田 樹 | たまだ たつる | 株ふるさと回帰総合政策研究所 | <p>○「ふるさと回帰を促進する仕組み」の提案と支援 遅々として進まない「地方創生」に対して「地方創生 逆転の一打」を出版し、国は「公助」づくりに躊躇があってはならない、ということを書きました。地方からの声が上がることが期待します。</p> <p>○「ふるさと起業」の支援 “東京で雇用されているより田舎で生業をつくりたい”とする人が30%を超える時代となりました。このための起業研修や起業の立ち上げの支援をしています。</p> <p>○「空き家の市場化」の支援 “空き家が14%ある”といえども、市場に出てくるのはわずか数%にすぎません。田舎の空き家所有者の6割は大都市に住んでいるので、これに働きかけるプロジェクトを提案・支援します。</p> <p>○「“企業人”の誘致や城下町の形成」の支援 これまでのように企業を誘致するのではなく、“企業人”を誘致する時代となりました。この方策について研究を進め、具体的な支援をしています。</p> |
| 玉村 雅敏 | たまむら まさと | 慶應義塾大学 総合政策学部 | <ul style="list-style-type: none"> 自治体の地域戦略の立案・推進や官民連携モデルの構築支援、SDGsやグローバル戦略、企業のソーシャルマーケティング戦略やCSV戦略の立案、社会インパクト評価、生活価値や幸福度の評価手法開発、地域マイレージ、ミュージアムマーケティング、学校評価、政策マーケティング（青森県・東海市等）、ぶり奨学プログラム（長島町・氷見市）、スポーツによるまちづくりなどのシステム設計を手がける 全国各地にて、実効性のある総合計画の構築や、トータルマネジメントシステムの構築、計画群の総合化など、自治体経営のシステム構築に従事 地域の生活課題や生活価値、幸福度などを、関係者協働で調査し、その「みえる化」と「共有化」から協働・共創を促すシステム構築を支援 公共施設のリノベーションや、ミュージアムや図書館等の文化・観光施設、企業のコミュニケーション施設の基本構想検討を支援 |
| 塚本 芳昭 | つかもと よしあき | 一般財団法人 バイオインダストリー協会 | 産学連携、技術移転、ベンチャーと製薬企業等のアライアンス、クラスター形成等の地域振興に関する業務を実施しています。またバイオ分野のリーダー人材育成に関する業務にも取り組んでいます。 |
| 都築 富士男 | つづき ふじお | 株式会社都築経営研究所 | <ul style="list-style-type: none"> ●雑誌「農業応援隊」の発行 ●講演活動 行政、金融機関、企業、農業、各種団体など 北海道から沖縄まで全国各地で講演活動 ●地域活性化活動 顧問先と一緒に地域活性化の取組活動 |
| 鶴田 浩一郎 | つるた こういちろう | NPO法人 ハットウ・オンパク | <p>NPO法人ハットウ・オンパクは、別府八湯地域において温泉を核とした様々な産業を起こす事を目的としています。この取組を通じて実現したいのは以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の資源（温泉、自然環境、町並み、人材など）を活かした多彩なプログラムの提供を通じて、各種のサービス産業が成長すること 2. オンパクに参加する事で住民が健康で前向きな暮らし（ウェルネスライフ）を送る事ができ、生活の質（QOL）の向上につながる 3. 旅行者がオンパクに参加し、各種の体験や交流の機会を得る事で別府八湯のファンになっていただき、リピート化や長期滞在化を実現すること |
| 寺井 良夫 | てらい よしお | 株式会社 邑計画事務所、一般社団法人SAVE IWATE | <ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりのコンサルタント 株式会社邑計画事務所では、主に岩手県内のまちづくりに関するコンサルタントを行っています。一方、仕事外でもまちづくりに関わるさまざまな実践活動に取り組んでいます。 ●被災地支援活動 東日本大震災を機に市民のボランティア団体「一般社団法人 SAVE IWATE」を立ち上げ、理事長として物資支援、生活相談、心のケア、仕事づくり、学習支援、チャリティ活動など、幅広い支援活動に取り組んでいます。そのなかで、地域の埋もれた資源であるクルミを活用しての特産づくりが動き始めています。これからは とくに被災地での仕事づくり、新たなまちづくりに重点をおく考えでいます。 |
| 刀根 浩志 | とね ひろし | 観光ビジネス総研 | <p>平成28年度事業紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県 「沖縄観光課題解決プロジェクト」アドバイザー ・ 京都府、兵庫県「山陰海岸ジオパークセミナー」講師 ・ 和歌山県市町村組合 職員研修会 「わがまちツーリズム創造セミナー」講師 ・ 農山漁村活性化支援人材バンク「地方創生セミナー」講師 |
| 殿村 美樹 | とのむら みき | 株式会社TMオフィス | <p>PR（パブリック・リレーションズ）の基本コンセプトであるWin-Winのコミュニケーション概念を生かし、地域が自律的に活性化する仕組みづくりをプロデュースしています。</p> <p>日本の地域には長い歴史と奥深い文化があり、どの地域にも必ず、世界に引けを取らない魅力が眠っています。ただ、その魅力を引き出すためには客観的な視点と時代のニーズを把握する視点、さらにはタイミングを見据えた情報発信技術が必要になります。</p> <p>私はこれまで約30年間にわたり、約2,800件の実績を積むことで、これらを成功させるノウハウを確立しました。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|----------|-------------------|--|
| 土肥 健夫 | どひ たけお | 株式会社 事業開発推進機構 | <p>一般的な商業集積、観光施設作り等に加えて、事業化・収益化が難しいと考えられている、以下のようなソフト事業の自立的な事業化に取り組んでおります。取り組みの“事業としての仕立て”を最も得手としております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御当地検定： 明石タコ検定(兵庫県明石市) ・食によるまちづくり： 「鍋焼きラーメン」によるまちづくりと「浪花麺だらけ(大阪市)」、「新横浜ラーメン博物館(横浜市)」への出店支援(高知県須崎市) ・観光案内人、各種アクティビティ ・インストラクター等のプログラムを絡めた、伝統的建造物群保全地区における漁家民宿整備(京都府伊根町) ・地域活性化と連動したスポーツ・マネジメント(石川県金沢市等) |
| 豊岡 和美 | とよおか かずみ | 一般社団法人徳島地域エネルギー) | <p>再生可能エネルギーを活用し、地域の経済循環をつくるためには、地域が主体となつての事業化が必要です。そのためには、基本情報を精査し、資金を調達し、事業化できるまでを徹底的に支援する必要があります。特に大切なのは事業の採算性の確保と、事業の利益を地域の活性化にどう役立たせるかということです。地域が自主性を持って事業が出来るようになるように、地域に寄り合い、伴走できるアドバイザーをめざして取組を進めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 再生可能エネルギーを事業化する取組を支援します。 (2) 収益の地元還元型事業の総合的企画策定を支援します。 (3) 自治体と連携し、地域の問題解決に資する取り組みを提案します。 |
| 長岡 力 | ながおか つとむ | 株式会社リンクアンドイノベーション | <p>地域と中小企業のイノベーションを目指す経営コンサルタント。</p> <p>平成27年度の主な活動実績</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特定非営利活動法人への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人グローバル・ヒューマン・イノベーション協会(東京都渋谷区)、特定非営利活動法人グローバル新世代イノベーター育成協会(東京都渋谷区)、特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク(東京都杉並区)、特定非営利活動法人 ピアサポートネットしゅや(東京都渋谷区)が行う各種活動の支援 2. 中小企業経済団体への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県商工会連合会、沼田市東部商工会(群馬県)、高崎市榛名商工会(群馬県)、昭和村商工会(群馬県)、片品村商工会(群馬県)、群馬伊勢崎商工会(群馬県)、前橋東部商工会(群馬県)、長野原町商工会(群馬県)、みえ熊野古道商工会(三重県)、南あわじ市商工会(兵庫県)等が実施する事業支援 3. 大学への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・青山学院大学(東京都渋谷区)、別府溝部学園短期大学(大分県別府市)、大分大学(大分県大分市)が実施する各種事業への企画段階からの参入支援 4. 中小企業への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり製造業等への経営戦略構築、経営革新計画、ものづくり補助金、持続化補助金策定支援 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> 小規模事業者持続化補助金事業書審査委員、6次産業化プランナー、東京商工会議所エキスパート、ミラサポ専門家他 |
| 中川玄洋 | なががわげんよう | 特定非営利活動法人学生人材バンク | <p>特定非営利活動法人学生人材バンク</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 大学生ボランティアを継続的に農村集落へ派遣 <ul style="list-style-type: none"> 平成14年より農山村ボランティアとして大学生を年間30地域、延べ500名/年派遣しています(農村16きっぷプロジェクト)。その中から、大学生が地域で企画を実施したり、田んぼを借り生産から販売までを行なう三徳レンジャープロジェクトも生まれています。 (2) 若者の移住、起業支援 <ul style="list-style-type: none"> 鳥取大学卒業生が集落へ移住し農業後継者になることや、起業支援、就職支援を行なっています。2015年より、地域おこし協力隊後方支援を、株式会社鳥取銀行と一緒にこなっています。 平成25年から「全国地域仕掛け人市」という求人イベントを実行委員会形式(事務局NPO法人ETIC.)で行ない、地方と都市をつなぐ仕掛けとして継続中です。 (3) イベントボランティアのコーディネート <ul style="list-style-type: none"> 立ち上げ時から、鳥取県のイベントボランティアコーディネートの仕事も行ってきました。老若男女の市民参加の舞台を作る仕組みをお手伝いすることが可能です。 (4) 中小企業向けの若者派遣プログラム <ul style="list-style-type: none"> 長期実践型インターンシップ事業を活用し、1カ月から6カ月の大学生による中小企業の活性化事業を行ないます。また若手社員の異業種研修として、鳥取パラレル留学というプログラムも中小企業・県内金融機関と連携して実施しています。 (5) 地域のつなぎ役、バランスをとる役割として <ul style="list-style-type: none"> 大学生、行政、民間、NPO、住民などの参画の場づくりやサポートの役割を担っております。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|----------------------|---|
| 長坂 尚登 | ながさか なおと | 豊橋屋 / WE LOVE MIKAWA | 愛知県豊橋市の商店街マネージャーとして、まちなか活性化のために奔走。 ■「豊橋まちなかお店マップ」「豊橋まちなか看板娘マップ」の作成 ■空き店舗を改修した交流拠点「花園ベース：HANACOYA」の設置、運営 【グッドデザイン賞2014】 ■空き店舗・空き家見学ツアー ■「豊橋に日本一の図書館をつくらうプロジェクト」 などを実施。地元の学生や若手社会人らを、戦力的に活用し、成果を上げている。 <経歴・実績> H21農水省： 農業を通じた日系ブラジル人青少年と地域社会との共生プロジェクト（豊橋市） H20, 21内閣府、H22, 23総務省： 高齢者対応の長期滞在旅行の立ち上げ（沖縄県久米島町） H19経産省、H20全国商工会連合会： 食物アレルギー対応旅行の立ち上げ（沖縄県久米島町） その他、国内消費財メーカーなどBtoC企業へのマーケティング調査多数。 |
| 長坂 泰之 | ながさか やすゆき | 独立行政法人 中小企業基盤整備機構 | 商業まちづくりを中心に、地域再生・創生、中心市街地の再生、震災復興支援、まちなか観光、地域資源活用などをプロジェクトチームを組んでご支援させていただいています。また、事業リスク、事業の成立性、投資採算性、コミュニティの創造、エリア価値の創造、そして人づくりの観点から、プロジェクトをチェックし、時代の変化に対応し、かつ身の丈に合った計画づくりを心掛けてご支援をさせていただいています。 |
| 中澤 さかな | なかさわ さかな | 道の駅/菰しーまーと | <ul style="list-style-type: none"> ●郷土料理遺産の活用プロジェクト(鳥根県隠岐の島町 2012～) ●久礼大正町市場を中心とした漁師町の再生(高知県中土佐町 2013～) ●道の駅整備計画基本構想策定(京都府宮津市2013～) ●水産物直売施設の整備検討(熊本県芦北町2013～) ●道の駅整備計画(第二期)基本構想策定(秋田県にかほ市2013～) ●直売施設整備計画 基本構想策定(秋田県羽後町2014～) ●直売施設整備計画 基本構想策定(宮崎県延岡市2014～) ●水産加工&直売施設整備計画(高知県奈半利町2014～) ●地域食資源の開発(秋田県男鹿市2015～) ●地域活性化拠点施設の整備計画(沖縄県うるま市2015～) ●地域食資源を活用した観光開発(三重県尾鷲市2015～) ●地域水産資源を活用した特産開発(長崎県長崎市2015～)ほか |
| 中島 淳 | なかしま じゅん | ㈱カルチャーアットフォーシーズンズ | 活動のミッション：日本の地方により多くの「挑戦」をつくること～主体（当事者）と仕組みづくり～ 観光まちづくり、特産品づくり、移住促進、集落自立化、地域運営・経済事業、地域おこし協力隊サポート、地域の高校魅力化サポート、ローカルベンチャー支援等。 分野は幅広いのですが、全てにおいてその「主体」づくりに注力しています。「誰が」それを行うのかを決めるプロセスを省くと、仕事は楽になります。その取り組みは継続しません。 毎年全国10ヶ所ほどでお世話になっておりますが、いずれの地域も3年間ほどのミッションを負って、現地に入り込みます。特に最近集落の自立化（自立自治）に関する場面が増えております。とても難しい問題ですが、将来の地域の在り方が問われる重要な問題だと捉えております。 【2016年度】沖縄県久米島町、宮崎県綾町・新富町、熊本県甲佐町、高知県香美市、和歌山県印南町、千葉県南房総市、茨城県常陸太田市、福島県塙町・南会津町、山形県飯豊町、岩手県金ヶ崎町、北海道平取町 |
| 中坊 真 | なかぼう まこと | NPO法人九州バイオマスフォーラム | NPO法人九州バイオマスフォーラムは、バイオマスの普及啓発事業、地域モデル事業としてバイオマスの利活用事業、コンサルティング・講師派遣・バイオマス製品の普及事業を行っています。特に草本系バイオマスの収集運搬・利活用技術に関して、ノウハウを持っています。 バイオマスの普及啓発事業としては、テレビ熊本と連携してH19年度からバイオマスをテーマにした55分番組を制作・九州一円に放送しています。また、BDFカートやミニBDF精製プラントを使って、小学校でバイオマスをテーマにした環境教育を行っています。 木質バイオマスに関しては、薪・木質ペレットストーブの普及啓発や、薪・木質チップの製造・販売支援、木質バイオマスボイラーの導入簡易診断などを行っています。 2016年4月に発生した熊本地震では、震災により発生した解体材などの木くず処理のコンサルティングを行いました。また、災害支援ボランティアのコーディネートも実施しました。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|----------|-----------------------|---|
| 中村 健二 | なかむら けんじ | 三ヶ日町観光協会 | <p>平成20年3月、関東経産局・関東農政局より「三ヶ目のブランド化による廃棄ミカンを利用したペーストの商品化」で地域産業資源活川計画に基づき第3号認定をされる。地元では、有名ブランドミカンとしてのステータスはあったにせよ、加工品が皆無であった状況を、このペーストが変革を起こして百数十の商品が世に送り出されることとなった。一方で、この事業活動の地域還元の一環として、20代から70代までの有志を募り、まちおこし勝手巡「ステキみっかび発信プロジェクト(=SM⑥Pe:スマッペ)の発起人で事務局長として活躍。地元商工会を通じて、中小企業庁の中小企業庁の平成21年度地域資源・こ(無限大)全国展開プロジェクトに「三ヶ日町日本一のみかんの里全国展開プロジェクト」として誌定を受け、町民の意識を一つにするというフォーカスから、事業の中心的役割を担う。その後、専門学校バンタン映像映画学院(東京都)とジョイントし、外から見たわが町を映像化しようと、自主製作の短編映画三部作の制作指揮の企画がスクートさせる。地域産業資源活川認定の5年開の事業期間が終わるのを受けて、町内の中小企業等の有志を集結させ、これまで築き上げてきた三ヶ目ブランドを新たに海外へ売り込むべく、「三ヶ目ブランド国際化推進協議会(会長職)」を立ち上げ、「農業産業化・地域活性化を実現する『Mikkabi』ブランド海外展開プロジェクト」に取り組むこととなる。このプロジェクトは、中小企業庁のJAPANブランド支援事業に採択された。2012年夏には、浜松市「みんなのはままつ創造事業」に採択されて、第二次大戦の切り札として陸軍が秘密裏にわずか2輛しか生産されなかった四式中戦車チトが、地元浜名湖に隠され沈められたという言い伝えから、「幻の戦車発掘プロジェクト」を立ち上げて、ソーシャルネットワーク(・cebook)を駆使して全国に発掘レポート情報を発信している。2013年より、中南米日系農業者交流促進事業の実施委員も務める。</p> |
| 中村 哲雄 | なかむら てつお | 一般社団法人葛巻町畜産開発公社 | <p>平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に來町した沖縄県名護市会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など</p> |
| 中山 哲郎 | なかやま てつお | 一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 | <p>スポーツツーリズム推進組織の設立支援、スポーツイベント・合宿誘致等の計画策定・アドバイス・国内外のビジネスマッチングを行っています。2019ラグビーワールドカップ・Tokyo2020オリンピック・パラリンピック・2021ワールドマスターズゲームスを控える日本に注目する世界に、地域をアピールする機会です。メガスポーツイベントを活用するとともに、それ以降の地域スポーツの在り方を構想する契機となっています。この時機を逃さず、スポーツによる地域イノベーションを起こす必要があります。</p> <p>★最近3ヶ年のスポーツツーリズム推進事業への関わり★</p> <p>2014年 北海道「スポーツ観光人材育成事業」 アドバイザー</p> <p>2014年 沖縄県「スポーツコンベンション誘致戦略構築検討委員会」 委員</p> <p>2015年 北海道オホーツク総合振興局「スポーツ合宿ブランド化推進事業」 アドバイザー</p> <p>2015年 札幌市「地域スポーツコミッション調査業務」 アドバイザー</p> <p>2015～16年 徳島県東みよし町商工会「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」 (経産省補助事業) アドバイザー</p> <p>2016年 千葉県銚子市「スポーツタウン構想」(内閣府地方創生交付金) アドバイザー</p> <p>2016年 栃木県矢板市「スポーツツーリズムアクションプラン策定事業」(内閣府地方創生交付金) アドバイザー</p> <p>2016年 北海道北見市「オホーツクサイクリングブランド化推進事業」(内閣府地方創生交付金) アドバイザー</p> <p>2016～2021年 関西ワールドマスターズゲームス2021組織委員会「レガシー創出委員会」アドバイザリー・コミティメンバー</p> |
| 仁枝 章 | にえだ あきら | 特定非営利活動法人 21世紀の真庭塾 | <p>○1993年に岡山県真庭市の若手経営者を中心とした「21世紀の真庭塾」を設立し(2002年にNPO法人)、事務局長として環境と街並み再生によるまちづくりを推進。この活動の中から、2004年には真庭バイオエネルギー(株)と真庭バイオマテリアル(有)の2企業を立ち上げ、木質バイオマスのエネルギー及びマテリアル利用として地域の新事業創出に取り組んできた。</p> <p>○2010年に官民共同で設立された「真庭市バイオマスリファイナリー事業推進協議会」の事務局長に就任し、バイオマスの高付加価値利用及びトータル活用の事業化に取り組む。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|--|---|
| 納戸 義彦 | のと よしひこ | NPO法人島の風 / 合同会社島の元気研究所 | <p>■「古民家をリサイクルし、地域住民が運営するコミュニティ・ツーリズムを推進するプロジェクト」(古民家再生プロジェクト) ■「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」 ■「農的暮らしキャンプ」 ■「住民による島の宝再発見事業『しまあかり』」 ■「風の学び地の学び『島塾』」(新規人材育成事業) ■「地産地創」(島の元気研究所)等、それぞれの事業は決して大きくはないが、それらを互いに力強くリンクさせることで「島を残し守り伝える」ことをミッションにした「開発に頼らない持続可能な島づくり」という大きな総論に根ざした事業構築をめざしている。</p> <p>地域活性化の戦略、メソッドが華やかな現在、あえて総論の議論に立ち戻り、地域に今必要な、あるいは次世代に引き継ぐために必要な「Something for Nothing」(何かのためではない大切なこと)といえる事業展開である。</p> |
| 芳賀沼 伸 | はがぬま しん | 株式会社芳賀沼製作 / NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク ㈱マストロ・ジェペット / NPO法人南会津はりゅう里の会 | <p><㈱芳賀沼製作 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 国内でログハウスの先駆者として、ログハウス村「はりゅうウッド村」を35年前より建設し、現在98棟となる。 2011年東日本大震災後、福島県木造仮設住宅でログハウスでの仮設住宅の提案者メンバーとなり、600棟を建設する。 <p><NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 地元林業従事21団体(3森林組合含む)と木材(立木)の価格を守り、収入を増やす為、古くて新しい産業づくりを展開(素材での有効活用法)。 森林認証材の具体的活用法を提案、実施(A・B材-縦ログ・家具、B・C材-日用品・玩具、C材-アロマ、薪利用) <p><㈱マストロ・ジェペット 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 町内加工業者4社と都市在中デザイナーと組み、海外(ヨーロッパ・中東・アジア)を見据えた木製玩具の販売展開中。 <p><NPO法人南会津はりゅう里の会 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 地元住民とIターン・ニ地域居住者(土地を借地方式とした「はりゅうウッド村」の住人)による、山村での豊かな生き方・暮らし方の実践を現在進行中、事務局の役割をになう。アロマ事業を開発し、地元住民が採取した枝葉でオイルを精製し、出口販売先と共同で新しい職づくりを展開。 山村大学から継続している野外教育事業を発展し、広大なフィールドを活用した新たな観光産業を展開。 |
| 白田 典子 | はくた のりこ | (有)良品工房 | <p>「いいものプロジェクト」を推進。消費者の声をメーカーや小売店に届ける仕組みをつくり消費者が選んだおすすめ商品・訪れた地域で見つけた商品をセレクトし販売している。地域商品のブラッシュアップや新商品開発へのアドバイス等も手掛ける。</p> <p>【平成23年度実績】岐阜県飛騨市神岡町 【平成26年度実績】富山県小矢部市</p> |
| 橋立 達夫 | はしだて たつお | 作新学院大学 | <p>集落活性化を中心テーマとして、地域の方々とワークショップを行う中で、地域の課題を明らかにし、解決の方策を考える取組みを行っている。地域の中に秘められている活性化に向けての力に気づいていただくことにより、可能性が見えてくる。また、ワークショップを行う過程で、事業実施の機運と体制を作っていくことを重視している。</p> |
| 畠田 千鶴 | はただ ちづる | 一般財団法人 地域活性化センター | <p>■活動テーマ 地域活性化全般、自治体アンテナショップの運営、地域ブランド、地域プロモーションの講演、執筆、委員、アドバイザー、調査・研究</p> <p>■主な活動 【講演・講義】官公庁、地方自治体、大学、民間企業、経済団体ほか ・財務省北陸財務局「北陸地域創生フォーラム」2016年11月29日</p> <p>・滋賀県商工会連合会「地域ブランド研修」2016年6月11日、8月23日 ・早稲田大学「立ち上がり！早稲田大学地方創生フォーラム」2016年10月14日 ・自治体国際化フォーラム「海外自治体幹部交流協力セミナー2016(北京)」2016年11月9日ほか</p> <p>【アドバイザー、委員】地域ブランド、アンテナショップ運営(三重県、鳥取県、鳥根県、広島県ほか)</p> |
| 蜂谷 潤 | はちや じゅん | 一般社団法人 うみ路 / 合同会社 シーベジタブル | <p>2013年3月、高知県東端に位置する室戸を拠点とした地域の会社「一般社団法人 うみ路」を設立。</p> <p>主に地域内で生産される農産品や水産品を使用した加工品の開発や販売、地域内外の交流イベントや勉強会の企画、カフェの運営など地域に根ざした事業を多岐にわたって展開している。</p> <p>2016年4月、海藻の陸上用養殖を中心に行う合同会社シーベジタブルを設立。室戸市の特産品である海洋深層水で海藻の陸上養殖モデルを確立。その後は日本各地で展開できるよう、海水井戸水(地下海水)を活用し海藻やアワビ類の陸上養殖のモデル作りを行ってきた。現在はこのモデルをもとに、福祉作業所や高齢者等、成立させることが難しい事業者とパートナーシップを組んだ日本各地での事業モデル作りを行っている。</p> |
| 服部 彰治 | はっとり しょうじ | 札幌大通まちづくり株式会社 | <p>政令指定都市の中心市街地において、初めて設立された「まちづくり会社」。まちづくりに貢献し、収益を確保する事業を実施し、自立的に運営を行っている。さらに、まちの新陳代謝を生むため、収益をまちづくりに還元し、まちの活性化に繋げている。平成23年12月には、都市再生特別措置法に位置づけられている「都市再生整備推進法人」に全国初で認定され、都市再生整備計画への提案、特例道路内での利便増進協定施設の運用などを行う。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|-------------------------------------|--|
| 服部 年明 | はっとり としあき | 有限会社 リテイルウオーク / 株式会社 全国商店街支援センター | <p>① 02年から5年間長野TMOタウンマネージャー就任。大型空店舗が相次ぎ撤退した中央地域と、空洞化した善光寺門前の活性化に取り組む。まちづくり会社を設立し、地域住民の要望に応え、市と連携し大型空き店舗に公益の交流と子育て支援施設と直営の食品スーパーを開設、同時に500人を雇用するコールセンターを誘致した。次いで善光寺門前の連鎖する空店舗及び蔵、居宅を活用し、パティオ形式の商業施設を開設。同駐車場整備等5事業を事業化。一方で民間事業を誘発しまちなか居住、空店舗へのテナント誘致に取り組み、空洞化した中央地域再生の口火を切る。一方で後継のタウンマネージャー育成に取り組む。</p> <p>② 商店街支援センターにおいては、全国各地での地域商店街活性化活性化計画策定と事業推進の指導、支援にあたる一方で、個店の魅力向上と繁盛店づくり、次代を担う人材の育成に取り組む。</p> <p>③ 中活アドバイザーとして、伝道師として上越市、焼津市、沼田市などの中心市街地活性化計画検討の指導、助言にあたる。</p> |
| 花井 恒三 | はない こうぞう | 奄美のトラさん | <p>①奄美と本土・沖縄の人材マッチング（ヒューマンネットワークウェア）</p> <p>②本土・沖縄から奄美に住みたい・投資をしたい・貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方（マドンナ、男性含む）への奄美の入口案内ボランティア。</p> |
| 林 春野 | はやし はるの | エーゼロ株式会社 | <p>映像や写真、イベント、プログラム実施、様々な手法で地域に暮らし働く人達が増えていけることをお手伝いしてきました。</p> <p>また、現職のエーゼロ株式会社では地域での起業＝ローカルベンチャーを代表に、地域で自分らしく生きたいと思う人や企業の伴走をしていきております。</p> <p>メインで担当： 西粟倉ローカルベンチャースクール 西粟倉ローカルライフラボ 等</p> |
| 林 弘樹 | はやし ひろき | ものがたり法人 FireWorks | <p>商店街を舞台にした住民参加型映画「らくだ銀座」プロジェクトでの全国展開を機に、北海道から沖縄まで様々な事業を行っている。この事業の特色である『地域づくりに興味のない住民層をも「地域づくり」に巻き込む手法』や『個人や企業、学校等での「関係性の中から創り出す物語」の生成メソッド』が人材育成の研修として注目されている。特にそのプロセスづくりを大切にしている。</p> <p>プロジェクトの取組みの中で、多くの人々がひとつのことに向けて、時間・体力・頭脳を使い、関わり、仲間をつくり、共に汗を流す、そんな「創発型のまちづくり」をプロデュースし続けている。経済産業省「地域におけるキーパーソン活用・支援方策に関する研究会」委員として、地域からの相談に対し幅広く活躍する。地域の人を巻き込んだ場づくりを得意として、地域情報発信や自分たちの地域で創造する力を意識する講演会、討論会、ワークショップなどを行っている。</p> |
| 原田 弘子 | はらだ ひろこ | マネジメントオフィスHARADA | <p>以下のような取り組みを通じて、自立可能なまちづくりを支援します。</p> <p>●コンセンサス形成 イベントや情報発信により、まちのブランドイメージを形成します。ワークショップを通じ、参加者の自発的な取り組みを誘発し、持続可能な取り組みにつなげる。</p> <p>●市民協働 NPOや市民、外部団体との連携により、活性化事業及び担い手を発掘し、活動を支援します。</p> <p>●民間事業開発 中心市街地活性化の取り組みと、企業、行政との利害を調整し、民間事業者等による中心市街地活性化事業を開発します。</p> <p>●開業支援 開業相談、ビジネスプラン作成、戦略的な空き店舗対策を企画立案</p> |
| 引地 恵 | ひきち めぐみ | 株式会社WATALIS / 一般社団法人WATALIS | <p>震災後は、亘理町職員として救援物資を担当し、体育館内で物資の搬入・搬出などに携わる傍ら、地域文化伝承講座の開設や宮城大学と連携した学習支援（稲盛財団東日本大震災復興ボランティア助成事業）、日本ヒプノセラピー協会主催のメンタルケアセミナー（独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業）の運営などのボランティア活動を実施した。亘理町職員退職後、WATALISを立ち上げ、東日本大震災の被災地域において、着物地を再利用した手しごとによる商品を企画・販売し、長時間の就労が困難である高齢の女性や乳幼児を持つ母親などに対する就労支援を行い、地域経済活性化の一助としている。受け継がれてきた地域の文化や人々の思いを商品という形にし、様々な世代の女性たちがその製作者となることで、地域社会が潜在的に持つ高齢者の知恵や縫製技術などの人的パワーを掘り起こし次世代に受け継ぎながら、既存の枠組みを越えたあらたな地域コミュニティを創り持続発展させる事業を実施している。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|---------------------------|---|
| 平野 龍平 | ひらの りゅうへい | 富士急行株式会社／一般財団法人コレゾ財団 | <p>数々の地域活性化や観光振興のお手伝いをさせて頂いている内に、言うだけで何もしない人が多いこの世の中で、自ら考え、行動を起こし、真っ当で当たり前のことをごく当たり前に続けている人たちこそ、貴重で、尊い存在であり、行動し続ける先にしか、結果は生まれず、成果は後からついてくるものだ、ということに気が付きました。</p> <p>いろんな地域のさまざまな事例を拝見してきて、成功事例や素晴らしい取り組み、活動に唯一、共通しているのが、魅力的な担い手の皆さんの存在です。</p> <p>「COREZO (コレゾ) 賞」表彰事業は、そんな方々が一堂に会して、ウマイ食を食べ、ウまいお酒を酌み交わしたら、きっとおもしろいことが起こるだろうと思って始めました。</p> <p>「COREZO (コレゾ) 賞」は、「権威なし」、「権威なし」、「名誉なし」、「賞金なし」の三拍子揃った「三なし賞」の上、毎年、表彰式は、受賞者のおられる地方で自主開催して頂き、旅費、宿泊費は、自腹、飲食も参加者の持ち寄りなのに、既に4回実施し、延べ300名近い表彰者と関係者、賛同者の交流の場にもなっています。</p> <p>案の定、日常、交流することもない、分野も業種も職種も違う多士済々な皆さんが一堂に会することで、思いもよらない化学反応が起こり、主催者も知らないところで、いろんなコラボや協働等、おもしろいことが次々に始まっています。</p> <p>自分のような若輩者が「地域活性化伝道師」に認定され、何かアドバイスするなんておこがしく、先達の皆さんに対し、失礼に過ぎると自覚していますが、「COREZO (コレゾ) 賞」他を通じて、数多くの皆さんとのご縁と人的ネットワークだけは、有しており、「人」と「人」のご縁をつなぐ役割は果たせるのではないかと考えています。</p> |
| 平原 秀則 | ひらはら ひでのり | 平原建設株式会社 | <p>例えば沖縄の慰霊地に奉納された千羽鶴。実はその最終処分の方法は自治体の大きな悩みです。そこで、千羽鶴を再生紙として甦らせ、ノートや名刺の台紙などに製品化して慰霊地の記念品として販売。これを発展途上国の子どもたちの教育に役立てられています。</p> <p>また、千羽鶴の解体、仕分け作業を障害福祉施設の利用者にお願し、工賃の向上を担っております。さらには、沖縄や広島への修学旅行の平和学習プログラムとして、千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティア活動を組み入れるなど、人と人をつなぎ、地域とつながる方法を考えて来ました。また被災地支援では、北海道等で産業廃棄物に過ぎないホタテの貝殻を、牡蠣養殖の採苗用に被災地の被災障害者施設で加工し、広島等の養殖地に販売する取り組みを進めており、被災地の障害者の就労支援を通じて、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを再生することを目指しています。</p> <p>直近の事例としては、平成24年8月、北海道の北広島市で、障害者支援施設を運営する地元社会福祉法人の地域貢献をコンセプトに、北海道と広島の酒造協会の協力の下、銘酒の試飲会のイベント「北の酒祭り」を開催し、地域住民の絆づくり、地域活性化のお手伝いをさせていただきました。</p> |
| 福田 達男 | ふくだ たつお | 北里大学薬学部附属薬用植物園 | <p>国内で生産できる生薬を1種類でも増やすため、基原植物の生理・生態を明らかにし栽培技術の確立のための研究を行ってきました。また、生薬の基原植物の分類学的な検討を植物形態学や遺伝子、化学成分の3つの視点から研究し、基原植物の抱える色々な問題の解明に努めてきました。これまでに朮類生薬の基原植物、特にオオバナオケラの栽培技術の確立やタクシャの基原植物であるサジモダカの栽培を国内で初めて成功しています。</p> |
| 福留 強 | ふくどめ つよし | 聖徳大学 / NPO法人全国生涯学習まちづくり協会 | <p>①大学と地域の連携によるまちづくりの連携 ②高齢社会の活性化の提案、「創年運動」の提唱 ③「子ほめ条例」のまちの推進、まち全体で子どもの健全育成 ④NPO法人全国生涯学習まちづくり協会での活動、まちづくりイベント、研修の企画、実施、地域の調査など、行政職員の研修 ⑤観光でまちづくり、着地型観光と指導者養成を実施 ⑥日本・韓国生涯学習まちづくり国際フォーラムの実施</p> |
| 藤井 一郎 | ふじい いちろう | 四国大学 経営情報学部 | <p>四国大学では、主として地域中堅中小企業のマーケティング戦略、経営戦略、ファイナンスの研究および講義を行っています。</p> <p>また、株式会社みどり合同経営では、以下を中心に活動しています。</p> <p>①地域活性化をもとにした、中小建設業や製造業・飲食サービス業の経営戦略、マーケティング戦略の構築・支援 ②地域の金融機関との連携による地域に貢献する中小企業へのサポート</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|--------------|-----------------------------------|---|
| 藤井 信雄 | ふじい のぶお | 四日市市役所 (三重県) | <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画課で近鉄四日市駅西の四日市工業高校跡地開発を担当 ・企画調整課で名古屋圏の主要5都市(名古屋市・豊橋市・岐阜市・浜松市・四日市市)による都市間ネットワークや総合計画策定、四日市地域総合開発整備構想策定などを担当 ・商工課で中心市街地活性化基本計画策定や四日市工業高校跡地開発のリニューアルオープン、技術集積活用型産業再生特区などを担当 ・市民文化課で市民活動による地域再生計画や博物館内の丹羽文雄記念室整備などを担当 ・四日市港管理組合で四日市港長期構想の策定などを担当 ・政策推進部で2011年度から2020年度までの新たな総合計画(基本構想・基本計画・第1次推進計画)の策定、並びに第2次推進計画の策定(2014年1月)、四日市市産業活性化戦略の策定(2014年3月)、四日市市産業活性化戦略に関する提言書に掲げられた先導的事業の推進(2014年度)などを担当 |
| 藤木 徳彦 | ふじき のりひこ | オーベルジュ・エスポワール / 日本ジビエ振興協会 | <p>野生鳥獣を地域の資源として活用するために、商品力をつけること、販売の方法をアドバイスする。調理に携わるプロとして、魅力ある精肉の商品づくり、調理が難しい野生鳥獣をおいしく活用できる調理方法の講習、指導、野生鳥獣と地域の特産品を組み合わせた加工品の開発指導を行う。できあがった商品は地域のみならず、大消費地にプロモーションを行い、滞りがちな流通を開く。「信州ジビエ」の例では、長野県内のジビエを使い、長野県内の福祉施設で加工品を製造し、JR東日本エリアのエキナカの飲食店において開発した商品のメニュー提案を行い、ジビエの加工品の流通を実現した。東京駅でのジビエ弁当販売や、都内レストランを借りての地域フェアなどで地域のセールスを行う。</p> |
| 藤倉 潤一郎 | ふじくら じゅんいちろう | 株式会社 地域協働推進機構 / 法政大学大学院政策創造研究科 | <p>様々なコミュニティビジネス/ソーシャルビジネスが生み出される環境を整備することで、コミュニティの潜在力・総合力を引き出し、地域住民等が連携・協力しながら主体的に課題を解決していく取り組みをお手伝いしています。</p> <p>また、各地の取り組み事例を共有化し、地域間の連携により様々な共同事業を展開していくための仕組み作りに取り組んでいます。</p> |
| 藤崎 慎一 | ふじさき しんいち | 株式会社 地域活性プランニング | <p>◆「まちづくりはひとづくり」をキーワードに「よそ者、わか者、ばか者」を活用した住民参加型の自立型地域を目指す。一過性で終わらない継続的な活動を実現するために、ビジネス視点でのコーチングにより成果を上げていく。</p> <p>・【静岡県】「四季を通じて観光客を魅了する河津グルメ&魅力発信プロジェクト」 河津桜で有名な静岡県河津町は、桜の季節に観光客が集中し、それ以外は閑古鳥だったことが大きな課題だった。認知度の向上をめざし、地元住民が自発的に情報発信を実行する体制を作り上げた。ドラマ『孤独のグルメ』で紹介されたご当地グルメ「わさび丼」をきっかけに観光客が押し寄せ、ドラマ放送までわずか2軒だったわさび丼が食べられるお店が15軒に急増。聖地化されることになった。さらに地元の「わさび」そのものが見直され、わさびを使ったグルメ開発で、平成27年4月、まちおこし集団が株式会社化した。</p> <p>・【静岡県】「富士宮観光戦略プロジェクト」 まだB級ご当地グルメがメジャー化する前に、富士宮やきそば学会が、ご当地グルメ「富士宮やきそば」を観光資源として活用すべく立ち上がった際に、講師として招聘。地域人材を活用し、「資源発掘→ターゲット設定」という手順で、地元グルメを活用した観光街づくり一体化に向けたプロジェクトを成功に導いた。</p> <p>・【大分県】ロケツーリズム推進協議会設立で観光客UP! 2014年に放送されたNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の影響により、同県中津市にある資料館に1年間で30万人もの観光客が訪れた。マスメディアへの露出が、観光に与える影響は大きなものであったが、県内にある市町村単位のフィルムコミッションや他関係団体が相互に連絡・協力を図る体制が確立できていなかったことから、「大分県ロケツーリズム推進協議会」を設立。ロケツーリズムの第一人者として招聘を受け、マスメディアの効果的な活用方法について、各団体に所属する職員へと向けた人材育成を実施した。</p> <p>・【千葉県】成田空港ブランド戦略会議 「成田空港をブランド化へと向けたPR戦略と、情報発信体制の造成アドバイザー」。 成田ブランドを伝える自立した情報発信組織「成田空援隊」を結成し、官民が一体となってロケ誘致を行いシティプロモーションへと繋げる仕組みづくりに導いた。また新たな特産品「成田ソラあんぱん」の開発に携わり、成田市女性職員を中心とした広報担当「成田ソラガール」を結成し、成田市のみならず都内、そしてアメリカ・ロサンゼルスでのPRイベントも成功した。</p> <p>・【東京都】「映像作品版權活用ワーキンググループ」 映画やドラマの撮影実績を、まちのプロモーションに活用すべく、都内の行政担当者として一般企業へと向けた勉強会の開催。映像業界の現状と需要から交渉ノウハウまでを指導。</p> |
| 藤田 勲 | ふじた いさお | 一般財団法人 神成文化の森 藤田財団 / 藤田株式会社 | <p>【球磨人吉 地域づくり委員会】 平成27年5月18日 球磨・人吉が、相良が生んだ保守と進取の文化、日本でもっとも豊かな隠れ里人吉球磨として日本遺産に熊本県で認定第1号となりました。より多くの人達が人吉球磨に来て頂けるよう、官民一体となった地域づくり、木の文化を全国、世界に発信する初めてのモデルになるよう、「日本、木の文化と地域づくり」を人吉球磨の各市町村の民間、行政、政治家、宮司、住職の皆さまにご出席いただき、開催をいたしました。</p> <p>【ラオスフェスティバル2015】 平成27年5月23日～平成27年5月24日 東京都渋谷区代々木神園町 代々木公園 イベント広場でラオスフェスティバル2015が開催されました。藤田勲もラオスフェスティバル実行委員会の 副会長、主催者の一人として参加し、ラオス外交関係樹立60周年記念のお祝いにヒメザクラ(看板)高さ2.2m、高さ1.8mの計2枚をお贈りさせていただきました。また伝道師として実行委員会の皆さまへ日本、木の文化の素晴らしさをお伝えをさせていただきました、本桜の拍子木もお贈りさせていただきました。日本、木の文化とスポーツ文化の振興を日本、そして世界に向けて力を入れ発信してまいります。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|--|---|
| 藤原 啓 | ふじはら けい | 株式会社シーズ総合政策研究所 | 私は、島根県雲南市旧吉田村において昭和58年から現在まで続く「鉄の歴史村づくり」(たたら製鉄の歴史的遺産を活かし、価値向上と情報発信を行うことで地域ブランド価値を高め、ものづくり、交流サービスなどの地域経済振興を図ろうとする活動)を、自治体職員として創始した創業者のもとコンサルティング活動に取り組んできました。前述旧吉田村が雲南市として再スタートする際には、地域と民間が主体となった継承をめざし、平成16年に住民有志とともに株式会社鉄の歴史村を起業。古民家カフェの開業、安全安心の食の加工品製造を軸とする地域ビジネスの起業を実践してきました。 こうした現場で蓄積してきたノウハウをもとに、中山間地域における地域資源活用や課題解決を目的とするコミュニティ・ビジネス、ソーシャルビジネスの検討から立ち上げ、実施に至るまで支援して参りました。さらに、中山間地域の現場で元気にコミュニティデザインを実践する若き担い手世代とのネットワークを活かし、首都圏在住のソーシャル層を対象にした講座「しまこアカデミー(島根県)」を平成24年に、雑誌ソトコトとともにプロデュース。首都圏在住のソーシャル関心層を対象に、島根県との関係人口づくりを都内講座と現地実習によるプログラムで展開してきました。6期が終了した現在までの6年間で、受講生は約100名となり、その約3割が島根に移住。5割以上が関係人口として首都圏でつながりプロジェクトなどを展開しています(ソトコト2018年2月号参照)。現在はこのほか、奈良県、福井県大野市など7講座の企画運営を行っています。 |
| 藤村 望洋 | ふじむら ぼうよう | 早稲田エコステーション研究所(ぼうさい朝市ネットワーク) | 災害を想定しながらも「美味しく楽しい」地域活性化活動「ぼうさい朝市」の仕掛け人。かつての北前船ルートでつながる港町をネットワークして、日頃から防災をテーマに活動し、いざというときの救援物資に見立てた特産品(美味しい救援物資)を全国各地から運び込み、地域住民が訓練を兼ねて設営したテントで販売する産直市「ぼうさい朝市」を開催。この仕組みを活用して、山形県庄内地方の特産物の大阪への流通コースを構築する「特産物のフルコースディナー」を開催(H23年度山形県鶴岡市と酒田市と大阪を結ぶ地域活性化伝道師活動)。 「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時は混乱する被災地ではなく、安全な「隣」が拠点となって支援する仕組みを提唱。壊滅的な被害を受けた南三陸町「おさかな通り商店街」もネットワークに参加しており、その経過から、山形県酒田が「災害時の隣」となり、全国各地から酒田を中継基地として南三陸町へ救援を行い、第2段階で「福興市」を立ち上げ、第3段階で地方都市と南三陸を結ぶ地域連携による商店街再生のビジネスモデル構築を支援している。「福興市」はH23年度「地域づくり大賞」を受賞。H24年3月、全国からの被災地支援団体・企業と被災地の地元団体をつなぐコーディネート組織「一般社団法人南三陸福興まちづくり機構」を設立。漁業及び林業の6次産業化を全国連携で取り組んでいる。 瀬戸内海は、エーゲ海やカリブ海に勝るとも劣らない歴史と風景と地域資源をもつ海洋観光の最適エリアである。しかしエーゲ海等で今や巨大な観光産業となっている小型船による島めぐりクルージングはほとんど行われていない。国際的な海洋観光産業を瀬戸内海に事業構築するために、瀬戸内海の島々のNPOや地元自治体や各種の専門家と連携して一般社団法人日本海洋観光推進機構を設立。 |
| 藤原 一夫 | ふじわら かつお | 藤原コンサルティング | 中小建設業の経営革新、再生、新分野進出等、建設業関連専門の経営コンサルタントとして経営指導等を業務とする傍ら、中小企業診断協会東京支部の建設業経営研究会の代表幹事として、建設業経営の情報交換・勉強会を主催しております。 |
| 船崎 美智子 | ふなざき みちこ | ライフスタイル協同組合/ (株)ライフスタイル研究所 /NPO法人やまぐち県民ネット 21/公益財団法人山口きらめき財団/山口県立大学 | 得意分野は、地域づくりを生かしたワークショップのファシリテーターである。地域、行政、企業、大学とNPO等をつなぐための仕組みづくりや、協働事業への取り組みを実施。地域の資源を生かした「地域づくり」、女性の視点で商品やサービスを提案する「モノづくり」、若者の就職支援や企業の人材育成などの「人づくり」の活動をする「地域プロデューサー」として活動している。 特に「農商工連携」や「6次産業化」の講師やシンポジウムのパネリスト、栄養士としての視点を生かして商品開発の企画・運営・経営戦略等の提案を行っている。また、最近では「協働のまちづくり条例」等の講演や協働事例の提供、中山間地域づくりなど広い分野で活動している。 ①6次産業化の取り組みと商品開発 ②まちづくり、地域づくりの実践ワークショップ ③商店街活性化のコーディネーター ④地域コミュニティの場づくり |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|----------------|--|
| 古庄 浩 | ふるしょう ひろし | (株)古庄企画 | <p>大手ホテルの総料理長、山形県庄内・食の親善大使、テレビ料理番組レギュラー出演、地域の食文化の講演会など経験豊富。</p> <p>「地産地消」。現在の主要流通ルートは、大量生産と大量流通を前提として組み立てられており、その中に小規模生産者も料理人の調理場も小規模販売者も組み込まれ、互いの連携や流通ルートを持っていない状況である。地産地消を、生産と販売だけの仕組みだけでなく、料理の現場と料理のノウハウと料理人のネットワークという視点を加えることにより、特にこだわりの小規模生産者に対して、生産方法や生産物の種類の考え方と新たな販路を協働で構築することが可能となり、商店街の店舗や飲食店舗は、大手スーパーにない独自色を出したメニューや品ぞろえが可能となる。地域の食材を使つてのフルコースディナー付き商談会の開催や、伝統的食材とその料理方法をプラスした直売所の運営などを通して、食材と料理と商店街が協働で行う地産地消の推進による地域活性化の取り組み。</p> <p>「新たな全国流通ルートの構築」。料理人の全国ネットワークの活用によって、料理人が推薦する食材を、料理人が推薦するレストランやスーパーで販売する、小規模な生産者と、料理人と、販売者やレストランの連携による新たな流通ルートの構築。「北前船ルートぼうさい朝市ネットワーク」の全国各地と連携する大阪圏のシェフを「蔵奉行」に認定し、ふるさと食材使った料理とその食材の販売を推進するシェフのネットワークを構築している（現在35名のシェフを認定）。</p> |
| 古野 克彦 | ふるの かつひこ | 株式会社 にぎわい総合研究所 | <p>「にぎわいをプロデュース」する会社をめざしています。</p> <p>今まさに地域からの創生力と発信力、地域の暮らし方が問われています。地域の人々の生きがいがづくりでの活性化、観光活性化、集客催事、景観づくりという地域創生の視点から見直しの必要性を感じています。新しい取組みを地域の人たちと一緒に創りあげ、地域内外の人たちが享受するために、誠実に実行できるチームをつくりあげて、楽しいプロジェクトにしていきます。</p> <p>地方自治体業務を中心に活動しており、現在は愛知県の岡崎市、豊田市、豊川市、豊明市などの商業や観光活性化業務に従事。過去には静岡県静岡市、南アルプス山麓地域などにおける観光活性化やブランド創生などの調査、構想策定、イベント事業計画などのプロデュースに従事。</p> |
| 堀田 誉 | ほった ほまれ | (株)里山ホテル | <p>新しい里山と人とのつながりの模索と、里山資本主義の実現を目指した、宿泊施設の経営。</p> <p>主に、地域内の方々と連携した魅力の掘り起しや、地域と密接につながった社内組織づくりを展開し、自己理解・他者理解に基づく「自分たちで考える適材適所」プロジェクトやビジョン・ミッション・バリューに基づいた組織・人事制度などを構築。</p> <p>有志による里山資本主義フォーラム実行委員会メンバーとして、里山資本主義の深化や地域のネットワーキング活動にも取り組む。</p> |
| 堀口 悟 | ほりぐち さとる | ランドブレイン株式会社 | <p>■まちやむらの総合診療医としての確かな診断を行います</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的なプロジェクトを立案する前に、地域課題の本質をつかむための初期診断を大切にします。データに基づく分析のほか、地域に入って丁寧なヒアリングを行い、複数の角度から意見や思いを引き出します。それらを現場でファシリテーションすることで、地域の状況、問題点の整理、課題の本質をわかりやすく整理し、見える化します。 <p>■地域が一步踏み出すために一緒に走りながら考えます</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の関係者が共有できる目的の設定と、設定課題に対して的確なプロジェクトの立案を支援します。そして、地域の歩幅でいまでできる一歩目のアクションを決めて、動き出す支援をします。活動をはじめ仲間を増やし組織をつくる過程には、いつも小さな問題は発生しますが、一緒に考えて改善・実践するサイクルを伴走します。 <p>■道の駅や地域商社・DMOの専門家として支援します</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅の新設、再生の糸口を探す道の駅、地域商社やDMO機能を備える道の駅など、これまで多くの事例に関わってきました。そこで培ったノウハウには、道の駅自体の経営の工夫もありますが、地域のつくり手がいかに稼ぐことができるのか、常にその視点を大切に助言してきました。農林水産業や加工業、小売サービス業、観光業を含め、地域全体の外貨獲得の仕組みづくりを支援します。 <p>■地域ブランド化や六次産業化の専門家として支援します</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活かした商品やサービスのブランド化について、これまで20団体・企業の支援事例を有しています。商品開発や販路拡大といった“攻め”の活動だけでなく、地域団体商標を含む商標制度を活かした“守り”の活動もバランス良く配置し、それらを踏まえたブランド戦略の構築を支援します。また、農家の六次産業化や農商工連携による商品づくり、地域資源を活用した観光コンテンツ造成にも、多くの経験があります。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|---------------------------------|---|
| 本田 勝之助 | ほんだ かつのすけ | 本田屋本店 有限会社 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 農業と食から実績を積んだ地域プロデュースの総合専門会社を経営。 2. 代表商品は「本田屋継承米(氏郷)」。肥料開発及び、生産管理、販売まで一貫して行っている。納入先には銀座久兵衛や金田中などの名店、京都伊右衛門サロンなどカフェレストラン等で使われている。 3. 全国各市町村への戦略的アドバイス、ブランドや商品開発、産業活性化への各種取り組みなどの要望に応え、地域との官民連携で戦略的にプロデュースしている。 4. 伝統工芸品のリブランド、商品開発。(Futradition WA0との協業) 5. クリエイティブ: PR制作物(コピー、ポスター、リーフレット、映像、各種) 6. 観光やまちづくり、スマートシティ等のモデルづくり。 7. 日本遺産認定の全地域に対しての統括プロデューサー業務 |
| 本田 節 | ほんだ せつ | 有限会社 ひまわり亭 | <p>1998年に、地域のボランティアグループ「ひまわりグループ」のメンバーと共に地域の主婦たちによる地産地消の農村レストランを立ち上げました。「もったいない」をキーワードとし、地域の財産ともいえる「おばちゃん・おばあちゃんの知恵・経験・技・感性」を活かさないと「もったいない」、地域の素晴らしい食材を活かさないと「もったいない」、取り壊し寸前の築120年の古民家が「もったいない」、ということで古民家を移築したお店を拠点に地域の素材を出来る限り活用し、安心安全な食を提供しています。また、「食」を通して、地域づくりへの貢献や食育活動、女性の起業アドバイスにも力を注いでいます。</p> <p>さらに、2002年頃からは、グリーンツーリズムの推進にも積極的に取り組んでおり、地元地域を巻き込んで「広域連携によるグリーンツーリズム実践」を推進しています。</p> <p>日本各地、さらには韓国等国外からの視察研修を受入れており、学生のインターンなども積極的に受入れております。</p> |
| 前神 有里 | まえがみ ゆり | 一般財団法人地域活性化センター/一般社団法人いよのミライカイギ | <p>公務員時代に、地域包括ケア、虐待防止を担当したことをきっかけに、地域に深く関わるようになりました。そのあと、人口減少対策や移住・定住などの地域活性化、地域振興、人材育成、地方創生に関わるようになり、特に暮らしの視点を大切に人づくりとまちづくりを同時に行う地域人材育成に取り組んできました。</p> <p>総務省の人材力活性化研究会では人材力活性化プログラム・カリキュラムの作成や人材育成研修を実施しており、県職員としての市町・地域支援、地域活性化センターでは、地方公共団体のニーズに応じた伴走型支援を行ってきました。異分野・広域・遠隔地の連携による新たな価値の創出型人材育成が得意で、課題解決から入るのではなく分野を超え課題も混ぜ合うことで新たな手法を探ったり、巻き込むのではなく共感で集まるやり方で進めています。各種研修講師としても全国に出講しています。</p> |
| 町田 直子 | まちだ なおこ | 特定非営利活動法人 ACTY / 株式会社ACプロモート | <p>NPO法人と株式会社にて地域ブランディング戦略による地域プロデュースをすすめています。NPOでは、環境省が設置した種差海岸インフォメーションセンターの運営管理、「みちのく潮風トレイル」の運営管理を担いながら、青森県ならではの地域資源を最大限にいかしながらブランディング化をすすめて、地域経済の活性化をすすめています。地元住民とのネットワークを構築し、地域が主体となり参画できるシステムを作っています。株式会社では、観光開発に力をいれ地型体験の旅行商品を造成し、漁業者、農業者、または三セク鉄道との連携によるプログラムを多数開発・販売しています。中心街にカフェを設置し、情報発信の拠点として、また観光客の拠点として運営をしています。カフェ事業部、お土産品の販売、ツアーの商品化により、開発から商品化を一貫して行います。地域ブランド戦略による事業展開を進めています。</p> |
| 松井 利夫 | まつい としお | 株式会社 アルプス技研 | <p>○「認定 特定非営利活動法人(NPO) 地域産業おこしに燃える人の会」会長</p> <p>○第三セクター「株式会社さがみはら産業創造センター」初代社長(現在退任)</p> <p>○岩手県北上市「北上しらゆり大使」、および「工業振興アドバイザー」(現在退任)</p> <p>○北海道土士幌町「まちづくりアドバイザー」</p> <p>○国内外の大学7校に、起業を目指す学生を対象とした松井奨学金制度を設置</p> <p>○約20社のベンチャーを応援、エンゼル投資をする。</p> <p>○公益財団法人起業家支援財団、認定NPO法人ふれあい自然塾を、個人資産を投入し設立。社会貢献活動に注力。</p> |
| 松浦 忠雄 | まつうら ただお | (株)エム・シー・オー | <p>□(株)エム・シー・オーは地域振興と企業経営のお手伝いをさせていただいている会社です。</p> <p>□(独)中小企業基盤整備機構の中心市街地サポートマネージャーは地域活性化支援プログラマーです。</p> <p>主な活動範囲は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域活性化への合意形成支援(組織づくり、事業推進体制の構築、活性化事業の精微、人材育成 他) ②商業施設の開発・運営支援(立地戦略、事業計画づくり、運営マネジメント 他) ③商店街再生支援(コンセプトづくり、空き店舗対策、新規創業者支援 他) ④販路開拓などのマーケティング支援(商品開発、販路開拓、販促 他) |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|----------------------|--|
| 松嶋 匡史 | まつしま ただし | 株式会社瀬戸内ジャムズガーデン | <p>手作りジャム専門店「株式会社瀬戸内ジャムズガーデン」代表取締役。周防大島観光協会副会長のほか山口県のキャリア教育推進委員や活力創出推進会議委員なども務める。</p> <p>2001年10月に新婚旅行先のパリでジャム屋と出会い2003年11月個人事業として手作りジャム専門店を高齢化率日本一と言われた瀬戸内の島、周防大島(山口県)にて創業。</p> <p>耕作放棄地を借り受けて自社農業部門を立上げ、現在はブルーベリー・あんず・金時いも・いちご等を生産。店舗では自家製ジャムを活用したスイーツが楽しめるカフェギャラリーを運営するなど、ジャム加工のみでなく、農業(一次産業)・加工業(二次産業)・サービス業(三次産業)をミックスした6次産業形態の事業を展開。地域を巻き込んだ6次産業化を実践している。地域資源を活用し、地域に産業と雇用を創出することを主眼に活動を展開し、現在では首都圏からの移住者を含めスタッフは30人の規模。最近はお寺と連携した空き家のリノベーションで移住者の呼び込みを行ったり、全国初の小中高連携起業家教育への取り組みなど活動は多種多様。2014年新書大賞受賞の「里山資本主義(角川書店)」などでその取り組みが紹介されている。</p> |
| 松島 信雄 | まつしま のぶお | (公益財団法人)南信州・飯田産業センター | <p>地域の中小企業の体質改革と新産業クラスター形成に取り組んでいる。事業は4つの柱を基本にしている。</p> <p>①ネットワーク形成と地域連携事業：広域連携としては新潟等との協力活動を展開している。飯田地域においては企業間の交流を通して相互の信頼を高め、協力風土の醸成を図っている。また産学公の連携で地域のポテンシャルアップに繋げている。</p> <p>②新産業クラスターの育成：航空宇宙クラスターの形成を重点プロジェクトとして位置づけている。</p> <p>4つのワーキングチーム活動を通してQMSの体制確立や技術の向上を図りながら地域一貫生産、共同受注を目指し、実績を上げている。</p> <p>③販路開拓支援：マーケティング機能を持たない中小企業にとって販路開拓は大きな課題である。</p> <p>海外も含めた展示会出展や顧客開拓支援に力を注いでいる。海外市場開拓支援としてParis, Farnborough, Belrin, Singapole, Toulouse, NBAA等のAirshowに出展参加してきた。</p> <p>④人材育成：技術・技能のレベルアップと後継者育成を目指して、働きながら学ぶ風土を醸成しようと産業技術大学を立ち上げ夜間、休日を中心に運営している。年間150社を超える企業から延べ2000人近い企業人が学んでいる。</p> <p>2014から地域企業人材共同育成事業の経産省委託を受け、プロジェクトマネージャーを務めている。航空宇宙のQAと生産技術コンサルティング、非破壊検査員の育成に取り組んでいる。</p> |
| 松村拓也 | まつむらたくや | 一般社団法人 日本土地資源協会 | <p>地域活性化とは「地域の担い手たちによる事業創出」のはずなのに、肝心な土地所有者が地域を諦め、土地や建物の放置が増えています。</p> <p>そこで、</p> <p>①土地の所有者と事業者と利用者の交流の促進 ②土地所有者による遊休資源に関する情報開示の促進 ③事業者や利用者による所有者への事業提案の促進</p> <p>に取り組むことで、所有者を事業者に・事業者を所有者に変化させ、「所有者による土地活用事業の創出」を促進しています。</p> |
| 松山 茂 | まつやま しげる | 宮崎商工会議所 | <p>7つの商店街と5つの大型店が連携した組織「Doまんなかモール」の設立と運営</p> <p>商店街・大型店と駐車場経営者が連携した駐車場共同利用システムの構築 商店・大型店が連携した販売促進イベントの実施 農業・生産者と連携した集客イベントの実施 地権者と商店街の役割分担によるアーケード等商業基盤施設の整備</p> |
| 政所 利子 | まんどころ としこ | 株式会社 玄(げん) | <ol style="list-style-type: none"> 地域/環境計画・総合プロデュース 地域計画・環境計画・公共事業・事業計画・産業活性化計画の総合プロデュース 地域ブランド・国産ブランド/商品開発・商品企画/人材教育 プロダクト・プランニング・ビジネスプロデュース・メディア計画 地域PR・SP計画の企画制作 SP企画、マーケティング計画、メディア計画、総合コミュニケーションプロジェクト 行催事の企画制作・実施/海外向け地域ブランドPR事業の企画制作 イベントのプランニングからのプロデュース、実施 グラフィック・エディトリアル・映像・立体デザインの企画制作 SP・PR・コピー編集、デザイン、展示映像制作等のマルチメディア企画 都市計画・地域計画・事業計画に関わるソフト事業の企画・設計と運営管理 地域計画に関連する人材教育の各種ツール制作、快適環境整備等のソフト事業設計 和学塾食会議事務局 国産食材のPR事業を通じて国内農産品生産地の活性化と次世代の後継者づくりに貢献します。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|------------|---------------------------------------|--|
| 三上 亨 | みかみ とおる | (一社) 政策集団地域再生青森会議 NPO法人グリーンエネルギー青森 | 2003年度 あおもり市民風力発電所建設(建設費3億8000万円) 2004年度 市民風車ブランド「風丸」(青森県在来種枝豆)の販売開始 2004年度 コミュニティビジネスと地域再生の支援開始 2005年度 市民・NPO・町協働の「鱒ヶ沢マッチングファンド」助成事業開始(～2008年度) 2005年度 グリーンエネルギー青森が、総務省から過疎地域自立活性化表彰を受ける。 2005年度 津軽鉄道・津軽鉄道サポーターズクラブの支援開始。 2006年度 都市再生モデル調査で、津軽鉄道再生に向けたアクションプランを策定。 2007年度 青森県大鰐町で、OH!!元気隊の設立を支援。町再生に向けたアクションプラン策定。 2008年度 津軽鉄道サポーターズクラブが総務省から過疎地域自立活性化表彰を受ける。 2008年度 元気隊有志がプロジェクトおおわに事業協同組合を設立。赤字施設「大鰐町地域交流センター鰐come」の指定管理受託決定。 2009年度 指定管理受託初年度で、鰐comeの黒字化を達成。 2012年度 プロジェクトおおわに事業協同組合が、地域づくり総務大臣表彰を受ける。 2016年度 大鰐町大鰐増産推進委員会地方創生事業受託 2016年度 プロジェクトおおわに事業協同組合が地域づくり国土交通大臣賞金賞を受賞 |
| 水谷 翔太 | みずたに しょうた | 天王寺観光協議会 | ○大河ドラマ「真田丸」放送に合わせた天王寺区内のまちづくりの推進 ○他、メディア、区政運営の経験を活かした講演活動、各種団体・地域のコンサルティング |
| 御園 慎一郎 | みその しんいちろう | 大阪大学/地域活性学会 | ・自治省入省後、地方税財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の提言を学ぶ ・サッカープレイヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002 FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共同開催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感や形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的事業における交渉力の大切さを痛感。 ・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。 ・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。 ・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性学会」の設立を提案。発足にも貢献。現在副会長として学会活動の進展、とりわけ学会スポーツ振興部長として2020東京オリンピックパラリンピックのホストタウン運動を契機とした地域づくりの支援活動を積極的に展開中。 ・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環としてJリーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現に。その延長線上の活動として医療介護のサービスの質の向上や究極の地域づくりである「地域包括ケアシステムの構築」に際して欠かすことのできないヘルスデータをクラウド上で管理することを目的とするNPO法人の活動を展開中。 |
| 宮 桂子 | みや けいこ | NPO法人 菜の花トラスト | '97菜の花サポーター(第1期)登録 |
| 宮城 治男 | みやぎ はるお | 特定非営利活動法人ETIC。(エティック) | (1)起業家型リーダー育成プログラム ・起業家、リーダーを志す若者をベンチャー・中小企業の現場にマッチングする「アントレプレナー・インターンシップ・プログラム」 ・ETIC.イノベーターズ・スクール(起業家講演会) (2)ソーシャル・アントレプレナー輩出プロジェクト ・社会起業家の事業基盤確立、ベンチャー企業とのマッチングを支援する「イノベーション・グラント」 ・社会起業家を志す若者のビジネスプランコンテスト「STYLE -Social venturecompetition」 ・社会起業塾イニシアティブ(NEC社会起業塾、花王社会起業塾、横浜社会起業塾) ・東海若手起業塾 ・個別プロジェクト経営相談会 (3)チャレンジ・プロデューサー輩出プロジェクト ・地域の若者と、挑戦する中小企業 ・地場産業等を繋げる「チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト」 ・地域の社会起業家、起業家型リーダーの発掘、育成 (4)大学や行政との地域協働プログラム開発 (5)震災復興リーダー支援プロジェクト |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-------------|-----------------------------------|---|
| 三宅 曜子 | みやけ ようこ | (株) クリエイティブ・ワイズ 株式会社マーケティング・ナビ | 女性の感性を生かし、消費者ニーズを的確にとらえた中小企業のマーケティング全般の支援、地域の活性化事業支援を行っています。特に食関連のマーケティングに関しては、メニュー開発をはじめとする商品開発、パッケージやラベル、広告戦略、販路開拓までトータルに支援。工芸品に関しては、広島県熊野町の化粧筆を世界レベルのブランドにプロデュースしてきた。商品開発から戦略支援までを実施。2007年、経済産業省の中小企業地域資源活用事業プログラムの政策審議会委員、また、衆議院経済産業委員会、中小企業地域資源活用促進法案参考人として国会に立ちました。以後、地域資源を活用した商品開発や販売促進、販路開拓、観光事業開発、農商工連携事業や農業の六次化、建設業の業態拡張や業態転換、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、海外展開支援等、中小企業の活性化に対する幅広いハンズオン支援を行っています。 |
| 望月 孝 | もちづき たかし | 株式会社プロジェクト地域活性化 | 東北地域において、地域の人財育成・確保、農商工連携等6次産業化・地域ブランドの推進、観光・ツーリズムの推進等、地域の「人財」を核にして地域活性化を支援しています。現在、東日本大震災からの復興農商工連携等6次産業化による地域の活性化に重点を置き、東北地域の6次産業化を担う人財を育成・確保する『6次産業化プロデューサー育成塾』『東北のムラで働き隊！プロジェクト』等の取組みを実施しています。 |
| 森 昭彦 | もり あきひこ | 有限会社オフィス・ビー／一般社団法人奈良県中小企業診断士会 | ・地域産業振興を軸にした地域活性化、農林業活性化や地域資源活用を軸にした地域活性化、観光やDMO形成を軸にした地域活性化等、多様な形で地域活動を支援しています。 |
| 森賀 盾雄 | もりが たてお | 愛媛大学 | 長年、市行政の内部と外部を結び、研究会や市民団体を組織して、地域づくり・産業おこしに取り組んできた。それらの成果を生かして全国で講演・地域づくりの支援・アドバイス・企業社員研修等を行ってきた。とりわけ地域資源を活かした地域づくり・人材づくり・産業遺産の活用・産業観光・NPO活動で実績を残している。市職員から大学教授になり教育・研究を進めており、環境・農山漁村の地域再生や起業論をも対象とした幅広い分野での対応・取組となっている。テーマとしては「地方工業都市の産業文化創造都市への発展」「産業遺産を活用した地域づくり」「これからの地域づくりの主体形成とマネジメント及びマーケティング」「地域起業マネジメント」等である。愛媛大学での「紙産業修士コースの創設」、社会人「地域マネジメントスキル講座」の開設で中心的役割を担い、後者では150名の受講修了生を愛媛大学地域再生マネージャーとして送り出している。2014年度からは愛媛大学地域再生マネージャーのさらなる学びのための「地域再生塾」、「須崎未来塾」、「いはま未来創造塾」の塾長として、講座を超えた「私塾の実践的人財づくり」を精力的に取り組んでいる。 |
| 森本 明夫 | もりもと あきお | - | - |
| 森山 明能 | もりやま あきよし | 七尾自動車学校／株式会社御祓川 | 故郷である石川県七尾市をベースに、民間まちづくり会社のシニアコーディネーターとして地域や企業の担い手の挑戦をサポートしています。地域ネットワーク機能／インターンプロジェクトの開発・マッチング・実施運営／クラウドファンディング募集サポートなど複数の支援メニューを組み合わせて「マチ・ミセ・ヒト」の関係性の再構築を目指しています。特に、「能登留学」では、これまでに200名を超える大学生（内、長期100名超）と地域の企業／組織をつなげ、受入先の改革・活性化を支援すると共に、若手人材の地域誘致に結びつけて来ています。また、上記のサービスについて効率よく利用してもらうことと地域の人財育成を組み合わせたプロジェクトとして、2015年10月からはコミュニティ大学「御祓川大学」の運営もスタートしました。近年は、能登と首都圏の人や組織を結びつけて実施するプロジェクトのコーディネーターに多く携わっています。具体例として、丸の内朝大学では、地域プロデューサークラス受講生受入をきっかけに能登島地区の若手経営者・公務員・漁師などが集まったコミュニティ組織「能登島観光協会青年部」の発足に携わりました。同組織が主催しているコミュニティ型観光プログラム「うれし！たのし！島流し！」はリピート率6割を超える人気プログラムに成長し、能登島の地域づくり人財の育成と東京における能登島コミュニティの醸成に繋がってきています。このように七尾自動車学校（家業）も含めた地域内での活動をベースとしつつも、能登のトライセクターリーダーとして活躍していけるよう、能登／首都圏、民間／行政、公／私などの隔たり無き活動を行っています。 |
| 安井 潤一郎 | やすい じゅんいちろう | NPO法人全国商店街まちづくり実行委員会 | 環境を切り口とした商店街活動に取り組み、「ごみからまちおこし」として注目を浴びる。何も無い早稲田の町に日本中の修学旅行の生徒が見学に来る、「ごみ減量リサイクル」が「震災対策事業」「地域通貨事業」「まちづくり」へと進化し、定住人口が増加という奇想天外な「まち場」の活動を展開中。 |
| 箭内 武 | やない たけし | 株式会社YANA I 総合研究所 | 1. 改善コンサルティング（セル生産方式） 材料メーカー、家電、電子部品、機械加工、製造工場の現場改善を中心としたコンサルティング。調剤薬局の在庫削減、労働時間の改善など。 2. 人財育成 青森県、八戸市等の人材育成プログラムに従事。高校生、大学生、社会人の研修講師として活動。 八戸学院大学客員研究員として地域社会人向けセミナーを行う。 3. 企業マッチング支援 ものづくりコーディネーターとして産学官の連携、企業の国内外のビジネスマッチングを企画実施。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|---------------------------|--|
| 矢原 正治 | やはら しょうじ | 山口東京理科大学薬学部、 熊本有用植物研究所 | <p>私は、地域には多くの「宝」が眠っているが、日常生活の中で当たり前となっており、地元の方は気づかないことが多いため、地元以外の専門家が、現地に入り、聞き取り調査を実施すると、その地域の多くの「眠れる宝」を見いだすことができると思っている。また、1次に、2次、3次を足して、6次産業と言われるが、情報関係が入っていないため「6次産業+情報産業」を進める。</p> <p>地域にある、モノと人の宝を探し、まず、薬用植物、有用植物にフォーカスした、地域おこしを主とし、環境関係も絡め考える。</p> <p>ネパールのAITM大学の生物工学科の学生に講義と実習を行っています。また、ネパール日本友好財団に参加し、田舎の子供達の教育の向上を行っています。</p> |
| 山川 進 | やまかわ すずむ | 公益財団法人 三重県産業支援センター | <ul style="list-style-type: none"> ・「企業誘致」…製薬会社、外資系企業など大型企業誘致を実現。東京、福岡において「SOHO(スモールオフィス・ホーム)形態」での企業誘致活動を行い、企業・行政との新たなネットワーク構築を行う。 ・「新たな企業投資促進制度の創設」…マイレージ制度、マザー工場化の促進などを柱とする新たな制度を創設し、県内への企業投資を促進。 ・「コンビナートの再生」…行政・産業界が協働した、規制改革や新たな産業展開の内容をパッケージとし、構造改革特区に申請、第1号認定を受けることに尽力する。 ・「様々な連携」…「地域発のオフショア/ハイブリッド」を行う「高度部材イノベーションセンター(AMIC)」を三重県四日市市に設置。地域の産業構造の「知識集約型産業構造」への転換を目指す。ここで、現在も異業種・同業種連携、大企業と中小企業の連携、各種課題解決、産業人材の育成などを行っている。 ・「温泉街の活性化」…三重県菟野町の湯ノ山温泉にて、各業者での取組を地域一丸となったものへとコーディネートし、「女将の会」結成などにつなげる。 ・「町おこしリーダー研修」…三重県紀北町の町おこしリーダー研修にてアドバイザーを務め、研修生の成果を行政や地元産業界とも連携した継続的な取組へと繋げる。 ・「中小企業連携(シンジケート)の促進」…複数のものづくり中小企業が得意とする技術やノウハウを結集し、技術レベル向上や新たなマーケット開拓などにつなげるための中小企業連携体の構成に尽力。三重県には全国トップクラスの連携体が構成されるに至っている。 ・「三重県海外ビジネスサポートデスクの開設」…成長する新興国等の市場を取り込むため、中小企業の海外展開を支援する「海外ビジネスサポートデスク」(中国、ASEAN)の設置に尽力。 ・「三重県と北海道との産業連携」…「『三重県・北海道』産業連携推進会議」の設立に尽力。三重県と北海道の「ものづくり技術」と「地域資源」の連携を進め、新たなビジネスの創出、さらには地域経済の活性化に繋げる。 ・首都圏営業拠点「三重テラス」…東京日本橋において、三重県の魅力を総合的に発信する拠点「三重テラス」の開設に尽力。 ・三重県中小企業・小規模振興条例の策定に尽力 ・職員研修センターで県職員向けの研修を実施。三重県職員の人づくりの参画、三重県の商工部門の第1人者として活躍した経験に基づき、自ら研修講師として三重県職員に語りかけることで、現場を大切にしている職員を育成。 ・経済産業省の「ひとつづくりの切磋琢磨による地域創生実行会議」の委員として参画。 ・沖縄県と連携して、沖縄の物流特区を活用した東アジア戦略を模索するほか、他地域との連携を検討中。さらに地域のコアとなる中小企業との連携を深めて、海外への販路拡大や現地での人材育成の取組を進める。 ・各地の事業者や産業支援機関と連携し、地域商社等を通じた地域産品の販売や中小企業が連携した新たなビジネスや人材交流を促進。 |
| 山岸 國耿 | やまぎし くにあき | 公益財団法人 長野県テクノ財団 | <p>長野県テクノ財団は、県内の製造業を技術力向上の面から支援し、産学連携による共同研究開発や人材育成事業などを実施しています。技術者等の参加者数が年間延べ2万名余と年々増加し、企業等からの期待の大きさをうかがわれています。工業振興に係わる様々なソフト事業を実施しており、「ソフト事業の殿堂」とも言われる程多くのノウハウが蓄積されています。</p> <p>私自身は、この財団の前身である長野県テクノハイランド開発機構が設立された昭和61年以来4回、延べ13年間当財団に勤務し、先輩等の指導と仲間の協力を頂きながら、その一端を担わせていただきました。</p> |
| 山口 成美 | やまぐち なるみ | 有限会社 シュシュ | <p>地域農業の活性化を目指し平成8年にビニールハウスで農産物直売所をオープン後様々な施設を建設し、現在では農業交流拠点施設おむら夢ファームシュシュに年間49万人の来場者を迎えており従業員数約80名で地域の活性化及び雇用に大きく役立っている。</p> <p>また、六次産業にも積極的に取り組んでおり、アイス、パン、洋菓子、レストラン、農産物加工センター等で地域で採れた農畜産物を加工販売することにより農家の所得向上と付加価値を高めた地域ブランド商品作りを行っている。他にもグリーンツーリズムによる地域の活性化も行なっており、イチゴ、梨、ブドウ、ブルーベリー等の観光農園や農家民泊にも取り組んでおり、都市と農村の交流を行なっている。</p> |
| 山下 真輝 | やました まさき | 株式会社ジェイティービー 旅行事業本部 観光戦略室 | <p>これからの「観光」は、異業種・異分野の人びとや様々な産業を融合することによる新しい価値創造の「場」として、取組まなければならないと考えています。新しい時代の観光振興は、宿泊施設、交通機関、観光施設等の狭義の観光産業による観光振興ではなく、様々な分野の産業を連動させ、現代社会の消費者が求める価値をつくり出すための連携の場をつくり出す必要があり、地域の未来を考えている住民の方々とのワークショップやセミナーを通じて、地域を目指すべき姿や観光地域づくりのコンセプト探しを行っていきます。更には地域のコンセプトに沿ったシティプロモーション戦略、着地型旅行商品づくり、地域資源の6次産業化など観光を基軸とした地域活性化に取組んでいます。最終的に様々な事業を推進するリーダーシップ人材の育成が不可欠であり、立場や自分の利害を超えて行動することができる観光地域づくり人材の育成もサポートさせていただきます。全国各地の観光地域づくりに関わってきた経験と常にマーケット動向を見ている旅行会社の視点を持って、地域活性化に取組んでまいりたいと思います。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|------------|-----------------------|---|
| 山田 桂一郎 | やまだ けいいちろう | JTIC. SWISS | <p>これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。</p> <p>また、政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザインであったとしても人間社会の「エゴ」と「利害」により全てが崩壊します。</p> <p>多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲労している現実があります。地域住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。</p> <p>このような状況から脱出するためには、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組む必要があります。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域が生き残るために住民の方々と共に考え、実践しています。</p> |
| 山戸 健 | やまと たける | 熊本ネクストソサエティ株式会社 | <p>官・民連携をテーマに、特にITを活用した食の流通促進の仕組みを構築してきました。</p> <p>□経済産業省・農林水産省 農商工連携事業 認定 「不知火海など熊本近海で採れる生鮮魚介類の新流通システム構築事業」</p> <p>□熊本市 平成23年～25年 こだわり熊本やさしい地域内流通モデル支援業務</p> <p>□熊本県 商工観光労働部テーマ選択型地域雇用創造事業 「熊本県の農林水産業者・食品加工業者への情報提供による新商品開発および販路開拓機会の創出」</p> <p>□熊本市 地場企業雇用支援事業 「県内外からのお問い合わせに対応する、熊本市の生産物・加工品・6次化商品等の検索システム開発による販路拡大支援事業」</p> <p>□フード・アクション ニッポン (共催：農林水産省) 平成25年度 フード・アクション ニッポン アワード 流通部門 優秀賞 「「フードバンク」を活用し「顔の見える生産者」を発信」</p> |
| 山中 守 | やまなか まもる | 国立大学法人 熊本大学 | <p>ICTが普及すればするほど東京と地方の格差が拡大してきており、本来の情報化による地域格差は正への期待とはかけ離れてきています。この原因の一つはネット社会の特性を活かすための工夫が、地方自治体の職員に必要ですが、その学習の機会が少なすぎることと思います。</p> <p>具体的な取り組み事例を通して、地域活性化におけるICT活用の有効性と認識を高めて行けるよう取り組んでいます。</p> |
| 山本 和子 | やまもと かずこ | 有限会社農業マーケティング研究所 | <p>★委員会など★ ● 農林水産省農林水産政策研究所参与 (2002年～2006年) ● 農林水産省独立行政法人評価委員会委員 (2003年～2007年) ● 農林水産省政策評価会農村振興局専門部会委員 (2004年～2007年) ● 農林水産省政策評価会経営局専門部会委員 (2004年～2007年) ● 内閣官房地域活性化統合事務、局首都圏地域活性化推進連絡会議委員 (2007年 3月～2011年) ● 内閣官房地域活性化統合事務局「地域活性化伝道師」(2008年9月～)</p> |
| 横山 幸司 | よこやま こうじ | 国立大学法人 滋賀大学社会連携研究センター | <p>私は大きくは次の4つの方法によって地域の課題に取り組んでいます。</p> <p>1つ目に、国や地方自治体の各種行政委員会等への委員等としての参画です。一般行政から教育行政まで、各種行政計画や方針の策定等に携わっています。</p> <p>2つ目は、自治体や団体が実施される研修会等の講師です。自治体職員向けや、企業向けの専門的な研修から、一般市民向けの講演までTPOに応じた講演を実施しています。</p> <p>3つ目は、自治体や団体が実施される研究会やワークショップ、フォーラム等の座長、コーディネーター、ファシリテーター、メンターとしての参画です。</p> <p>4つ目は、自らが大学としての「学」の役割を踏まえて事業を主催あるいは共催するものです。「淡海公民連携研究フォーラム」や「地域ブランド戦略フォーラム」など産官学金のネットワークの構築、「滋賀大学地域活性化プランナー学び直し塾」や「近江八幡市未来づくりキャンパス」などの地域人材育成システムの企画・運営により、地域経済の活性化、地域人材の育成に取り組んでいます。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|--------------------|---|
| 吉井 靖 | よしい やすし | 株式会社うぶすな | <p>2000年に立ちあげた弊社は、平成15年から「地域活性化」の事業を先駆けて実施。事業展開を全国各地で展開している。平成28年～平成32年の事業テーマを「Inbound&Outbound,DMO」とし、注力事業としてDMOコンサルティング、地域のインバウンド支援、地域情報サイト制作、MICE運営に取り組んでる。内閣府の地域活性化伝道師や、総務省の地域力創造アドバイザーに登録されている代表の吉井靖を中心として、日本中の地域でコンサルティング活動を行っている。</p> <p>男鹿市ではDMO形成の前の市民意識醸成施策として、地元中学生が大人たち（市職員、観光アドバイザー等）と一緒に地元の観光プログラムを作成。情勢や旅行代理店への交渉（プレゼンテーション）まで実施。地元の魅力の発見と郷土愛を育むきっかけとなり、進学や就職でまちを離れた後も、いずれは戻ってきたいと思う次世代を育成する機会となった。また、地域課題が抱える課題に対し、確かな成果をあげたことが評価され、2017年度にJLAA地域創生アワード優秀賞を男鹿市職員とともに受賞した。</p> <p>茨城県鹿行地区では、5市の地域連携DMOのアドバイザーとして、「アントラーズ・ホームタウンDMO」の形成を図った。その他サービスとして、インバウンド誘客の為にサービスメニューを持っており、特に、海外放送局招へいサービスは、インバウンド誘客展開を図りたい自治体に高く評価され、東北観光推進機構のご依頼で、18年1月に東北六県の冬をテーマとした旅番組を招致し、台湾で地上波放送と、二次使用によるネット展開を実施している。民間会社においては、地方創生に取り組むにあたってのビジネスコンサルティングを担当している。2017年10月観光庁の後援を頂き、観光マーケティング実務責任者養成講座を開設し、全国のDMOの課題であるCMOの育成に取り掛かっている。</p> |
| 吉田 敦也 | よしだ あつや | 徳島大学 地域創生センター | <p>取組内容</p> <p>徳島大学フューチャーセンターA,BAディレクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フューチャーセンターの構築運用、デザイン思考ワークショップ、イノベーション創出、人材育成 <p>上勝自然学校「もりのべ」統括ディレクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「場」を基礎にした学びのプログラム開発、地域/国際連携による実践、子育て支援への応用 <p>NPO法人いきいきネットとくしま理事長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアICTリテラシー形成支援活動、会員約260名 <p>総務省事業「とくったー」プロジェクトリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンとツイッターによる高齢者の見守りシステムの開発と実践 |
| 吉富 慎作 | よしとみ しんさく | 特定非営利活動法人 土佐山アカデミー | <p>■特定非営利活動法人土佐山アカデミーの取組み</p> <p>土佐山アカデミーは「次の100年のために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場づくり」というミッションを掲げ、5つの事業ドメインを展開し、年間を通して開催している短期・長期ワークショップや研修には事業開始から延べ9,800人以上が受講しています。</p> <p>【TOSAYAMA ACADEMY（循環型の生活を地域の方から学ぶワークショップ群）】 は、日帰りから3ヶ月滞在型プログラムまで、地域の課題を資源と捉え、それに基づいた年間12本以上のワークショップを展開。</p> <p>【土佐山ワークステイ（中長期滞在支援サービス）】 都会の方に「家を貸し、車を貸し、コネを提供する」土佐山に滞在し、土佐山のための仕事をする方へのプログラム。</p> <p>【EDGE CAMP（中山間地域特化型起業家養成プログラム）】 「雇用がないだけで、仕事はある」。地域での仕事の作り方を6ヶ月間かけて仲間と共に学んでいくものであり、日本財団より補助を得て実施している。</p> <p>【TOSAYAMA Creative Camp（企業・団体研修）】 平成27年から実施。地域の課題を研修教材へと編集し、地域おこし協力隊の研修のみならず、高知県庁、大手企業本社等からの人材育成研修を行っている。</p> <p>【コンサルティング サービス】 企業の事業企画、他地域の地域づくり、交流人口増加のためのコンサルティングや行政の委託事業受注等。</p> <p>■受賞歴</p> <ul style="list-style-type: none"> 2014年環境省グッドライフアワード 環境と学び特別賞 2016年農林水産省 オーライニッポン大賞受賞 |
| 吉永 茂 | よしなが しげる | 吉永公認会計士事務所 | <p>①事業承継対策・企業再生対策</p> <p>②中小企業の財務診断・資金繰り対策</p> <p>③企業のM&A・企業再編成対策</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|------------|-----------------------|---|
| 米田 雅子 | よねだ まさこ | 慶應義塾大学 研究連携推進本部 | 2007年～2010年に内閣府規制改革会議委員(地域活性化、農林水産業、あじさい・もみじ要望を担当)。補助金適化法の弾力運用、ボランティア有償運送の実現、農地法・酒税法・森林法改正に寄与。構造改革特区評価・調査委員、PFI推進委員会委員、経産省の農商工連携88選委員長等を歴任。農商工連携、林建協働、平成検地の政策を提唱。現在は、建設産業、建設業の複業化、防災、森林再生、地方公共政策など幅広い分野で、フィールドワークを重視した研究と支援活動を行い、大震災後の防災・減災政策にも取り組む。日本学術会議会員。建設トップランナー倶楽部代表。上閉伊地域(釜石、遠野、大槌)復興住宅協議会顧問。JAPIC(日本プロジェクト産業協議会)森林再生事業化委員会特別顧問。国産材マーク推進会特別顧問。防災学術連携体(日本学術会議と連携)幹事。 |
| 若新 雄純 | わかしん ゆうじゅん | 慶應義塾大学 | <p>なにが正しいのか、だれの言っていることがまともなのかよくわからない成熟した社会環境の中で、世代や価値観の異なるさまざまな人々が立場や役割を超えて関わりあうことができ、「新しい何か」を創作できる創発的なコミュニケーションの仕組みづくりや場作りを研究しています。</p> <p>例えば、大人と子ども、男性と女性、専門家と素人といった対象的な人々が、だれかを「先生」に仕立てあげることなく、自由に対等な空間で一緒に議論や活動ができるような、やわらかくひらかれた環境をつくり続けています。最近では、地方のまちに、都会からの移住者などいわゆる「よそ者」がゆるやかに溶けこんでいくための政策などにも興味を持って取り組んでいます。</p> <p>巷ではそれを「オープン・イノベーション」と言ったりするようですが、いきなり「つくる」というプロセスにばかり注目してしまうのではなく、まずはこれまであった常識や価値観、仕組みを疑ってみて、ときには手放したり、ゆるめたりすることを重視して活動しています。</p> |
| 渡邊賢一 | わたなべけんいち | 株式会社XPJP、一般社団法人元氣ジャパン | <p>2018年 ダイヤモンド・ルート・ジャパン 総合プロデューサー (福島県、栃木県、茨城県)</p> <p>2017年 ダイヤモンド・ルート・ジャパン 総合プロデューサー (福島県、栃木県、茨城県)</p> <p>ローカル・エクスペリエンス・デザイン事業 総合プロデューサー (復興庁)</p> <p>The Study of ISE 事業 総合プロデューサー (伊勢市)</p> <p>2016年 SAGA - NOBU 事業 総合プロデューサー</p> <p>2015年 有田焼400周年 (佐賀県庁)</p> <p>2014年 クールジャパン・ワールド・トライアル事業 総合プロデューサー (経済産業省)</p> <p>2013年 日本食フランス展開事業 総合プロデューサー (農林水産省)</p> <p>2012年 クールジャパン・フランス事業 Village Japon 総合プロデューサー (経済産業省)</p> <p>2011年 フィレンツェ日本映画祭 総合プロデューサー</p> |